

筑波大学博士（言語学）学位請求論文

フランス語における対立を表す連結辞の研究

田代 雅幸

2018年度

はじめに	1
------------	---

第 1 章 先行研究の用法分類と構図の対称性	10
------------------------------	----

1.1. Danjoux-Flaux (1983)	10
1.1.1. 発話内行為のマーカー	10
1.1.2. 談話的反意の操作子	12
1.1.3. 談話的連結辞	13
1.1.4. 構図の対称性による用法の再分類	16
1.2. Ducrot (1984)	18
1.3. Rossari (2000)	19

第 2 章 対立の意味構造	24
---------------------	----

2.1. au contraire のふたつの用法と生起環境に関わるパラメータ	25
2.1.1. 視点的な差異がもたらす対立	25
2.1.2. テーマ的な差異がもたらす対立	28
2.1.3. 対立構造の図式化	29
2.2. 各環境における連結辞の生起分布	32
2.2.1. 1 枠別視点型と 2 枠同視点型	32
2.2.2. 1 枠同視点型の環境	36
2.3. au contraire と en revanche : 意味論的制約の違い	38

第 3 章 au contraire の用法群とその理論的記述	41
---------------------------------------	----

3.1. au contraire における 3 用法	41
3.1.1. 1 枠別視点型 : 反駁用法	41
3.1.2. 2 枠同視点型 : 対比用法	44
3.1.3. 1 枠同視点型 : 選択保留用法	45
3.2. 理論化と意味構造の境界	46
3.2.1. 枠と分割 2 枠型	47

3.2.2. 判断者と2判断者タイプ	50
第4章 対称的構図に生起する対立表現	55
4.1. par contre と en revanche	55
4.1.1. 先行研究：par contre と en revanche の意味論的機能	57
4.1.1.1. par contre	57
4.1.1.2. en revanche	59
4.1.2. 両連結辞に違いを見出すことができるか	60
4.1.2.1. 先行研究の見解	60
4.1.2.2. 収集した例文による分析	62
4.1.2.3. 社会言語学的な影響	68
4.1.3. レーマの両立可能性	71
4.2. à l'inverse と à l'opposé	75
4.2.1. à l'inverse と à l'opposé の共通する特徴	76
4.2.2. à l'opposé と à l'inverse の相違点	81
4.2.2.1. 空間用法の有無	81
4.2.2.2. 反駁構造における使用	86
第5章 非対称的構図に生起する対立表現	89
5.1. 非対称的構図の au contraire と論証の動き	89
5.1.1. 論証の動きと視点の組み合わせ	89
5.1.1.1. 基本的な論証の動き	89
5.1.1.2. 肯定形で行われる否認	92
5.1.1.3. 後件が非明示的な場合（独立用法）	94
5.1.2. 話者が主張しないレーマの導入	97
5.1.2.1. ある議論を喚起する要素の存在	98
5.1.2.2. 譲歩的な文脈が担う場合	98
5.1.2.3. 譲歩的でない前提部がある場合	100

5.1.2.4. テーマ自体が議論を喚起するタイプ	102
5.1.2.5. 特定の要素が見いだせない例	103
5.1.2.6. 記事タイトルにおけるバリエーション	105
5.1.2.6.1. 前提部とテーマの結びつきが議論を喚起する場合	105
5.1.2.6.2. テーマのみで議論が喚起される場合	106
5.1.2.6.3. 本文中に文脈要素が見いだせる場合	107
5.2. Loin de là	108
5.2.1. au contraire との違い	110
5.2.1.1. 後件のレーマの不在	110
5.2.1.2. 前方文脈と前件のレーマの関係性	114
5.2.2. loin de là の対立	118
 第6章 対話に現れる対立	121
6.1. 相手の発話が疑問文の場合	122
6.2. 相手の発話が疑問文でない場合	128
 第7章 日本語の対立表現との比較 —「それどころか」を通して—	139
7.1. 「どころか」と「それどころか」	141
7.1.1. 「どころか」	141
7.1.2. 「どころか」から「それどころか」へ	146
7.2. 「それどころか」と論証の動き	149
7.2.1. 延伸型 : P と Q	149
7.2.2. 対極型 : P、 \neg P と Q	151
7.2.3. 延伸型 : P の前段階の主張 O	152
7.2.4. 論証の3段階の動き	156
7.3. 「それどころか」まとめ — フランス語との比較 —	160
 おわりに	164

注 167

参考文献 179

参考資料：4.1.節「par contre と en revanche」の記事 URL 183

はじめに

言語現象には、同等、対立、譲歩、因果（原因、結果）、目的、付加、選択、条件あるいは同時も含めた時間的な前後の関係をはじめ、関係性を規定するために用いられる最も基本的な概念群がある。今挙げたような各概念群は、例えば次のような表現で表されるものである。

同等：

- (1) Il sera pharmacien comme son père. (Delaunay et alii, 1991 : 302)
彼も父親のように薬剤師となるだろう¹。

対立：

- (2) Cette vieille dame mène encore une vie très active, alors que son mari ne sort presque plus. (ibid. : 276)
その老婦人はいまだ元気に動き回っているのに、彼女の夫はもはやほとんど外出しない。

譲歩：

- (3) Mon oncle parle très mal espagnol ; pourtant il a vécu quinze ans à Madrid. (ibid. : 181)
叔父はスペイン語がとても下手である。マドリードに15年住んでいたにもかかわらずだ。

因果（原因／結果）：

- (4) Il n'y avait pas de taxi; alors, j'ai dû prendre le métro. (ibid. : 182)
タクシーがなかったので地下鉄に乗らざるを得なかった。

目的：

- (5) Il y a toujours un agent de police devant l'école pour que les enfants puissent traverser la rue en toute sécurité. (ibid. : 255)
小学校の前には常に警察官が居て、子供達が安全に道を渡れるようにしています。

付加：

- (6) Elle rentre chez elle et elle allume la radio. (ibid. : 10)

彼女は家に帰り、ラジオをつける。

選択：

- (7) Le Président ou le Premier ministre accueillera le chef d'Etat étranger à la descente d'avion. (ibid. : 23)

大統領か首相が飛行機から降りてくる外国の国家元首を迎える。

条件：

- (8) Je veux bien emmener votre fils en bateau, à condition qu'il sache nager. (ibid. : 9)

息子さんを船にお連れしたいと思うのだが、彼は泳げるのかい？

時間的な前後関係（同時）：

- (9) Quand le printemps arrive, tout le monde a envie de sortir. (ibid. : 9)

春が来ると皆外出したくなる。

本研究は、そのひとつである対立という概念がどのような類型を持って現れるのかを、フランス語の対立を表す連辞群の振る舞いから見出すことを目的とするものである。対立あるいは **opposition** という概念には様々な規定のされ方が考えられるが、ここでは言語現象としての対立を「連結辞等を用いて言表間の差異が表現されること」と定義したい。フランス語の、例えば **au contraire** や **en revanche** といった表現が一般に対立表現であるとされるのは、一概にこれらの表現を用いることによって話者が前後の言表の差異を問題していると明示するからに他ならない。逆にディスクールの中に対立があると認められるには、そのような言語記号を用いて対立の存在が明示されている必要がある、というのが言語学的な一つの立場でもあろう。そして、対立という一般概念にこのような言語学的な定義を行うのは、まさに本研究の問いが、「対立とは何か」という論理学、あるいは哲学的な問いではなく、「対立という概念は言語現象の中でどのように現れるか」とい

う類型論にあるからである。すなわち、対立をマークする連結辞の振る舞いを観察することにより、この概念のあり方を考察しようというものである。そのため、本研究では、対立以外の関係性を提示する可能性がある *mais* や *pourtant*、*alors que* などの表現を避け、比較的その表現を構成する語彙が対立を明示していると考えられる連結辞的な機能を持った連辞を観察対象とする。具体的には、本研究で扱ったフランス語の連結辞は *au contraire*、*en revanche*、*par contre*、*loin de là*、*à l'opposé*、*à l'inverse* である。

対立という言葉現象を上記のように定義した時、対立には対比や反駁といった在り方が想定できる。対比は「二つのものを並べ合わせて、違いやそれぞれの特性を比べること」、反駁は「他人の主張や批判に対して論じ返すこと」としよう（共に『デジタル大辞泉』『小学館』より抜粋）。次のような対比や反駁の文の中に *en revanche* や *au contraire* といった形での対立を見ることができる。

対比：

- (10) La moisson a été médiocre, *en revanche* la récolte des fruits a été excellente. (Dictionnaire du français contemporain, 1971)

麦の収穫はパツとしなかった、反対に果物の収穫は見事なものだった²。

反駁：

- (11) Pierre est très intelligent. — *Au contraire* ! Moi, je le trouve complètement idiot. (Danjou-Flaux, 1984 : 77)

「ピエールはとても頭が切れる。」「とんでもない。僕に言わせればやつは愚鈍そのものさ。」

では、対比や反駁といった行為そのものはどのように分析できるだろうか。

「二つのものを並べ合わせて、違いやそれぞれの特性を比べること」であるところの対比は、その対象がふたつ存在することがきっかけで行われる比較の一形態である。比較される以上、その対象は一旦並置され、対等な立場で扱われる必要がある。比較する前から対象双方の違いがはっきりしていればもはや比較の意

味は無いだろう。対比の行為主体はアプリアリには対等な事物を比較を通して差異化するのである。したがって、対比が行われる時、その行為主体から見て対比される事物は図1のように行為主体から見て対称的に配置されているということになる。この対称性こそ、対比を特徴付けるものであると言える。

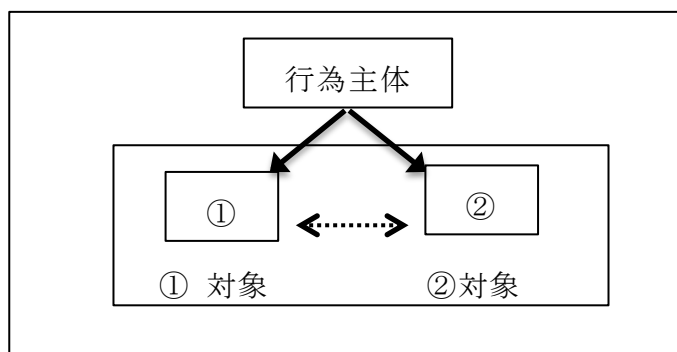


図1：対比の行為主体に対する各対象の配置（対称的構図）

では、反駁はどのように捉えることができるだろうか。反駁が「他人の主張や批判に対して論じ返すこと」であれば、これを行うためにはまず主張する他者の存在が必要だろう。これが前提にならなければ反駁を行うことは不可能である。前提となるこの他者の主張は、反駁の行為主体が受け入れない主張である。この他者の主張をきっかけに、行為主体が自らの主張を行うことで反駁が成立する。当然後者の主張は前者の主張と相容れないものである必要があるだろう。つまり、反駁という行為を成り立たせる要素には、自分（行為主体）と他者、それに付随して自分の主張と他者の主張があると分析できる。そして、図2のように行為主体から見た時の、自分の主張と他者のものであって自らが受け入れない主張の間の非対称性がその特徴となるのである。

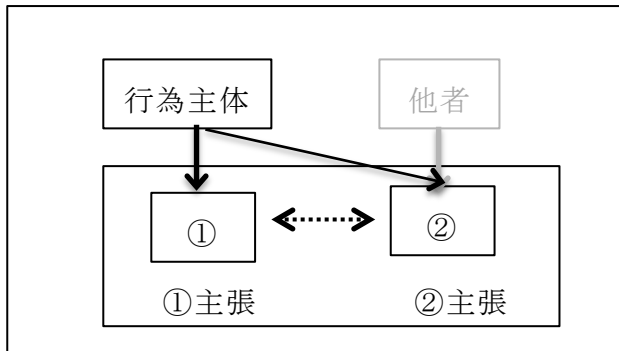


図 2：反駁の行為主体に対する各主張の配置（非対称的構図）

対立を内包する行為のふたつのパターンとして対比と反駁という行為を問題にした時、対比の示す構図は対称的である一方、反駁の構図は行為主体から見て非対称的である。このような違いがあるにもかかわらず対比と反駁がどちらもその行為の中に対立を内包しうるのはなぜだろうか。それは、いずれの行為もふたつの事柄が異なっていることを表現しうるものだからである。対比であれば比較の対象であるふたつの事物が、反駁であれば他者の主張と行為主体の主張が違っていることを表現し、これが対立の存在を可能にしているのである。逆に、対比と反駁をめぐるこの対称性の違いを考えた時、その原因はこの「ふたつの事柄」と行為主体との距離感の違いにあるとも言えよう。対比の行為主体はふたつの事柄、つまり比較されるふたつの事物のいずれにも与せず、いわば中立である。対立関係の外側に位置していると言ってもよい。一方、反駁におけるふたつの事柄、つまりふたつの主張の片方は他者のものであり、片方は行為主体のものである。つまり反駁における行為主体は、ふたつの事柄のいわば属性として存在し、対立の内部に組み込まれているのである。

ところで、反駁に代表される非対称的構図と対比に代表される対称的構図は、実は対立の在り方の大きな2分類を成すものであると言える。例えば、次の場合のように、予想を裏切る現実を述べる時、その構図は非対称的である一方、ふたつの可能性が述べられる時、その構図は対称的である。

予想を裏切る現実を述べる場合：

(12) Pierre n'est pas revenu fatigué, mais *au contraire* en pleine forme.

(Danjou-Flaux, 1980 : 127)

ピエールは疲れて帰ってくるどころか逆にピンピンしていた。

ふたつの可能性が述べられる場合：

(13) J'irai à Paris ou *au contraire* je resterai en banlieue. (ibid. : 126)

パリに行くか、あるいは反対に郊外に留まるか。

予想を裏切る現実を述べる時、予想された事態は、現実の事態に対して現実とならなかった事態として述べられるため、予想された事態と現実の事態の構図は非対称的となる。これに対して、ふたつの事態が可能性としてのみ述べられる場合では、そのふたつのどちらが選択・実現されるかは明らかになっておらず、ふたつの事態はただ対称的に述べられることになる。このように、対立の成立するあらゆるパターンは対称的・非対称的構図のいずれかに分類される。ここに共通する要素は、異なるふたつの事柄の存在であり、これが対立の成立のための最低条件であると言えるが、このふたつの事柄が対等に扱われるかそうでないかが対立の在り方を分類する最初の基準であり、その違いは構図の対称性として表される。そして、ここから始まる対立をめぐるその環境の類型は、本研究における対立の定義の一部をなすところの一連の連結辞および類似表現の観察・記述から導かれるのである。では、本研究の主な観察対象である連結辞は、言語の中でどのように機能しているのだろうか。

『フランス語学小事典』によれば、連結辞とは「談話の中で、二つの部分を連結する機能を果たす語や語群」のことである (p.207)。これを、談話中で発話と発話をつなげる機能と理解するならば、連結辞が談話中において行なっていることは即ち、ふたつの発話の関係性の規定にあるといえよう³。何らかの関係性の規定無しに連結という行為はできない。この時、接続されるふたつの発話は既に個別に成立するものでなくてはならない。連結辞はこのふたつの発話の関係性を規定することによって、それぞれの発話の解釈に修正を促す。よって、例えば、単

体では成立するふたつの発話が、ある連結辞の存在によって解釈不可能な文を作り出す場合、それはそのふたつの発話がどのような修正を加えても連結辞の規定する関係性に解釈され得ないということである。(14) と (15) の前後の発話はそれぞれ単体では成立するものである。このふたつの発話を *pourtant* で繋ぐことはできるが、*alors* で繋ぐことはできない。これは、この前後の発話が *alors* が規定するところの原因・結果という関係性ではうまく解釈することができない一方、*pourtant* が規定する逆接的な関係性での解釈は可能であるからに他ならない。

(14) *Je suis parti très tôt, alors je suis arrivé en retard.

とても早く出発したので、遅刻した。

(15) Je suis parti très tôt, pourtant je suis arrivé en retard.

とても早く出発したのに、遅刻した。

同様に、対立を問題とするという共通点を持った連結辞群も、それぞれの連結辞が規定する関係性の違いは、より細かいレベルであれ、それぞれの連結辞が生起する環境の傾向として現れるはずである。言い換えれば、生起環境の観察を行うことで、各連結辞が規定する関係性を捉えることができるということである。*au contraire* の繋ぎうるふたつの発話は *au contraire* が規定する関係性で解釈可能な組み合わせであり、同じふたつの発話が *en revanche* では繋ぐことができない場合、そのふたつの発話は *au contraire* と *en revanche* の持つ意味の違いを何らかの形で象徴するものとなるはずである。ただし、それが明らかにすることについては慎重にならなくてはならない。Danjou-Flaux (1983 : 283) は、*au contraire* が問題とする対立の質について次のように述べている。

Il peut exister un important décalage entre la distance qu'affirme *au contraire* des positions respectives des termes en opposition et leur distance « réelle », du moins celle qu'on est habitué à imaginer. C'est que *au contraire* peut opposer deux termes quelconques pourvu qu'ils

ne soient pas identiques ; [...].

対立に置かれた項同士の距離について、*au contraire* が主張する距離とその「現実」の距離、少なくとも我々が普通に想像する距離とには大変な隔たりができる場合がある。というのも *au contraire* は、同一でなければ、いかなるふたつの項も対立させることが可能なのである。

つまり、*au contraire* がふたつの項を対立に置くための条件は、それが同一のものでないという一点のみであり、*au contraire* は場合によってはその「現実」の距離から遙か遠くへ項同士を遠ざけるということである。対立表現が問題となるならば、問題となるふたつの項が同一でないことが当然ながらひとつの生起条件となるだろう。しかし、それ以外に *au contraire* がふたつの項を関係付けるのを妨げる条件は見当たらないというのである。つまりこれは、ふたつの項が現実的に *au contraire* にふさわしい関係にあるために *au contraire* が用いられるわけではなく、あくまでも用いられた *au contraire* がふたつの項を特定の関係で解釈することをメッセージの受け手に強いるということである。そのふたつの項が直接的に *au contraire* のもたらす関係性を象徴しているわけではないのである。ある連結辞によって連結されるふたつの発話をその連結辞の生起環境とするならば、その生起環境のあり方を記述することでその連結辞が規定する関係性が見えることが期待出来るものの、その生起環境が直接的に当該連結辞の規定する関係を表しているわけではない。本研究が類型論的な観点を持つのも、このような性質を持つ連結辞の生起環境を観察の対象とする点に起因する部分が大きいのである。そのようなわけで本研究は、まずこの生起環境を分析し、類型化する適切な方法論を見出すことから始まる。

本研究は、フランス語を一例として、ある一言語における一連の対立表現の意味の分布を見定め、言語の中で対立が成立する環境のあり方を明らかにすることを目指すものである。これを行うため、まず第1章では、対立表現を扱う主要な先行研究が、構造の対称性という観点からはどのように位置付けられるのかを概観し、それらに対する本研究の位置付けを明らかにする。第2章では、*au*

contraire、en revanche、loin de là を例として、対立の連結辞が生起する環境を記述するために必要なパラメータを明らかにし、その環境の持つ意味構造の基本的な類型を明らかにする。そして、第3章では、今回問題とするフランス語の対立表現の中でもその用法の広範さや純粋な対立をその意味としているという点で最も重要な位置を占める表現である **au contraire** の観察を行い、生起環境の意味構造の違いによる対立のあり方の違いを見ていく。第4章では、対比に代表されるような対称的な構造の環境に生起する連結辞を、第5章では、反駁に代表されるような非対称的な構造の環境に生起する連結辞を扱い、それぞれの連結辞についての意味論的な考察や、それぞれの意味構造に関する詳細な記述を行う。第6章では、対話において特徴的な対立概念の用いられ方として、**au contraire** の対話的な用法を分析し、そして、最後の第7章では、日本語の連結辞「それどころか」の分析を行い、フランス語と日本語という別言語において連結辞の比較が可能かどうかについて考察する。

第1章 先行研究の用法分類と構図の対称性

ここでは、au contraire を主に扱った代表的な研究を3つ取り上げ紹介するとともに、言語内における対立を研究するにあたって、「はじめに」で述べた構図の対称性という概念が様々な側面において有効であることを示していく。

1.1. Danjou-Flaux (1983)

Danjou-Flaux (1983) は、冒頭において au contraire を反意の連結辞 *connecteur adversatif* のひとつと位置づけ、全面的な対立を表すとしている。とりわけ au contraire の特質は、2つの要素を極限まで遠ざけ、それをお互いの対極とするような対立を表すことであると述べている。その上で au contraire について、発話内行為マーカー・反意の操作子・談話的連結辞という用法、そして、談話的連結辞の下位分類として置き換え・二者択一・対立というあり方を提示している。au contraire について他の連結辞等とも比較しながら細かい記述をしているこの研究の問題点は、それぞれの用法の間の関係性がはっきりせず、その整理の悪さから au contraire という表現の本質的な部分とそれ以外の部分の区別がつかなくなってしまうところである。ここでは、Danjou-Flaux (1983) の提示する各用法を紹介し、構造の対称・非対称という観点からそれぞれの用法を体系化することができることを示す。

1.1.1. 発話内行為のマーカー

Danjou-Flaux (1983) は、au contraire が相手の発話に対する拒絶をマークする発話内行為のマーカーとして機能すると述べる。例えば (16) のような場合である。

(16) A : Tu en veux à Marie ?

B : (Non,) *au contraire* ! (ibid. : 277)

「マリーを恨んでるの？」「とんでもない。」

この用法における *au contraire* の解釈モデルとして、Danjou-Flaux (1983 : 277) は次のような図式を提示している。

REJET de P ; AFFIRMATION de $\neg P$ et de Q, $Q \supset \neg P$ pour rejeter P

つまり、*au contraire* を用いることによって前件の否定である $\neg P$ だけでなく、 $\neg P$ より強い Q が主張されるということである。(16) では「(お前は) マリーを恨んでいる」という P に対して *au contraire* と述べることで、「(私は) マリーを恨んでいない ($\neg P$)」と表明するのみならず、「(私は) マリーに対するいかなる悪印象も持っていない (Q)」という主張も行っていると理解出来る⁴。Danjou-Flaux (1983) は、(16) のように *au contraire* がふたりの話者によって発せられた発話文を接続する場合 (ディアログ) だけでなく、単独の話者によって発せられた発話文を接続する場合 (モノログ) においても (17) のように話者が自分と対話しているような文章などにおいてはこの用法を認めている。

(17) Est-ce à dire que cet exhibitionnisme de la dictature du général Jaruzelski lui ôte toute qualité de modernité ? Pas du tout, *au contraire*. Mais la nature de cette dictature est inclassable, [...].

(ibid. : 281)

これはつまりヤルゼルスキ将軍独裁政権のこの露出趣味がこの政権からあらゆる現代性を失わせてしまったということか？そのようなことはない。反対である。しかしこの独裁政権の本質は評価がむずかしい。

1.1.2. 談話的反意の操作子

ふたつ目の用法は談話的反意の操作子である。これは、*au contraire* には反意語を対立させる機能があるとするものだが、Danjou-Flaux (1983) はむしろ、*au contraire* がディスクールの中で反意語を作り出す機能に注目している。(18)では、Aの主張「愚かである」の反意語は「賢い」であるが、Bの「驚くようなスピードで物事を理解する」という主張はこれを含意している。このように前件の反意語を含意していれば、「伝統的 (p.281)」な反意語でなくとも *au contraire* はそれを前件に対立させることができるというわけである。

(18) A : Pierre est complètement idiot, je trouve.

B : Mais non ! Il comprend des choses avec une rapidité étonnante,
au contraire ; mais il a du mal à s'exprimer. (ibid. : 282)

「ピエールは愚鈍そのものだ。僕はそう思うね。」「とんでもない。彼が物事を理解するスピードは驚嘆に値するよ、反対に。でも自己表現が苦手なんだ。」

このような指摘をした上で、さらに Danjou-Flaux (1983) は前件と後件に含意関係の見出せない例の存在にまで言及する。*au contraire* はふたつの項がどのような組み合わせのものであっても、同一でない限り、対立させることができ、ふたつの項を「現実的な」隔たりを超えて遠ざけるという指摘を行っていることははじめにも述べた。例えば、客観的な差異のほとんどない (19) も客観的にも大きな差異のある (20) も表現としては同じぐらい自然だといった具合である。

(19) Préfères-tu ce rose clair ou *au contraire* ce rose moyen ?

(ibid. : 284)

この淡いピンクか反対にこの普通のピンク、どちらがいい？

- (20) Marie a acheté un pull rouge vif, et Pierre un vert pâle *au contraire*.
(id.)

マリーは鮮やかな赤のセーターを買い、そしてピエールは反対にくすんだ緑のセーターを買った。

au contraire の前件と後件の関係がこのようなあり方になるのは、すでに前件と後件がある特定の関係にあるために *au contraire* を用いるのではなく、*au contraire* で連結することによって話者が前件と後件をある特定の関係に置こうとしているからである。Danjou-Flaux (1983) が前件の反意語と後件の間に包含関係を見出そうとするのも、*au contraire* が照応した前件に対して後件を位置付けているため、後件の範疇に前件の反意語を求めたくなるからであろう。しかし、それは順番が逆で、あくまで用いられた *au contraire* がその解釈を要求するだけのことである。

この用法を *au contraire* の語彙意味論的な側面に直結するものとする Danjou-Flaux (1983 : 281) は、これを *au contraire* の使用全てに通底する属性と捉えているようである。上で述べた発話内行為マーカの図式 (REJET de P ; AFFIRMATION de $\neg P$ et de Q, $Q > \neg P$ pour rejeter P) においても、談話的反意の操作子の機能によって前件 P と後件 Q の関係が互いの対極に位置づけられると述べている (p. 286)。

1.1.3. 談話的連結辞

最後に談話的連結辞の用法である。これは、ふたつの項がひとつの内容を構成する場合において、その内容の内部でふたつの項を *au contraire* が関係づける場合のことである。この場合、*au contraire* は反駁等と異なり、現実を描写するために用いられ、多くの場合において *au contraire* はその文の連結における必須要素ではないことから Danjou-Flaux (1983 : 287) はこれを「補助的連結辞」と呼んでいる。そして、この用法における *au contraire* の生起環境の類型を「談話構

造」と名付けた上でそれが3種類（置換 *substitution*・分離 *disjonction*・対立 *opposition*）に分類できるとしている。

置換の談話構造とは、否定的な前件に肯定的な後件が置き換わるものである。前件の否定は（21）のように論争的な否定の場合もあれば、（22）のように記述的な否定の場合もあるとされているほか、（23）の *renonçant* のように肯定形の語彙によっても行われうる⁵。

- (21) Pierre n'est pas un imbécile, mais *au contraire* un type très intelligent. (ibid. : 287)

ピエールは愚か者ではない、それどころかとても賢い人間だ。

- (22) En ce moment je n'ai pas envie de travailler ; *au contraire*, je voudrais prendre des vacances. (ibid. : 287)

今は働きたくない。反対に長期休暇を取りたい。

- (23) Renonçant à chercher une théorie sociologique pour expliquer le symbolisme, Lévi-Strauss, *au contraire*, cherche l'origine symbolique de la société. (ibid. : 289)

象徴主義を説明する社会学的理論を追い求めるのを諦め、レヴィ＝ストロースは反対に社会の象徴的根源を追い求める。

分離の談話構造とは、二者択一の形で物事を表現するものである。これにはさらに下位分類があり、その下位分類には *si P alors Q, si P' alors Q'* の含意的二者択一タイプ（24）、ふたつの項が交互に現実となる循環タイプ（25）、直接・間接疑問、仮説、未来に関する言明の関わる疑念タイプ（26）などがある。

- (24) S'il fait mauvais, j'irai au cinéma ; mais si *au contraire* il fait beau, j'irai me promener. (ibid. : 290)

天気が悪ければ映画に行くが、もし反対に天気が良ければ散歩しに行く。

- (25) Marie m'étonne : tantôt elle broie des idées noires, tantôt *au contraire*, elle déborde d'enthousiasme. (id.)

マリーには驚かされる。ある時には暗い思いに沈んだと思うと、ある時には反対に熱狂的になるのだ。

- (26) Qu'est-ce que tu fais ce week-end ? Tu vas à la mer ou *au contraire* tu restes ici ? (ibid. : 291)

この週末は何するの？海に行くの？それとも反対にずっとここにいるの？

Danjou-Flaux (1983) は、対立の談話構造に関して、両立しない、対立する項を使って現実を表す構造であるとし、その特徴として、前件の拒絶ののちに後件が選択されると説明しているが、分類の基準はいまひとつ判然としない⁶。特にほぼ同様の定義がなされている置換の談話構造との違いが問題となるが、置換の談話構造が真偽を問題とし、対立の談話構造では正誤が問題となっているように読み込むことはできる⁷。(27) では前件の拒絶が明示的になされ、(28) では明示的な拒絶の提示はなされていないと述べられている。論文中では説明がなされていないが、(27) で拒絶の意図を明示している語彙があるとすれば、*quand* であろうか。Danjou-Flaux (1983) も、この談話構造の指標となる形式的あるいは統辞的な特徴は明白でないと認めている。

- (27) Je ne vous raconterai pas mes démarches et mes sollicitations inutiles, ni six mois passés à travailler comme surnuméraire et à m'entendre dire que j'effarouchais l'abonné, quand, *au contraire*, je l'apprivoisais. (ibid. : 292)

私の無駄な奔走や働きかけについてあなた方に語ることはするまい。臨時雇いとして働き、購読者を怯えさせていると言われながら過ごした 6 ヶ月についても。とはいえ、私は反対に購読者を手なづけようとしていたのだ。

- (28) Le solipsisme linguistique parle toujours de communication comme un phénomène justiciable de la loi du tout ou rien. La linguistique contemporaine, *au contraire*, en séparant les fonctions distinctes du langage, mène à cette thèse que la communication est un phénomène dont le succès doit être approximatif ou relatif, avoir des degrés.

(id.)

言語学的独我論はいつもコミュニケーションという言葉を全か無の法則に従う現象として用いている。現代の言語学は、反対に、言語の異なる働きを区別しながら、コミュニケーションとはその成功がおおよそのものであったり大体のもの、その段階が設定できる現象であるというあの命題に至っている。

このように Danjou-Flaux (1983) は、前件と後件を極限まで遠ざけるという機能（談話的反意の操作子）を基本において様々な側面から *au contraire* の演じる役割を記述している。しかし、対立の談話構造にとどまらず各用法が直感的に定義され、言語的な指標に欠けているため、それぞれの用法間の境目や関係性がはっきりせず、やや混乱した記述となっている感も否めない。ここに構図の対称性という基準を持ち込むことで、次節のように整理することができる。

1.1.4. 構図の対称性による用法の再分類

Danjou-Flaux (1983) の挙げている用法を対立の構図の対称性から再分類してみよう。構図の対称性とは、「はじめに」で述べたように、対立におかれたふたつの要素が話者から見て対称的に配されているか否かという基準である。この基準によって、話者が対立の外側に位置しているのか、あるいは対立の内部で片側に与しているのかが区別される。この基準を用いて Danjou-Flaux (1983) の各用法はどのように位置付けられるだろうか。まず、談話内に反意を持ち込む談話的反意の操作子であるという点は *au contraire* の使用に通底する。なので、これを

用法というよりむしろ本質的な機能であると考え。これは構図が対称的であろうと非対称的であろうと維持される機能である。返答として拒絶をマークする発話内行為マーカは基本的にディアログにおける用法である。前件の発話は対話者に属す発話であり、これに話者が拒絶を示す用法である。従ってこれは構図が非対称的な場合の用法となる。談話的連結辞の用法はその談話構造によって構図が異なる。置換の談話構造は前件に否定、あるいはそれに変わる語彙によって拒絶がマークされることが条件となるので構図は非対称である。一方、分離の談話構造はそのパターンが何であれ前後の項が話者に対して対等な対称的構図となる。そして、いまひとつその位置付けがはっきりしない対立の談話構造は、もしその分類が上で述べた通り正誤を問題としているのであれば、構図は比較対称的なものとなるはずである。Danjou-Flaux (1983 : 292) は対立の談話構造において前件に拒絶があるとしているが、この場合の拒絶は、事実レベルで前件を拒絶しているのではなく、事実レベルでは前件の内容を引き受けた上でそのあり方そのものを否定する、という拒絶である。(28)において、前件の内容が事実であることを話者は認めている。その上でそれがコミュニケーションを扱うにあたって相応しくないと述べているのである。そして、その代わりとして近代の言語学のあり方が述べられている。従って、話者に事実レベルで引き受けられている前件と後件は構図としては対称的なのである。ただし、Danjou-Flaux (1983 : 292) が述べるように対立と置換との中間的な例が多くあるとすれば、それは直感的に正誤が問題となっていると判断された例の中で構図が非対称的なものが出てきた時、それが中間的な例と判断されている可能性があるということになる⁸。従ってDanjou-Flaux (1983) の各記述の位置付けを構造の対称性に照らして改めてまとめると次の表のようになる。

表 1 : 構造の対称性から見た Danjou-Flaux (1983) 各用法の位置付け

	対称的構図	非対称的構図	(話者交代)
談話的反意の操作子	○	○	あり／なし
発話内行為マーカ	×	○	あり
談話的連結辞	・ 分離 ・ 対立	・ 置換 ・ (対立)	なし

対称的構図の中で談話的連結辞の分離と対立の談話構造が共存しているが、分離の談話構造は *ou* や *si...*, *si...* といったマーカの存在や、あるいはふたつの項が循環するなど特徴が指標として示されているため、対立の談話構造との区別ははっきりしている。一方、非対称的構図には発話内行為マーカと談話的連結辞が共存しているが、これはディアログかモノログかの違い、つまり話者交代の有無である。発話内行為マーカは前件と後件の間で話者交代がある場合の意味効果であり、ディアログあるいは擬似ディアログにおける用法となる。構図の対称性という指標を導入することで、ばらばらであった用法の全体像がこのように整理されるのである。

1.2. Ducrot (1984)

連結表現を直接対象とした研究ではないが、Ducrot (1984 : 214-216) では、論証理論のひとつであるポリフォニー理論における否定の扱いを問題とするにあたって *au contraire* に言及している。それは、否定文中において否定されている肯定文にひとつのステータスを与えることが妥当であるか否かという議論である。*Pierre n'est pas gentil* という発話の中には否定された *Pierre est gentil* という別の観点が提示されていると考えることができる。一方、*Pierre est gentil* と言ったとしても *Mais je n'ai pas dit le contraire* という返答があり得るように、肯定文でもある種の排除を行っていると考えられる。肯定文でもそのような排除を行っているのであれば、否定にのみ特別なステータスを与える根拠はない

のではないか、というわけである。そして、そこで持ち出されるのが *au contraire* を用いた次のふたつの文である。

(29) Pierre n'est pas gentil. *Au contraire*, il est détestable. (ibid. : 216)

ピエールは優しくない。それどころか、えらく不愉快なやつだ。

(29') *Pierre est gentil. *Au contraire*, il est adorable. (id.)

ピエールは優しい。それどころか、愛すべきやつだ。

au contraire が前件と後件の関係が「反対」であることを表すとすれば、(29)の後件 *Pierre est détestable* と反対なのは前件で否定された *Pierre est gentil* である。一方、(29') が言えないのは、前件 *Pierre est gentil* が排除するものに後件 *Pierre est adorable* の反対の観点としてのステータスが無いからである。

このように、Ducrot (1984) は否定をめぐる議論の中で *au contraire* を取り上げて⁹。この議論の対象は否定に含まれる発話のステータスであるため、問題となった例文は前件と後件が非対称の用法である。この議論は *au contraire* の用法を明らかにするものでないため *au contraire* に関してこれ以上の例は出てこないが、非対称的構図の用法における論証的な記述にポリフォニー理論が活用できることは確かである。しかし、ポリフォニー理論では *au contraire* の全ての用法を記述することはできない。ポリフォニー理論の内容に関する議論は次の章に譲るが、ポリフォニー理論が問題とできるのは視点的な差異が問題となる非対称的構図の場合に限られ、視点的な差異のない対称的構図の用法を記述することはできない。そのような意味では連結辞研究を主眼とした時、ポリフォニー理論は不十分なのである。

1.3. Rossari (2000)

au contraire と *par contre* の比較研究を行った Rossari (2000) は、Ducrot (1984) のポリフォニー的な対立が問題となる用法 (30) (31) と Danjou-Flaux

(1983) が発話内行為のマーカーとした対話者に反意の返答を行う用法 (32) (33) において、*au contraire* を *par contre* に置き換えることはできないとしている。

(30) Il est faux que Marie est gentille. *Au contraire* elle est très méchante.

(ibid. : 140)

マリーが優しいというのは間違っている。それどころか彼女はとても意地悪だ。

(31) Marie n'est pas gentille. *Au contraire* elle est très méchante. (id.)

マリーは優しくない。それどころか彼女はとても意地悪だ。

(32) A : Luc arrive ce soir.

B : *Au contraire*, il n'arrive pas ce soir, mais demain. (id.)

「リュックは今晚到着するよ。」「とんでもない。来るのは今晚じゃなくて明日だ。」

(33) A : Paul ne le lui a pas dit.

B : Si *au contraire*. (id.)

「ポールは彼にまだそのことを言っていないよ。」「いいや、反対だよ。」

(30') Il est faux que Marie est gentille¹⁰. ??*Par contre* elle est très méchante. (id.)

マリーが優しいというのは間違っている。それに対して彼女はとても意地悪だ。

(31') Marie n'est pas gentille. ??*Par contre* elle est très méchante. (id.)

マリーは優しくない。それに対して彼女はとても意地悪だ。

(32') A : Luc arrive ce soir.

B : ??*Par contre*, il n'arrive pas ce soir, mais demain. (id.)

「リュックは今晚到着するよ。」「それに対して、来るのは今晚じゃなくて明日だ。」

(33') A : Paul ne le lui a pas dit.

B : ??Si *par contre*. (id.)

「ポールは彼にまだそのことを言っていないよ。」「いいや、それに対して。」

1.1.節及び 1.2.節で述べた通り、このふたつの用法は共に非対称的構図の用法である。そのふたつの用法を排除した上で、Rossari (2000 : 146) は他の 6 つに分類された用法において常に *au contraire* を *par contre* に置き換えることが可能であると述べている。その 6 用法とは、①別々の個体の属性が問題となり、その属性が、既婚／独身、男性／女性のように内在的に相容れない場合 (34)、②別々の個体の属性が問題となり、その属性が文脈の働きによって相容れないものと理解される場合 ((35) は当該の猫が黒か赤毛の子猫しか生まないという文脈によって可能になる。)、③同一の個体に関するふたつの属性が問題となるものの、その属性が同時に現れることがなく、その属性が互いに排他的な活動で構成されることから相容れないものとして理解される場合 (36)、④別々の個体の属性が問題となり、その属性をスケールの対極に配置できる場合 (37)、⑤同一の個体に関するふたつの属性が問題となるものの、その属性が同時に現れることがなく、その属性をスケールの対極に配置できる場合 (38)、⑥別々の個体の同一の属性が問題になり、その属性が現れる時間が指定されることで相補的な解釈が可能になる場合 (39) である。

- (34) Marie est mariée. Luc *au contraire* est célibataire. (ibid. : 142)
マリーは既婚者だ。リュックは反対に独身だ。
- (35) (?)Le premier chaton est noir. Le second *au contraire* est roux. (id.)
最初の子猫は黒い。2 匹目は反対に赤い。
- (36) La semaine passée Marie n'a pas travaillé du tout. Cette semaine *au contraire* elle a travaillé à plein temps. (ibid. : 143)
先週マリーは全く働かなかった。今週は反対にフルタイムで働いた。
- (37) Le premier chaton est blanc. Le second *au contraire* est noir.
(ibid. : 144)

最初の子猫は白い。もう片方は反対に黒い。

- (38) Parfois, Marie est gentille. Parfois, *au contraire*, elle est très méchante. (id.)

ときおり、マリーは優しい。ときおり、反対に、彼女はとても意地悪だ。

- (39) La semaine passée c'est Marie qui a gagné la partie, cette semaine, c'est Luc *au contraire* qui a gagné. (ibid. : 145)

先週勝ったのはマリーであり、今週勝ったのは反対にリュックである。

このように並べて見ると、この6用法はいずれも前件と後件に視点的な差異がない対称的構図の用法であることがわかる。つまり、Rossari (2000) が明らかにしていることは、Ducrot (1984) のポリフォニーの用法と Danjou-Flaux (1983) の発話内行為マーカの用法といういずれも非対称的構図の用法では *au contraire* を *par contre* に置き換えることができず、自らの挙げる対称的構図の6用法ではそれが可能だということである。そして、ここからわかることは、構図の対称性という概念は、*au contraire* というひとつのマーカの用法分類を精緻にするだけでなく、他のマーカの生起条件を明らかにすることにも有効だということである^{11 12}。

ちなみに、ひとつの用法しか扱っていない Ducrot (1984) はともかく、Danjou-Flaux (1983) も Rossari (2000) も *au contraire* の用法の全体を包括的に扱うことに成功していない。例えば、Danjou-Flaux (1983) は、Rossari (2000) の (40) [= (34)] や (41) [= (37)] のような、前件に (Danjou-Flaux (1983) が言うような意味においても) 拒絶が認められず、また循環用法にも位置付けられないような場合の用例の扱いが不明瞭である。逆に Rossari (2000) の分類では Danjou-Flaux (1983) の (42) [= (26)] のような例を扱うことができない。(42) では同一の個体についての属性が問題となるが、その属性は時で隔てられているわけではなく、片方が当該時に成立すると片方が成立することはもうないのである¹³。

- (40) Marie est mariée. Luc *au contraire* est célibataire. [= (34)]
- (41) Le premier chaton est blanc. Le second *au contraire* est noir. [= (37)]
- (42) Qu'est-ce que tu fais ce week-end ? Tu vas à la mer ou *au contraire* tu restes ici ? [= (26)]

このように用法の全体像がなかなか捕らえきれない原因は、統一的な記述を可能にする適切な指標がなく、それが故に用法を手探りで探すことを強いられることにあるように思われる。ここまで問題にしてきた構図の対称性は、それを可能にする指標のひとつであり、また対立表現の用法記述における最初の2分割を与えるものである。次の章からは、この構図の対称性をきっかけとしてさらに用法の記述を細分化するための概念を導入していこう。

第2章 対立の意味構造

この章では、*au contraire*、*en revanche*、*loin de là* という 3 つの対立を表す連結辞の用法の違いを通して、構図の対称性からさらに議論を進めるために必要な概念を導入し対立の意味構造をモデル化すると共に、その意味構造のレベルを超えたところに連結辞の意味論的な性質が垣間見えることを明らかにしたい¹⁴。

この 3 つの連結辞は部分的に類義語となっている。(43) における *en revanche* は、*au contraire* との置き換えが可能な一方、*loin de là* との置き換えはできない。

(44) の *au contraire* は、*loin de là* との置き換えが可能な一方で、*en revanche* との置き換えはできない¹⁵。

- (43) Il est très aimable, mais, *en revanche*, son frère est d'un abord difficile. (『小学館ロベール仏和大辞典』)

彼はとても愛想がいい。しかし、反対に、彼の弟はとっつきづらい。

- (43a) Il est très aimable, mais, *au contraire*, son frère est d'un abord difficile.

- (43b) *Il est très aimable, mais, *loin de là*, son frère est d'un abord difficile.

- (44) Ce n'est pas la fin de la bataille. *Au contraire*, on vient de la commencer. (ネイティブチェックを受けた作例)

これは戦闘の終わりではない。それどころか戦闘は始まったばかりだ。

- (44a) Ce n'est pas la fin de la bataille, *loin de là*. On vient de la commencer.

- (44b) *Ce n'est pas la fin de la bataille. *En revanche*, on vient de la commencer.

このような置き換え可能性の変化は、対立という関係性のあり方の問題である。対立を問題とする文脈は、その意味構造においていくつかのパターンに分けることができる。当該の文脈がどのパターンの構造を持つかによって各連結辞の生起可能性は変化する。この変化のあり方を分析することで各連結辞の特性もまた見

えてくる。そして、このような考察を行うと、*en revanche* がテーマの関係性、*au contraire* がレーマの関係性、*loin de là* が視点の関係性にフォーカスした表現であるという仮説を立てることができる。まずは、第1章で扱った *au contraire* に関する先行研究の用法分析から対立の意味構造の記述に必要なパラメータを抽出する。

2.1. *au contraire* のふたつの用法と生起環境に関わるパラメータ

au contraire には、視点的な差異に関係する用法と、テーマ的な差異に関係する用法がある。Ducrot (1984) が扱う非対称的構図のポリフォニー用法と Rossari (2000) が扱う対称的構図の用法である。

2.1.1. 視点的な差異がもたらす対立

構図の対称性からさらに踏み込んだ連結辞の生起環境の記述をするにあたって必要な最初のパラメータは、Ducrot (1984) のポリフォニー理論に見出だすことができる。「ポリフォニー（多声性）」とは元来複数の声が同時に歌われる音楽様式を意味する言葉であるが、発話理論としてのポリフォニー理論は、ひとつの発話文の中に複数の声が響いていると考える。ここでいう「声」とは、現実的な声というよりも視点のようなものとして理解できる。この「視点」が、そのひとつめのパラメータである。1.2.節で紹介した議論はこの「視点」と否定の関わりを問題にしたものであり、そこで持ち出されている *au contraire* の用法は視点の差異に関係するタイプの用法である。(45) には、「ピエールは優しい」とする視点と、その視点を否定するもうひとつ別の視点があると考ええる。そして、(45) を *au contraire* の前件とする (46) において「反対」の関係にあるのは、前件の「ピエールは優しい」とする視点と、後件の「ピエールは嫌なやつである」とする視点、というわけである。

(45) Pierre n'est pas gentil. (Ducrot, 1984 : 214)

(46) Pierre n'est pas gentil, *au contraire*, il est détestable. [= (29)]

このように、前件の否定文をふたつの視点に分けることによって、前件に後件の視点と対立する視点を見出だすことが可能になる。前件で「ピエールは優しい」と断定するこの視点は、否定の機能によって談話中に導入されているがゆえに、話者と異なる視点であると考えることができる。本論では、この話者と異なる視点を「他者視点」と呼ぶこととする。これに対して後件の視点は話者と重なる視点となる。この視点を「話者視点」とする。他者視点を談話中に導入する機能は否定のみが担うわけではない。他者視点と話者視点の組み合わせは (47) にも見出だすことができる。「マリーは優しい」とする他者視点は、「間違いである」と言及されながら談話中に導入され、「マリーはとても意地悪である」とする後件の話者視点と対立している。つまり、話者はある視点を否認することで、それが他者視点であることを表しており、否定はその手段のひとつなのである。

(47) Il est faux que Marie est gentille. *Au contraire* elle est très méchante.
[= (30)]

このように、この用法において *au contraire* が問題にしているのは、前件と後件における視点の差異の中で生じた対立であることがわかる。そして、話者視点と他者視点というステータスの違いのためにその構図は非対称的になる。ちなみに、Ducrot (1984) が非対称的構図の *au contraire* を用いて問題にしているのは、ある視点を否認するために用いられる否定辞の機能のことである。Ducrot (1984) はこれを「論争的否定」と名付け、否定辞を用いて世界のあり方を記述する「記述的否定」と区別している。ところで、非対称的構図において *au contraire* の前件で用いられている否定辞の機能が常に論争的否定なのかどうかについては議論がある。1.1.3.節で紹介した (48) [= (22)] は、Danjou-Flaux (1983) が前件の否定を記述的としていたものである。

- (48) En ce moment je n'ai pas envie de travailler ; *au contraire*, je voudrais prendre des vacances. [= (22)]

確かに、この例の前件のみを取り出せばその発話における否定辞は「記述的」に解釈するのが自然だろう。しかし、非対称的構図における *au contraire* の前件で用いられている以上、この否定もやはり「論争的否定」とせざるを得ない。もし記述的否定であれば、同じあり方を記述できてさえいれば、この表現が否定文である必要性はないはずである。Ducrot (1984 : 217) も、記述的否定の用いられた文であれば、意味の喪失なしに肯定文で言い換えができるという考え方を示している¹⁶。これはつまり、記述的否定では否定された視点を発話中に提示する必要性がないため、肯定文でも機能的な損失がないはずだからである。例えば、「仕事をしたくない」という表現で記述できるあるあり方を「家に居たい」あるいは「疲れている」という肯定文で表現することができるかもしれない¹⁷。しかし、(48)の前件を例えば (48') のように言い換えることは難しいだろう。

- (48') *En ce moment [je voudrais rester chez moi / je suis fatigué]; *au contraire*, je voudrais prendre des vacances.

今は[家に居続けたい／疲れている]; それどころか、休暇を取りたい。

前件の反対として「休暇を取りたい」という議論を持ち込むには、前件から「仕事をしたい」という議論を想起する必要があるが、(48') の前件からは想起されない。(48)において *au contraire* の生起が可能なのは、前件で否定辞が「仕事をしたい」という議論を否認し、否認されたその議論の反対の議論として「休暇を取りたい」という後件の議論を位置付けることができるからである。したがって、その定義上、非対称的構図における *au contraire* の前件の否定辞の機能は論争的否定である。非対称的構図における *au contraire* の前件では、否定辞であればその論争的否定という機能によって、そうでなければ否定辞を用いない (47)

のような方法によって否認が行われるのである。

このような議論で視点的な差異の用法を扱っているのが Ducrot (1983) である一方、対称的構図でテーマ的な差異に関係する用法を扱っているのが Rossari (2000) である。

2.1.2. テーマ的な差異がもたらす対立

1.3.節では Rossari (2000) が場合分けする対称的構図の6つの用法を紹介した。(49) [= (34)]はそのうちのひとつ、別々の個体の属性が問題となり、その属性が内在的に相容れない場合に属す例である。ここでいう内在的に相容れない属性とは、既婚者であることと独身者であることである。この例において、「マリーは既婚者である」とする前件と、「リュックは独身者である」とする後件は、いずれも話者視点に属している。すなわちここには視点的な差異が存在せず、ポリフォニー理論による分析が意味をなさない¹⁸。

(49) Marie est mariée. Luc *au contraire* est célibataire. [= (34)]

Rossari (2000) は、視点的な差異のないこのような用法の成立条件として「二重変値 (double variation)」を挙げている¹⁹。二重変値とは、対比される主体がふたつに区別され (l'une [variation] relative à la distinction entre deux éléments sujets du contraste)、そのふたつの主体がそれぞれの属性において差異を呈する (l'autre relative à la différence qui doit intervenir entre les propriétés de ces deux éléments)、という複合的な条件である (pp.133-134)。(49) では、「マリー」と「リュック」がふたつの区別された主体として存在する。そして、このふたつの主体は「既婚者」と「独身者」という属性において差異を呈している。このように主体の区別とその属性の差異が二重変値の条件となっているのである。この二重変値は、(50) のような例においても見いだされる。これは、同一の個体に関するふたつの属性が問題となるものの、その属性が同時に現れることがな

く、その属性が互いに排他的な活動で構成されることから相容れないものとして理解される場合とされた例である。

- (50) La semaine passée Marie n'a pas travaillé du tout. Cette semaine *au contraire* elle a travaillé à plein temps. [= (36)]

(50) の前件と後件で問題となっている主体はともに「マリー」であり、一見主体に区別がない。しかし、前件と後件には「先週」と「今週」という時間的な区分があり、そのことが「マリー」という主体に区別を設けていると考えることができる。「先週のマリー」と「今週のマリー」という区別された主体が問題になっているのである。このふたつの主体が「まったく働かない」と「フルタイムで働く」という属性において差異を呈していることで二重変値の条件が満たされている。Rossari (2000) が提示する 6 用法は、この二重変値が満たされる文脈のあり方の場合分けなのである。

この二重変値の用法のように、視点的な差異が問題とならない場合には、問題となる主体に区別があることが対立の契機となり、その属性の差異が述べられる。この「主体」と「属性」とは、それぞれ意味構造レベルで「差異の在りか」と「そこで述べられている差異」というように読み替えられる。これを本論では、対立文脈における「テーマ」と「レーマ」と呼ぶこととする。そして、2.1.1.節で述べた「視点」のあり方に加え、この「テーマ」と「レーマ」のあり方をパラメータとすることで対立の意味構造を図式的に記述することが可能になる。すると、先行研究では別のものとして扱われてきた *au contraire* に関するこのふたつの用法は、構図の対称性を超えて、当該の環境における意味構造の違いとして同一のパラメータでさらに詳細に記述されることになる。

2.1.3. 対立構造の図式化

(51) のテーマは「ピエール」、レーマは「優しい」である。そして、このレ

テーマを引き受けるのは通常、話者視点である。あるテーマが設定されると、そこに結びつくレーマのためにある種の「場」が想定されるものとする。この場を、レーマの「枠」と名付ける。この枠にレーマが入ることによって、そのレーマが当該のテーマについて確定する。つまり、断言されることになる。枠とレーマの関係は変数と定数の関係と考えて良い。つまり、テーマに関するある変数についてなんらかの定数を提示するのがレーマだということである。この変数を枠とするのは、その定数であるレーマが話者にとって当該のテーマに確定したものなのか否かが、枠にレーマに入っているか否かで表現できるようにするためである。レーマは何らかの視点から与えられるものであるが、この例では話者視点でレーマを与えている。これを図式化すると図3のように表すことができる²⁰。

(51) Pierre est gentil.

ピエールは優しい。

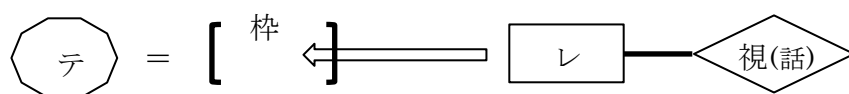


図3：意味構図式基本形

この図式を用いて 2.1.1.及び 2.1.2.で扱った *au contraire* のふたつの用法の意味構造を表してみよう。(52)は視点の差異が問題となる用例である。この意味構造は、ひとつのテーマ（「ピエール」）、ふたつのレーマ（「優しい」と「嫌なやつである」）、ふたつの視点（他者視点と話者視点）で構成される。これを図式で表すと図4のようになる。このタイプの意味構造を1枠別視点型と名付ける。レーマ1から伸びた矢印にかかる×は、レーマ1が話者に否認されていることを意味する。

(52) Pierre n'est pas gentil, *au contraire*, il est détestable. [= (46)]

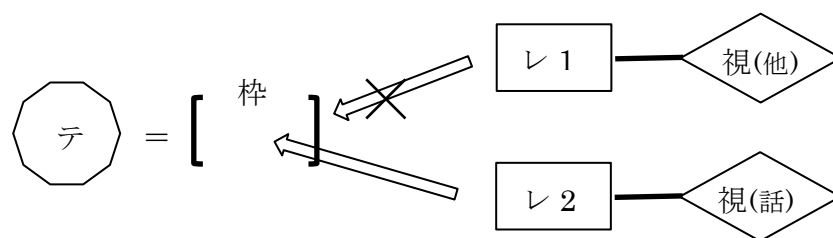


図 4 : 1 枠別視点型

1 枠別視点型の構造は、テーマに結びついたひとつの枠を他者視点と話者視点とが奪い合っているようなイメージでとらえることができる。(51) のように **Pierre est gentil** とだけ述べられた場合、「優しい」というレーマは枠の中に入り、確定される。だが、(52) の話者はこれを否定することで、他者視点の「優しい」というレーマが枠に入ることを許さず、かわりに話者視点に属するところの「嫌なやつである」というレーマを確定させている。一方、視点の差異が問題とならない用例 (53) の意味構造は、ふたつのテーマ（「マリー」と「リュック」）、ふたつのレーマ（「既婚者である」と「独身者である」）、そして、ひとつの視点（話者視点）で構成される。この意味構造を図式化すると図 5 のようになる。このタイプの意味構造を 2 枠同視点型と名付ける。

(53) Marie est mariée. Luc *au contraire* est célibataire. [= (49)]

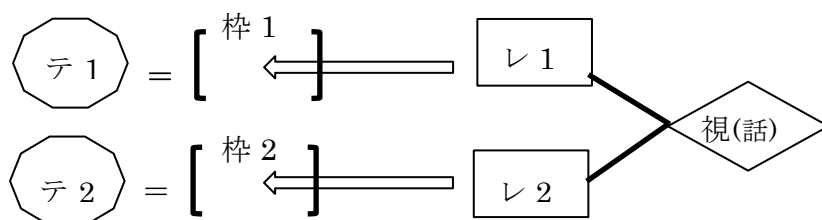


図 5 : 2 枠同視点型

2 枠同視点型の構造では、テーマそれぞれに対応する枠に話者視点からそれぞれ

のレーマが入れられ、確定される。前後のレーマを与える視点に違いがなく、話者視点のみが存在している構造である。

このように、au contraire のふたつの用法は、1 枠別視点型と 2 枠同視点型という異なる意味構造を図式化することで記述し分けることができる。そして、この図式は en revanche と loin de là の生起環境の記述にも用いることができる。

2.2. 各環境における連結辞の生起分布

これまで見てきたように、連結辞が対立を問題にするためにはそこに差異がなくてはならない。1 枠別視点型の環境において差異を見出だしうるのは、レーマか視点である。テーマはひとつしかないため、そこに差異はない。一方、2 枠同視点型の環境で差異を見出だしうるのは、テーマかレーマであり、視点に差異はない。このような各環境における差異のあり方は、連結辞の生起の可不可に関わっているように思われる。1 枠別視点型と 2 枠同視点型、それぞれの環境における連結辞の生起分布を見てゆくことにする。

2.2.1. 1 枠別視点型と 2 枠同視点型

1 枠別視点型は、au contraire のほか、loin de là の生起環境に見出だすことができ、en revanche の生起環境に見出だすことはできない。また、このタイプの環境に生起した au contraire と loin de là を互いに置き換えることはほぼ可能だと言えるが、いずれの場合も en revanche に置き換えることはできない。

例えば、(54) の au contraire は、loin de là に置き換えることができる一方、en revanche に置き換えることはできない。ここでは、キャリア終盤のサッカー選手「サミュエル・エトー」をテーマに、「彼がまだやり残していることがあるか否か」についてふたつのレーマが対立している。前件では、テーマである「サミュエル・エトー」に結びついた枠に、他者視点から、レーマ 1「まだ何かを証明しなくてはならない」が入れられようとするが、話者に否定される。そして、後

件では話者視点からレーマ 2「ほぼ全てを勝ち取っている」が入れられ、確定する。

- (54) A trente-cinq ans et avec ses statistiques ronflantes, Samuel Eto'o n'a plus rien à prouver. *Au contraire*, il a presque tout gagné : [獲得したタイトルの列挙]. [○LDL²¹, ×ER] (camfoot.com²²)
- 35歳になり、すでに素晴らしい結果を残しているサミュエル・エトーにもはや証明すべきものはない。それどころか、彼はほぼ全てを勝ち取っている。アフリカネーションズカップを2回、[…]

さらに、(55)の *loin de là* は、*au contraire* に置き換えることができる一方、*en revanche* に置き換えることはできない。ここでは、「ハッカーという言葉が意味すること」をテーマに、「社会に有益な存在か否か」についてふたつのレーマが対立している。前件では、テーマである「ハッカー」に結びついた枠に、他者視点から、レーマ 1「不正行為を行うネットの海賊である」が入れられようとするが、話者に否定される。そして、後件では話者視点からレーマ 2「創造性を駆使して問題を解決する人である」が入れられ、確定する。

- (55) Les médias et les films ont gâché l'image du « hacker ». Un « hacker » n'est pas un pirate qui fait des choses illégales, *loin de là*. Un hacker, c'est quelqu'un qui utilise sa créativité pour résoudre des problèmes concrets. [○AC²³, ×ER] (defimedia.info²⁴)
- メディアや映画は「ハッカー」のイメージを落としめた。「ハッカー」とは不法行為を行うネットの海賊ではない。とんでもない。ハッカーとは、創造性を駆使して現実の問題を解決する人のことだ。

一方、2枠同視点型は *au contraire* のほか、*en revanche* の生起環境に見出すことができ、*loin de là* の生起環境に見出すことはできない。また、このタイ

プの環境に生起した *au contraire* を *en revanche* に置き換えることはほぼ可能である一方、*en revanche* から *au contraire* への置き換えに関しては、できるものとできないものがある。そして、いずれの場合も *loin de là* への置き換えはできない。

例えば、(56) の *au contraire* は、*en revanche* に置き換えることができる一方、*loin de là* に置き換えることはできない。ここでは、2 種類の「イスラエル人」がテーマとして提示され、「新たに起こるかもしれない戦争に対して取っている態度」についてふたつのレーマが対立している。前件では、テーマ 1「ある特定のイスラエル人」に結びついた枠に、話者視点からレーマ 1「新たな戦争を心配している」が入れられる。そして、後件では、テーマ 2「他のいくつかのイスラエル人」に結びついた枠に、同じ話者視点からレーマ 2「新たな戦争を望んでいる」が入れられる。

- (56) Si certains Israéliens qui habitent dans les zones frontalières avec Gaza se disent inquiets de la possibilité d'une nouvelle guerre, d'autres *au contraire* la souhaitent. [○ER, ×LDL] (rff.fr²⁵)
- ガザ地区に接したエリアに住むイスラエル人の中にはまた戦争が始まるのではないかと心配を口にする人たちがいるが、反対にそれを願う人たちもいる。

さらに、(57) の *en revanche* は、*au contraire* に置き換えることができる一方、*loin de là* に置き換えることはできない。ここでは、「書く人間」と「話す人間」をテーマに、「その性質」についてふたつのレーマが対立している。前件では、テーマ 1「書く人」に結びついた枠に、話者視点からレーマ 1「(必然的に) 孤独である」が入れられる。そして、後件では、テーマ 2「話す人間」に結びついた枠に、同じ話者視点からレーマ 2「相手が必要である」が入れられる。

- (57) L'homme qui écrit est un solitaire qui s'adresse à un lecteur solitaire,

soit qu'il rédige une lettre d'amour, soit qu'il compose un roman d'aventures. *En revanche*, l'homme qui parle a besoin d'un auditeur, car la parole solitaire est d'un fou. [○AC, ×LDL]

(Tournier, *Le miroir des idées* : 149)

書く人間とは孤独な読み手に訴えかける孤独な人間である。恋文をしたためていようが冒険小説を執筆していようが同じである。一方、話す人間は聞き手を必要とする。独り言は狂った人間のすることである。

また、(58)の *en revanche* は、*loin de là* との置き換えが認められない他、(57)と異なり、*au contraire* との置き換えはできない。ここでは、「ラルース・メディカル旧版」という辞典における「涙についての記述」と「笑いについての記述」をテーマに、「そのあり方」についてふたつのレーマが対立している。前件では、テーマ1「涙についての記述」に結びついた枠に、話者視点からレーマ1「ない」が入れられる。そして、後件では、テーマ2「笑いについての記述」に結びついた枠に、同じ話者視点からレーマ2「引用の価値がある」が入れられる。この例において、*en revanche* が *au contraire* と置き換えられないことについては、改めて触れることとする。

- (58) L'ancienne édition du *Larousse Médical* est muette sur les larmes.
En revanche sa description du rire mérite d'être citée : [...].

[×AC, ×LDL] (ibid. : 29)

ラルース・メディカル旧版は涙について何も語っていない。一方、笑いについての記述は引用の価値があるものだ。

このような生起環境の分布から、それぞれの連結辞が問題にしている対立のありかが見えてくる。これを表したものが図6、図7である。各連結辞がテーマ、レーマ、視点のいずれかにおいて機能していると考えた場合、1 枠別視点型にしかな生起できない *loin de là* は、視点（他者視点と話者視点）の関係性を問題にし

ていると考えられる。2 枠同視点型では視点に差異がないため、*loin de là* が対立を問題にすることができないのである。同様に、2 枠同視点型にしか生起できない *en revanche* は、テーマの関係性を問題にしていると考えられる。1 枠別視点型にはテーマがひとつしかなく、差異が存在しない。そして、1 枠別視点型にも 2 枠同視点型にも生起できる *au contraire* は、どちらの意味構造においても差異が存在するレーマの関係性を問題にしていると考えることができる。

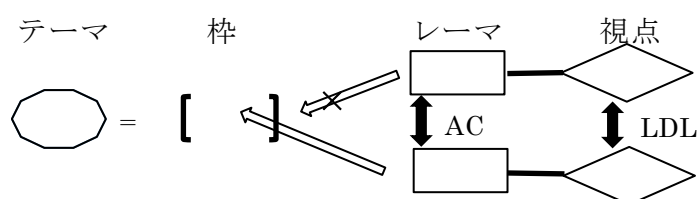


図 6：1 枠別視点型に生起する連結辞

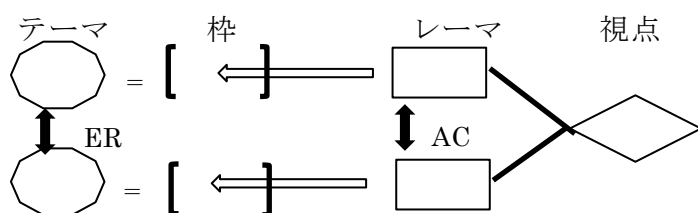


図 7：2 枠同視点型に生起する連結辞

この推論の裏付けとして、1 枠別視点型とも 2 枠同視点型とも異なる第 3 の意味構造の存在がある。これは 1 枠同視点型と名付けられるような構造である。

2.2.2. 1 枠同視点型の環境

1 枠同視点型では、ひとつのテーマに同じ視点からふたつのレーマが与えられる。ふたつのレーマに対して、枠も視点もひとつしかない。そのため、どちらのレーマも枠に入ることはなく、ふたつのレーマはテーマに対してどちらも確定されないまま可能性として提示される。視点の差異のない対称的構図である 1 枠同

視点型の意味構造は図 8 のように表すことができる。

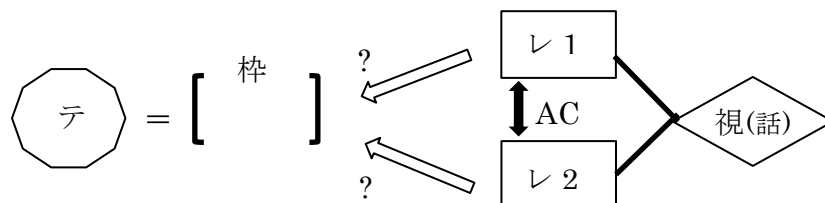


図 8 : 1 枠同視点型

そして、この環境における生起が見られるのは *au contraire* だけである。これは、1 枠同視点型の環境において差異が存在するのがレーマしかないからである。(59) は 1 枠同視点型の例であり、*en revanche* にも *loin de là* にも置き換えはできない。ここでは、「あるボイコットキャンペーン」をテーマに、「その目的」についてふたつのレーマが対立している。前件では、テーマ「ボイコット運動」に結びついた枠に話者視点からレーマ 1「ただのパレスチナ人支援である」が、後件では、同じ枠に同じ視点からレーマ 2「より口に出しづらい要求が裏にある」が提出される。そして、どちらのレーマも確定されることなく、可能性として提示されているのは、ふたつのレーマに対して枠がひとつしかないためである。

- (59) La campagne BDS, pour le boycott des produits israéliens en provenance des territoires occupés, a-t-elle pour seul objectif le soutien au peuple palestinien ou *au contraire*, cache-t-elle une revendication bien plus inavouable : la disparition pure et simple de l'Etat d'Israël. [×ER, ×LDL] (marianne.net²⁶)

占領地域からのイスラエル製品をボイコットする BDS キャンペーンは、パレスチナの人々を支えることのみを目的としているのか、あるいは、反対に、より口に出しづらい要求を内に秘めているのであろうか。つまり、イスラエルという国の純然たる消滅という要求を。

ここまで、3 種類の環境それぞれにおいて、生起する連結辞が異なることを見てきた。この分布を表したものが表 1 である。en revanche はテーマがふたつ存在する環境にのみ生起し、au contraire は全ての環境に生起し、loin de là は視点の差異がある環境にのみ生起することがわかる。そして、このことから、en revanche はテーマの関係性、au contraire はレーマの関係性、loin de là は視点の関係性にフォーカスした表現である、という結論に至ることができる。

表 2：連結辞の生起分布

	en revanche	au contraire	loin de là
1 枠別視点型	× (テーマ x1)	○ (レーマ x2)	○ (別視点)
2 枠同視点型	○ (テーマ x2)	△ (レーマ x2)	× (同視点)
1 枠同視点型	× (テーマ x1)	○ (レーマ x2)	× (同視点)

ただし、生起環境の観察から全てが説明できるわけではない。表 1 の 2 枠同視点型では、au contraire が△となっている。これは 2 枠同視点型における au contraire の生起可能範囲が en revanche よりも狭いことを反映したものだが、これは意味構造の図式では扱えない問題である。そこには au contraire と en revanche がかける意味論的な制約の違いが関わっているように思われる。

2.3. au contraire と en revanche：意味論的制約の違い

Danjou-Flaux (1983 : 275) は、au contraire を他の対立表現と区別する最も基本的な特性を、「対立する要素が極限まで遠ざかり、互いの対極に位置する」ことであると述べている。この「対極」というのは重要な概念である。au contraire の前後の項が互いの対極に位置すると理解されるということは、その両極を作り出すような対立軸が想定されるということでもあるからだ。例えば、Masseron et Wiederspiel (2003 : 326) は、au contraire の前後において、肯定と否定、量の大小、善し悪しといった価値観のプラスとマイナスの逆転が起こるとしているが、

これは前後に共通の基準なしには実現できない。この基準を要求するのが対立軸であり、この対立軸上の両端が「対極」となるのである。このことから *au contraire* の意味論的な機能を、一本の対立軸上の両端に前後のレーマを配置するものと推定できる。この機能は *au contraire* の語彙的な構成要素の中でも、とりわけ *contraire* に関連付けられる。「相反する（『小学館ロベール仏和大辞典』）」関係性を表現する *contraire* はふたつの要素を対立させるためにひとつの評価基準を求める。この評価基準を軸として対立が生じるため、前後のレーマが互いに相容れないものとして提示される、というメカニズムである²⁷。(60) [= (58)] の *en revanche* を *au contraire* に置き換えることはできなかった。(60)における前件のレーマ「(涙についての記述が) ない」は量的である一方、後件のレーマ「(笑いについての記述は) 引用の価値がある」は質的であり、これを一本の軸で解釈することはできない。(60a)のように、後件のレーマを前件に合わせて「(笑いについての記述は) 豊富である」というように下線部を量的なものに変えることで *au contraire* の生起が可能になる。このような意味論的制約がレーマにかかることが *en revanche* から *au contraire* への置き換えの可能性を限定的なものにしていると考えられる²⁸。

(60) L'ancienne édition du *Larousse Médical* est muette sur les larmes.
En revanche sa description du rire mérite d'être citée : [...].
 [×AC] [= (58)]

(60a) L'ancienne édition du *Larousse Médical* est muette sur les larmes.
Au contraire la description du rire y est abondante.

では、*en revanche* の生起には意味論的制約がかからないのか。そういうわけではないだろう。Paillard et Vu Thi Ngan (2012 : 53-57) は、名詞 *revanche* が「見返りの行為」を表すことから、*en revanche* の機能は「補い合う前件と後件を用いて、ある事柄の全体を表現する」ことである、という考え方を提示している。この考え方を *en revanche* の生起環境に照らし合わせると、前件と後件のテ

一マが、**en revanche** の機能によって、ある全体性を相補的に表現するふたつの側面として提示される、ということになる。(60) の意味構造におけるテーマは「涙の記述」と「笑いの記述」であったが、この例が « **Le rire et les larmes** » というタイトルの文章からの抜粋であることを加味すると、このふたつのテーマがふたつの側面としてテキスト全体を象徴しているという解釈が可能である。**en revanche** が生起するにあたって全く意味論的制約をかけないということも考えづらい。しかし、生起するにあたって前後のテーマが何かしらの全体性を想起させることができればよく、**au contraire** のようにレーマに厳しい制約をかけることがないとすれば、このことが 2 枠同視点型の環境において **en revanche** が **au contraire** より自由に生起できる理由ではなかろうか。

ここまで、対立を表す連結辞の生起環境を記述するために必要な概念を導入し、それを用いた分析によって、それぞれの環境において各連結辞が意味構造のどの要素を問題にしているかを明らかにした。意味構造の図式において各連結辞が問題とする差異の位置が異なるために、その構造が変わると連結辞のあり方も変化するのである。このように対立表現をその生起環境から分析していくことで、フランス語における対立概念の現れ方を体系的に記述することが可能になり、また意味論的分析の第一歩にもなるように思われる。2.2.節では、**au contraire** が全ての意味構造において生起することから、レーマの関係性にフォーカスすると結論づけた。**au contraire** が適応する意味構造の多様さは、差異を述べる部分であるところのレーマ、それ自体に **au contraire** がフォーカスする点にあると言える。対立の意味構造は、それが対立の意味構造であるからして常にレーマをふたつ有しているが、レーマがふたつあれば意味構造レベルで **au contraire** の生起を阻むものは他にないのである。この点から、対立構造それぞれの記述を行うには **au contraire** の用法の分布を詳細に記述することが重要となってくる。次の章では、**au contraire** の用法の全体像を、とりわけそれぞれの境界に注目して記述し、分析概念の精緻化も試みる。

第3章 au contraire の用法群とその理論的記述

第2章では、対立の意味構造を図式化し、生起環境として、非対称的構図の1枠別視点型、対称的構図の2枠同視点型、同じく対称的構図の1枠同視点型の3種類に分類した。その上で、対立を問題とする連結辞がそれぞれの生起環境の異なる位置をフォーカスしているという仮説を立てた。その定義上、本研究で問題となる連結辞の生起環境のレーマには差異が存在する。そして、そのレーマを直接フォーカスするのは **au contraire** である。これは3種類の環境すべてにおいて **au contraire** の生起が見られたことから導き出された結論であるが、それは同時に、対立を問題とするフランス語の連結辞群の中でも **au contraire** が中心的な位置付けにあることを示している。第3章では、この **au contraire** に焦点を絞り、それぞれの生起環境における **au contraire** のあり方を用法として記述していく。

3.1. au contraire における3用法

まずは、第2章で提示した3種類の意味構造に当てはまる典型例を提示する。2.3.で述べたように、**au contraire** が例文中のどの要素をレーマに取り互いの対極に位置付けているのか。その用法的特徴を記述する。

3.1.1. 1枠別視点型：反駁用法

1枠別視点型の大きな特徴は前件と後件の議論が直接対立するのではなく、前件において否認されている要素を対立するレーマとしている点である。(61)の意味構造は1枠別視点型に位置付けられる。これを反駁用法と呼ぶこととする。

- (61) [...], voir des films japonais n'équivaut pas à faire un voyage touristique au Japon. *Au contraire*, c'est peut-être voir ce qu'aucun touriste ne verra.

(Claire Denis, « Le regard de l'autre », dans *Passages*, 2001 : 44)

日本映画を見ることは、日本に行って観光をすることとは同じではありません。それどころか観光客が誰一人として見ないものを目にすることでしょう。

(61) の前件の議論「日本映画を見るということは、日本に行って観光をすることと同じではない」と後件の議論「日本映画を見るということは、観光客が誰一人として見ないものを目にすることである」は対立していない。後件の議論と対立しているのは前件で否認されている「日本映画を見るということは、日本で観光することと同じである」という議論である。従って、(61) の意味構造は「日本映画を見るという行為」をテーマとした前件のレーマ「日本で観光することと同じである」と後件のレーマ「観光客が誰一人として見ないものを目にすることである」に分析することができる。このレーマの組み合わせからは、「日本映画を見るという行為は日本を知ることにおいて観光することと同じか、あるいは異なるのか」という対立軸を見いだすことができる。この対立軸によると、後件のレーマは「異なる」と主張する方向性に位置付けられる議論である。しかし、対立軸上の「同じ」という方向性に前件の「日本で観光することと同じである」というレーマが位置付けられているのに対し、対立軸上の「異なる」という方向性に後件の「観光客が誰一人として見ないものを目にすることである」というレーマが与えられるのは互いの対極というには少々前後に偏りが感じられる。そして、この例に限らず 1 枠別視点型の場合、対極に位置付けられているはずの前件のレーマに対して後件のレーマが「強い」議論となっている場合が多い。Masseron et Wiederspiel (2003 : 326) は、1 枠別視点型のような場合の後件の議論には極性が備わっているとしている。すなわち、ここでいう「観光客が誰一人として見ないものを目にすることである」は、対立軸における「異なる」方向性の極限に位置付けられた議論だということである。1 枠別視点型における話者は、対立軸の極値を表現する議論を求め、それが後件のレーマとなる。例えば、(62) より (63)、(63) より (64) がより自然に感じられる表現となるのは、(64) の後件が一番

優れて「寒い」という方向性の極値を表現していると感じられるからである。

(62) Il ne fait pas chaud aujourd'hui, *au contraire* il fait froid.

今日は暑くない。それどころか寒い。

(63) Il ne fait pas chaud aujourd'hui, *au contraire* il fait très froid.

今日は暑くない。それどころかとても寒い。

(64) Il ne fait pas chaud aujourd'hui, *au contraire* il fait un froid de canard !

今日は暑くない。それどころかひどい寒さだ。

このように考えると、後件のレーマが与えられる前に、すでにその極値は示されていることになる。*au contraire* が前件のレーマの対極としてこの極値を示すのである。後件のレーマの極性は構造的に与えられているのである。従って、後件のレーマと前件のレーマが釣り合っていないというのは、後件のレーマが極性を持っているのに対して前件のレーマが極性を持っていないことを意味している。なぜ前件のレーマには極性が無いのか。それは、1 枠別視点型において前件のレーマが否認されることと関係している。極性を持った表現はこの構造の求めるような形で否認することができないのである。極性を持った主張とはつまり、ある方向性をもった議論があり、その方向性が極限まで進められる、といった 2 段階の操作で理解される。このような一段強められた叙述に否定をかけると、その否定は部分否定、つまり 2 段階目の操作のみにかかり、もともとの議論全体は否定されない。例えば *faire chaud* という議論に極性を加えると *faire très chaud* という極性を持った議論が得られるが、これを *ne pas faire très chaud* のように否定しても *faire chaud* という議論自体は否定されない。つまり議論の極性は否定によって弱められるがその議論の方向性自体は保持されるのである。一方、1 枠別視点型で求められる否認は、導入した議論全体を否定し、前件の議論の方向性が後件の議論と矛盾しないようにしなくてはならない。つまり、ある議論を否認するためにはその議論を丸ごと破棄しなくてはならないが、議論に極性が含まれ

ているとそれが出来なくなるのである。前件のレーマを否認するという選択がなされている以上、1 枠別視点型の意味構造において前件のレーマは極性を持ちようが無い。結果として前件の極性を持たないレーマと後件の極性を持ったレーマの関係に不釣り合いを感じるのである。そのようなある種不完全とも言える前件のレーマはどのような意図を持って導入されるのか。1 枠別視点型における前件のレーマは否認することによってディスクール上に導入された他者視点のレーマであったが、その導入意図は後件のレーマを位置付ける起点を作ることである。他者視点のレーマを導入することで話者はあらかじめ反対の主張を定めることができ、また、否認も含めた前件の議論から後件の議論がより進んだ議論になる言いつのりの表現効果も相まって、話者は後件の主張を効果的に行なうことができる²⁹。そのような意味で1 枠別視点型は論証的な意味構造であると言える。他者視点のレーマを用いて反駁的な論証の流れを作り出し、自らの主張を行うのが1 枠別視点型の *au contraire* の用法なのである。

3.1.2. 2 枠同視点型：対比用法

1 枠別視点型が反駁的な構造であるとするれば、2 枠同視点型の構造は対比的なものであると言える。(65) の意味構造は2 枠同視点型に位置付けられる。これを対比用法と呼ぶこととする。

- (65) Du chien, on attend une impulsion à ouvrir la porte et à partir à la conquête du dehors. L'homme ne promène pas son chien, c'est lui qui est promené par son chien. [...] *Au contraire*, le chat invite à rester à la maison, à s'acagner au coin du feu ou sous la lampe.

(Tournier, « Le chat et le chien », *Le miroir des idées*, 1994 : 55-56)

犬には、人は扉をあけて外に踏み出す推進力を期待する。人間が犬を散歩させるのではない、犬が人間を散歩させているのだ。反対に猫は家に留まるよう、暖炉のそば、あるいは明かりのもとでなにもせずにじっと

しているようしむける。

言語現象としての対比では、ふたつの比較対象それぞれについて何かが述べられることになる。「(対比では) 2つの実体を比較する時、(…)、まずその異なる実体の共通点を探してから区別を行なう」と Beyssade (2006 : 20) が述べるように、差異が述べられる前にその対象にはまずある種の近接性が求められるはずである³⁰。(65)では、「犬」について「外に踏み出す推進力となるものだ」と述べられ、「猫」について「家の中でなにもせずにじっとしている気にさせるものだ」と述べられている。ここでは「犬」と「猫」は「最も家の中に入り込んだ動物」という共通点を持った近い存在である³¹。これはすなわち、文脈内で比較に足るだけの近接性を獲得しているということである。これを対象にふたつの叙述が与えられ、その差異が述べられている。従って、「犬」と「猫」がテーマ（差異の在りか）、「外に踏み出す推進力となるものだ」と「家の中でなにもせずにじっとしている気にさせるものだ」がレーマ（述べられている差異）である。そして、このレーマの組み合わせからは「人を家の外に向かわせるものか、あるいは家の内に向かわせるものか」という対立軸を見いだすことができる。このように、2枠同視点の構造では、テーマは対比の対象であり、その差異を述べるレーマの関係に *au contraire* が対立を持ち込む形となる。

3.1.3. 1 枠同視点型：選択保留用法

1 枠同視点型の意味構造とは、ひとつのテーマにふたつのレーマが、どちらも確定的には述べられない構造であった。(66)は 1 枠同視点型の意味構造を持つ例である。これを選択保留用法と呼ぶこととする。

- (66) Qu'est-ce qu'un couple harmonieux ? Le monsieur et la dame doivent-ils se ressembler, ou *au contraire* se compléter grâce à des qualités opposées ?

(Tournier, « Endogamie et exogamie », *Le miroir des idées*, 1994 : 39)

調和のとれたカップルとはどのようなものであろうか。旦那と夫人は似通っているべきであろうか、あるいは反対に相反する資質によって補いあっているべきであろうか。

(66) では、前件における「(調和のとれたカップルをなすには) 旦那と夫人は似通っているべきであるか」という議論と、後件における「(調和のとれたカップルをなすには) 旦那と夫人は相反する資質によって補いあっているべきであるか」という議論が対置されている。ここでのテーマは「旦那と夫人」であり、レーマは「似通っているべき」と「相反する資質を持って補い合っているべき」のふたつである。このレーマの組み合わせからは「(調和のとれたカップルをなすには) 旦那と夫人は似通っているべきか、異なっているべきか」という対立軸を見出すことができる。話者はふたつのレーマを提示するだけで、実際似通っているべきなのか、異なっているべきなのかは決定していない。レーマの選択を保留しているのである。ここに *au contraire* が対立を持ち込むことで、どちらかが選択されるともう片方は排除されるという二者択一の関係が強化される。なぜ、*au contraire* によって二者択一の読みが強化されると考えられるのか。それは *au contraire* の生起によってテーマに枠が複数設定される可能性が完全に排除されるからであるが、それを説明するには、枠の概念を精緻化する必要がある。

3.2. 理論化と意味構造の境界

3.1.3.節で扱った *au contraire* の選択保留用法をはじめ、*au contraire* の用法を正確に記述していくためには、テーマ、レーマ、視点の概念だけではまだ不十分である。ここからは、枠の概念を精緻化し、判断者の概念を導入することによって、3種の意味構造と *au contraire* のもたらす対立との関わりや、各用法の境目にあるような用法の記述を行う。

3.2.1. 枠と分割 2 枠型

枠とは、テーマにレーマが結びつくために想定される場であった。レーマは枠に入り込むことでそのテーマについて決定され、ひとつのテーマについて決定されるレーマの数はその枠の数に対応する³²。従って、構造によってはテーマひとつに枠が複数個与えられることもある。(67-69)を用いて説明しよう。まず、(67)のような、*X est P et Q.*の構文において、テーマ *X* について用意される枠はふたつである。

(67) *Pierre est beau et sympa.*

ピエールはかっこいいし感じもいい。

この例では、「ピエール」というテーマに「かっこいい」というレーマと「感じがいい」というレーマが決定される。これは、テーマ *X* について枠がふたつ用意され、そのそれぞれの枠に *P* と *Q* というふたつのレーマが入り込んでいると理解できる。同様に、*X est P, Q et R.*という構文であれば、(68)のように、テーマ *X* について用意される枠は3つになる。

(68) *Pierre est beau, sympa et intelligent.*

ピエールはかっこよく、感じがよく、そして賢い。

この例においてもテーマ「ピエール」に3つのレーマ「かっこいい」、「感じがいい」そして「賢い」が決定している。つまり、テーマ *X* について枠が3つ用意され、その枠に *PQR* 3つのレーマがそれぞれ入り込んでいる構造である。しかし、(69)のように、*X est P ou Q.*という構文をとれば、特殊な場合を除いてテーマ *X* について用意される枠は1つしかない。

(69) Pierre est fou ou génial.

ピエールは狂っているか天才かだ。

この例において、「ピエール」は「狂っている」か「天才である」かのどちらかでありえない。つまり、テーマ X には、提示されているふたつのレーマ PQ に対してひとつ分の枠しか用意されていないということになる。共にテーマがひとつの (67-69) において、(67) と (68) では枠の数がレーマの数に一致している一方で、(69) では提示されているレーマの数より少なくなっているのである。この枠とレーマの数の違いはレーマの決定に違いをもたらしている。(67) と (68) においてはすべてのレーマが枠に入り込んでいる一方で、(69) の発話が行なわれた時点では、どちらのレーマも枠に入り込んでいない。つまり、(69) の発話時点において、「ピエール」が「狂っている」か「天才である」かは決定されていないということである。これは、レーマの数と枠の数の不均衡から説明できる。つまり、ふたつのレーマがひとつしかない枠に入り込もうとすることで、レーマが衝突し、結果としてどちらも枠に入りこめない状態が作られているということとなる。

3.1.節で見た *au contraire* の 3 種の意味構造はどれもテーマと枠の数が等しかった (1 枠別視点: テーマ 1、枠 1 ; 2 枠同視点: テーマ 2、枠 2 ; 1 枠同視点: テーマ 1、枠 1)。テーマの数と枠の数の組み合わせの決定に *au contraire* は関与的ではないが、テーマと枠の数が等しくないと *au contraire* はその環境に生起できない。なぜそのような制限が生じるのか。それは、*au contraire* の意味論的な機能に関係がある。*au contraire* は基本、前後のレーマを対立軸上の両極に配置するが、対立軸上で対極に位置するレーマは同じテーマについて両立することができないのである。同じ対象について同一の視点から美しいという判断と醜いという判断を同時に下すことは矛盾であるが、これが矛盾するのはいずれの判断も美醜という同一の尺度を用いてなされているからに他ならない。*au contraire* は、前後のレーマを対立軸上に位置づけることで同一の判断基準で解釈することを求め、結果としてこれと同様の矛盾を意味構造上で引き起こすのである。この

制約は意味構造の図式を用いると、*au contraire* はテーマひとつにつき枠ひとつの環境にのみ生起すると表現できる。同一の判断基準の元でなされた判断はひとつの対象につきひとつしか確定できないのである。*au contraire* が問題とするレーマはふたつだが、2 枠同視点型ではテーマもふたつあるため枠とレーマの数に不均衡が生じず、どちらのレーマも枠に入り込むことができる。1 枠別視点型では、テーマがひとつしかなく、枠ひとつにレーマふたつという数の不均衡が生じるが、前件のレーマが否認されるため後件のレーマが枠に入り込む。そして、1 枠同視点型では、テーマひとつに枠ひとつのままレーマとの数の不均衡が解消されず、どちらのレーマも確定しない。テーマひとつに枠がふたつ設定されればレーマは枠に入り込むことができるが、*au contraire* はその制約のためにこの環境に生起することができない。逆に、前件に否認のない 1 テーマの環境に *au contraire* が生起しているということは、1 枠同視点の意味構造が確定していると判断することができるのである。

では、次のような例はどのように分析するのか。

- (70) *Comme d'habitude, vous êtes encore nombreux à avoir joué vos numéros préférés, ou au contraire les avoir choisis totalement au hasard, pour tenter de devenir millionnaire.* (*gentside.com*³³)
- いつも通り、みなさま方の中には、百万長者となるべく、いつもと変わらない数字で勝負するか、あるいは反対に全くの偶然性にまかせて数字を選ぼうという人達が今回も大勢います。

(70) はロトの当選番号を告知するインターネットサイトの中に出てきた文である。この場合の前件のレーマ「いつもと変わらない数字で勝負する」と後件のレーマ「まったくの偶然性にまかせて数字を選ぶ」はロトを購入するページにあるふたつのボタンを指している。この例における意味構造上のテーマは「あなた方」である。前後のレーマを与える視点はいずれも話者視点であり、一見 1 枠同視点型に見える例である。しかし、これを 1 枠同視点型の構造と取ると矛盾する点が

ある。それは、「あなた方」の中に「いつもと変わらない数字で勝負する」ような人と「まったくの偶然性にまかせて数字を選ぶ」ような人がいることを話者が保留していないという点である。前後のレーマがひとつしかないはずの枠に収まっているのである。実はこれは、分割2枠型という1枠同視点型とは別の意味構造であり、2枠同視点型の範疇に含まれるいわば1枠同視点型との境界例である。この例を分割2枠型たらしめている要素は **vous** で表されているテーマ「あなた方」の複数性である。話者は、テーマにレーマを確定させているものの、テーマである「あなた方」の全体に前件のレーマも後件のレーマも重複して確定させているわけではない。そうではなく、「あなた方」は「いつもと変わらない数字で勝負する」ような人たちと「まったくの偶然性にまかせて数字を選ぶ」ような人たちで構成されていると述べているのである。(インターネットにおけるロトの購入ページでは、番号選択の欄の上部に購入者の履歴を参照して同じ番号を選ぶボタンと自動でランダムに番号を選択するボタンとが提示されている。このことから、このやり方がロトの運営側が提示するふたつの大きな番号選択のパターンであることがわかる。) つまり、意味構造内でテーマはふたつに分割され、ふたつの枠がそれぞれに出来上がることで、その片方には前件のレーマ、もう片方には後件のレーマが確定するのである。この意味構造はテーマの複数性、つまり量的な分割可能性によって成立する。テーマが量的に分割されることで、枠もふたつになり、**au contraire** の1テーマ1枠の制約も守られたまま、レーマが枠に確定するのである。

ここまで、対立の意味構造における枠の概念を精緻化し、1枠同視点型と2枠同視点型の境界を提示した。次は、判断者の概念を導入し、他の意味構造の間の境界も明らかにする。

3.2.2. 判断者と2判断者タイプ

判断者とは、レーマを枠に入れ込もうとする意味構造上の主体で、話者視点と他者視点は特別なステータスを持った判断者であると言える。つまり、前者は最

最終的に発話を引き受ける行為主体となる判断者であり、後者は反駁の相手としての判断者である。そうでない判断者は例えば次のような場合に問題となる。(71)は2 枠同視点型の2 判断者タイプの例である。

- (71) (元ヨーロッパ・エコロジー＝緑の党所属の元老院議員ジャン＝ヴァンサン・プラセ氏について) Pour les uns, l'ex « Richelieu » des Verts a été un alchimiste hors pair capable de transformer le plomb en or : les 2% à la présidentielle en deux groupes parlementaires et deux ministres ! Pour les autres, *au contraire*, ses calculs politiques et ses accents mollétistes font grand tort à l'image des écolos dans l'opinion.
(*nouvelobs.com*³⁴)

ある人々にとっては緑の党の元「リシュリユー」は鉛を金に変えられる比類なき錬金術師であった。なんせ大統領選挙における2%を2つの院内会派と2人の大臣に変えてしまったのだ！他の人々にとっては、反対に、彼の策謀的な計算やギー・モレ風の語り口は世論における党のイメージを大きく損なうものだ。

(71) では、前件のレーマ「比類なき錬金術師である（物事の進め方が党にプラスである）」と後件のレーマ「そのやり口が党のイメージを大きく損なう（物事の進め方が党にマイナスである）」が並置されており、その所在であるところのテーマは「J.-V. プラセ氏」である。テーマはひとつしかないが、どちらのレーマもテーマについて決定している。すなわち、意味構造において枠がふたつ構築されているということである。(71) の意味構造は前件も後件も対称的な構図で述べられた同視点型だが、前件のレーマも後件のレーマも「J.-V. プラセ氏」についての話者の意見ではない。前件のレーマは「ある人々」側に帰属し、後件のレーマは「他の人々」側に帰属しているのである。この「ある人々」と「他の人々」がこの例における判断者である。このふたつの判断者があることで、テーマ「J.-V. プラセ氏」について枠がふたつ構築されていると考えられる。3.2.1.節では、X est

P ou Q. という構造において、レーマの数と枠の数の不均衡のためにレーマが枠に入り込むことができないことを見た。これは、判断者が 1 人しかいない構造だと言することができる (X est P ou Q pour I.)。一方、X est P pour I, (et / mais) Q pour J. という構造であれば、判断者 I と判断者 J がそれぞれ独自の枠を構築し、前者はレーマ P を、後者はレーマ Q をそれぞれ自分の構築した枠に入れ込むことで、(72) のように、どちらのレーマもテーマ X について決定される構造になる。

(72) Pierre est fou pour ses camarades, mais génial pour sa mère.

ピエールは友人達に言わせれば狂っているが、母親に言わせれば天才である。

この構造では、ふたりの判断者 ((72) : 「友人達」と「母親」) それぞれにとってひとつのテーマに枠がひとつであるため、*au contraire* の制約 (1 テーマにつき 1 枠) がクリアされる。「狂人である」という判断と「天才である」という判断が同一の尺度のもとでなされたところで、判断する人物が異なれば矛盾をきたすことはないのである。(71) も同様に、「ある人々」と「他の人々」という判断者がそれぞれ独自の枠を構築し、そこにテーマ「J.-V. プラセ氏」についてのレーマを確定させている。この 2 枠同視点型 2 判断者タイプの構造があるため、テーマがひとつしか無いにもかかわらず、レーマが決定した状態で *au contraire* が生起できるのである³⁵。

2 枠同視点型と 1 枠別視点型の境界例はこの 2 枠同視点型 2 判断者タイプとなる。次のような場合がその境界例である。

(73) Selon les autorités népalaises, le sacrifice rituel des animaux est une tradition religieuse vieille de plusieurs siècles qui doit se perpétuer. Ces pratiques donnent *au contraire* « une image extrêmement négative de votre pays et de son évolution », affirme l'ancienne actrice. (lepopulaire.fr³⁶)

ネパール当局に言わせれば、儀式における動物の生け贄は何世紀も前からある宗教的伝統であり、ずっと続けられるべきものである。反対にこのような慣行は「あなた方の国とその発展について極めて悪い印象」を与えるものだ、と元女優は主張している。

(73) では、「動物の生け贄」をテーマとする前件のレーマ「何世紀も前からある宗教的伝統であり、ずっと続けられるべき（永続すべき宗教的伝統である）」と後件のレーマ「「あなた方の国とその発展について極めて悪い印象」を与える（止めるべき慣行である）」が並置されており、どちらのレーマもテーマについて決定している³⁷。前件のレーマは「ネパール当局」側に帰属し、後件のレーマは「元女優」側に帰属しており、これが判断者として2判断者タイプの構造を成立させていることがわかる。(73) と (72) の違いは、このふたつの判断者が実際に反駁の関係にあることである。前件の判断者「ネパール当局」と後件の判断者「元女優」はテーマ「動物の生贄」についての見方の正しさを争っている当事者であり、この点において(72)の「ある人々」と「他の人々」が「J.-V. プラセ氏」についての見方の正しさを争っている主体同士とまでは言いづらい。そして、この(73)のような例は反駁用法である1枠別視点型の間接話法のような構造となっていると言える。(73) では、「ネパール当局」に対して「元女優」が自分の正しさを主張する様を第三者の話者が間接的に伝えている。そして、そこで伝えられている内容は、話者視点「元女優」が他者視点「ネパール当局」に対して「動物の生贄を永続すべき宗教的伝統だとするのは間違っている。(反対に、)あなた方の国とその発展について極めて悪い印象を与えるものである」と反駁的に主張する様である。つまり、2枠同視点型の2判断者タイプと1枠別視点型は、構造レベルで言えば、判断者が話者視点と他者視点というステータスを得るか否かの違いなのである。このように、2枠同視点型と1枠別視点型の境界は2枠同視点型2判断者タイプに見出すことができるのである。

ここまで、枠と判断者という意味構造における概念に言及し、それによって用法間の境界に位置付けられるタイプの用法について見てきた。それぞれ、分割2

枠型は2枠同視点型と1枠同視点型の境界に、2判断者タイプは2枠同視点型と1枠別視点型の境界に位置付けられる用法である。この意味構造と用法の関係性を表したものが次の表である。

表 3 : *au contraire* の意味構造と用法

対称性	非対称的	対称的			
意味構造	1 枠別視点型	2 枠同視点型			1 枠同視点型
用法	反駁	2 判断者	対比	分割 2 枠	選択保留

境界的な用法であるところの2判断者タイプと分割2枠型は共に範疇としては2枠同視点型に含まれる。なぜなら、これらはいずれも1枠別視点型あるいは1枠同視点型という1枠の構造に親和性がありながら、何らかの要素が枠を2つにしている用法だからである。*au contraire* の生起する環境における意味構造を詳細に見ていくことで、対立が生じうる環境のヴァリエーションが明らかになった。次の章では、対称的な構図を持った環境で生起する連結辞について扱っていく。

第4章 対称的構図に生起する対立表現

第2章では、*en revanche* が2枠同視点型の意味構造にのみ生起することから、*en revanche* がテーマの差異にフォーカスする連結辞であるとした。第4章では、この *en revanche* を始めとする対称的構図に生起する対立表現を取り上げる。

4.1. *par contre* と *en revanche*

しばしば *en revanche* と同じような意味の表現とされる連結辞に *par contre* があるが、*par contre* も *en revanche* と同じく2枠同視点型の環境に生起し、テーマの差異にフォーカスする表現であるように思われる。*par contre* の例(74)では、前件のテーマ「庭」と後件のテーマ「家」のあり方に対立があり、*en revanche* の例(75)では、前件のテーマ「彼に欠けたもの」と後件のテーマ「彼の知っていること」についてそのあり方に対立がある。

- (74) Si le jardin se trouvait à l'ombre, la maison, *par contre*, était en plein soleil. (Maupassant, *Les Dimanches d'un bourgeois de Paris*, 1880, cité par *Trésor de la Langue Française informatisé*)

庭こそ日の当たらない場所に位置していたが、建物は、反対に、とても日当たりが良かった。

- (75) Ce qui lui manque [à Couture], je crois qu'il ne l'acquerra jamais. *En revanche*, il est bien maître de ce qu'il sait.

(Delacroix, *Journal*, 1847, cité par *ibid.*)

彼に欠けているもの、彼がそれを獲得することはないだろうと私は思う。
反対に、彼は知っていることに関しては完全にものにしている。

(76ab) は Danjou-Flaux (1987) で提示された例である³⁸。(76a) と (76b) の違いは、天気のある方によって (76a) では行き先が「映画」から「散歩」に

なる一方、(76b) では行き先が変わらず「映画」である。(76a) では、いずれの連結辞も生起可能だが、(76b) では、*au contraire* しか生起することができない。これを提示した Danjou-Flaux (1987) は、(76a) から (76b) への連結辞の生起不可不可の変化の理由を説明していないが、これは各連結辞が意味構造上でフォーカスする位置の問題である。

(76a) S'il fait mauvais, j'irai au cinéma ; mais si (AC+PC+ER) il fait beau, j'irai me promener. (Danjou-Flaux, 1983 : 290)

もし天気が悪ければ、映画を観に行く。しかし、もし反対に天気が良ければ、散歩しに行く。

(76b) S'il fait mauvais, j'irai au cinéma ; mais si (AC+*PC+*ER) il fait beau, j'irai au cinéma aussi. (id.)

もし天気が悪ければ、映画を観に行く。しかし、もし反対に天気が良くても、映画を観に行く。

まず、レーマの差異にフォーカスし、テーマに差異を求めない *au contraire* が生起すると、例文の *si* 節の中で問題となっている天気の良し悪しをレーマに取ることになると考えられる。天気の良し悪しが問題になる点は、(76a) と (76b) に共通しているため、(76a) も (76b) も *au contraire* は生起可能となる³⁹。一方、テーマに差異を求める *en revanche* はテーマに差異のない環境に生起することができない。(76a) では、テーマに「天気の悪い場合」と「天気の良い場合」をとり、レーマに「映画」と「散歩」をとることができるため、2 枠同視点型の意味構造が成立し *en revanche* が生起できる。しかし、(76b) では前後のレーマが「天気の良し悪し」にしか設定できず、テーマにあたるものが見出せないのも、*en revanche* は生起できないのである。そして、同じく (76a) に生起可能で (76b) では生起出来ない *par contre* もやはり、テーマの差異にフォーカスした表現であることがわかる。

このように、共にテーマ間の差異を問題とする連結辞である *par contre* と *en*

revanche には意味構造レベルの違いは認められない。したがって *par contre* と *en revanche* の違いは意味構造レベルではなく意味論上に求められることとなる。まず扱うのはこの意味論上の差異についてである。そして、このレベルにおいても *par contre* と *en revanche* の違いを見出すことは容易でないことを明らかにしたのち、両連結辞に共通する対立の意味構造の記述を試みる。

4.1.1. 先行研究： *par contre* と *en revanche* の意味論的機能

Grevisse (1980 : § 2525) によると、*par contre* は「全く一般的に単純な対立を表す」一方、*en revanche* は「対立の概念に、幸福なかたちで取り戻された均衡という特有の概念を付加する」ものである。ここで *par contre* と *en revanche* の違いとなっているのは *en revanche* における「幸福な再均衡 (*équilibre heureusement rétabli*)」という概念であろう。他の先行研究ではどのような記述が行われているのか。ここでの主題である *par contre* と *en revanche* の比較は先行研究の見解も含めて次節で扱うが、その前に、まずここでは Hamma et Haillet (2002) や Paillard et Vu Thi Ngan (2012) といった先行研究による *par contre* と *en revanche* に関する個別の記述を取り上げることとしよう。

4.1.1.1. *par contre*

Hamma et Haillet (2002 : 107) は、*par contre* の前件と後件の関係には、前件と後件が釣り合う場合と後件が前件の制限にとどまる場合とがあると述べている。(77) は前者、(78) は後者の場合である。

(77) Le magasin est assez exigü, *par contre* il est bien situé.

(*Le Robert Méthodique*, 1989, cité par *ibid.* : 107)

お店はかなり手狭だが、逆に立地は良い。

(78) Un avocat vous sera commis d'office. *Par contre*, vous ne pourrez

vous entretenir avec lui qu'à partir de la vingtième heure.

(ibid. : 108)

あなたには国選弁護人がつきます。ただし、その弁護士と面会ができるのは20時間経ってからになります。

(77) では、お店の物件としての価値に関して、「お店が狭い」ことと「立地が良い」ということが価値づけの論拠として釣り合っているように感じさせる一方、(78) では「国選弁護士がついてくれる」という前件が導く結論を、「彼とすぐに話すことができない」という後件は制限するだけで完全に相殺するわけではない。そして、*par contre* におけるこのような前件と後件の関係性を踏まえ、Hamma et Haillet (2002 : 108) はその意味論的価値付けを提案している。*par contre* の同義語として *en revanche* とともに一般的にあげられる表現に *en compensation* があるが、Hamma et Haillet (2002) はこの連辞を成しているところの *compensation* 「埋め合わせ」を引き合いに出したうえで、これよりも *contrepartie* 「代償、補償」という価値付けが適当であるとしている。つまり、後件が前件の制限にとどまる場合においては、前後の項の関係が部分的な「代償、補償」であっても、「埋め合わせ」にまでは至っていないということである。

このように、Hamma et Haillet (2002) が前後の項の関係性からの記述を行う一方、Paillard et Vu Thi Ngan (2012) はこの成句を成す語彙である *par* と *contre* の分析からその意味を規定する。Paillard et Vu Thi Ngan (2012 : 108) によると、*par* は *entre autres* 「とりわけ」という意味を、*contre* は *une orientation inverse* 「逆向きの方向性」という意味を表し、そして、*par contre* はこのふたつが組み合わさることで「方向性が逆向きの前件と後件が共存する」ことを表している。この語彙と意味の結びつきは必ずしも自明のものでもないと思われるが、Paillard et Vu Thi Ngan (2012) は次のように説明する。まず、*par* が *entre autres* という意味を持つ説明として *le voleur est entré par la fenêtre* といった例をあげている。これは、泥棒が侵入するに当たって他の場所から入る可能性もあるなか、窓から入った、というように *par* が他の可能性を示唆する、という意

味に解釈できる。そして、*contre* が *une orientation inverse* という意味を持つ説明として *Paul s'appuie contre le mur* といった例をあげている。これは、ポールの体と壁は逆向きの力がかかりながら接している、というように *contre* が「逆向きの方向性」を意味していると解釈できる。そして、「方向性が逆向き」であることと、他の可能性が示唆されることで生じる相対化による「共存」が *par contre* が文脈に与える意味として規定されているというように解釈できる。そして、少なくともこの記述は *Hamma et Haillet (2012)* のそれと矛盾するものではない。

したがって、先行研究による *par contre* の記述をまとめると、*par contre* は、後件を、前件を相殺するか、制限するものとして導入し、前件と後件は方向性を異にしつつも共存する、ということになる。次は *en revanche* についての先行研究の記述である。

4.1.1.2. *en revanche*

第2章において、*Paillard et Vu Thi Ngan (2012)* が提案する *en revanche* の意味論的機能を取り上げた。これも *par contre* 同様、*en revanche* を構成する *en* と *revanche* という語彙の意味から与えられたものである。*Paillard et Vu Thi Ngan (2012)* は、*en revanche* の機能を「補い合う前件と後件を用いて、ある事柄の全体を表現する」こととしていた。これは、*en revanche* が後件を前件の埋め合わせをするものとして導入し、その結果として前件から後件にかけて再均衡が生じるという考え方である (p.53)。例えば、(79) では多くの兵士を失ったことが、戦争に勝ったことによって埋め合わせされることで、再び均衡が与えられている。

- (79) La France a perdu trois millions de soldats de 1914 à 1918. *En revanche* elle a gagné la guerre. (id.)

フランスは 1914 年から 1918 年にかけて三百万人の兵士を失った。その反面、戦争には勝った。

Paillard et Vu Thi Ngan (2012 : 53) 曰く、en は une incarnation de la propriété「性質の体現・具現」を意味し、revanche は une action en retour, comme réaction à une première action「反動、反発」を意味する。en が une incarnation de la propriété という意味を持つことの説明としては、Paul est en prison という例があげられ、この文が、ポールが囚人以外の何者でもないという意味で Paul est un prisonnier を表しているとされている。そして、en revanche が持つとされる l'idée de rééquilibrage et de compensation「再均衡、埋め合わせ」は revanche の意味から与えられると説明されている。この意味の組み合わせによって後件は前件を埋め合わせ、再均衡をもたらすものとして提示される、という説明である。

ここまで、簡単に先行研究による par contre と en revanche それぞれの個別の記述を見てきたが、先行研究では両連結辞の違いについての記述もなされている。ここからは、par contre と en revanche の違いについて、先行研究の記述も踏まえて考察していく。

4.1.2. 両連結辞に違いを見出すことができるか

まず先行研究の記述から見ていきたい。いずれの先行研究も par contre と en revanche の違いについて、前件と後件の「価値」に注目している。

4.1.2.1. 先行研究の見解

Paillard et Vu Thi Ngan (2012 : 65) は、par contre と異なり、en revanche では価値判断が関わると述べている。そして、en revanche の後件が「ポジティブ」、前件が「ネガティブ」なものになるはずであるとも述べている (p.53)。同様に、Hamma et Haillet (2002 : 110) も、理論上では en revanche において後件が un avantage pour le locuteur「話者に有利な事柄・話者への利益」となる

ことを認めている。(80) では、*par contre* を *en revanche* に置き換えることができないが、それは後件が話者に有利な内容でないからだというわけである。

- (80) Mon frère et mon mari sont revenus saufs de la guerre ; *par contre*, j'y ai perdu mes deux fils. (id.)

兄と夫は戦争から無事帰ってきた。その反面、戦争で私はふたりの息子を失った。

ただし、Paillard et Vu Thi Ngan (2012 : 53) と Hamma et Haillet (2002 : 110) は共に実際の *en revanche* の生起例において常に後件がポジティブなものになるとは限らないとも述べている。(81) がその一例である。

- (81) Aujourd'hui, l'Afghanistan ne cultive plus le pavot ; la pression internationale s'est révélée efficace. *En revanche*, elle n'a pu empêcher la destruction des statues de Bouddha par les talibans. (id.)

現在、もはやアフガニスタンでケシの栽培は行われていない。国際的な圧力が効果的だったことがはっきりした。その反面、国際的な圧力はタリバンによる仏像の破壊を妨げることができなかった。

このように、必ずしもポジティブ／ネガティブという基準が *par contre* と *en revanche* の違いとなるわけではないとも言われているのである。だが、すべての例で *en revanche* の後件がポジティブとはならないにしても、ある程度の傾向としてはポジティブ／ネガティブという価値判断が *par contre* と *en revanche* の違いとして現れる可能性はまだ残されているのではないか。このような予測から、例文を収集し、観察を行った。

4.1.2.2. 収集した例文による分析

インターネット記事における *par contre* と *en revanche* の生起例を各 50 例ずつ収集し、記事の書き手にとって前件と後件がポジティブかネガティブか、という観点から観察した^{40 41}。その結果が表 4 である。

表 4：前後の項がネガティブかポジティブか

前件／後件	<i>en revanche</i>	<i>par contre</i>
ネガティブ／ポジティブ	13	15
ポジティブ／ネガティブ	14	21
中立・不明・その他	23	14

先行研究の言う理屈に従えば、*en revanche* の後件がポジティブな例がそうでない例と比べて多くなっても不思議ではないはずである。しかし実際のところ、*en revanche* の後件がポジティブな例（13 例）とネガティブな例の数（14 例）には、ほぼ差はない。また、Paillard et Vu Thi Ngan (2012) が *en revanche* には価値判断が関わると述べていたことは前節で述べたが、むしろ *par contre* よりも *en revanche* の方が、ネガティブ／ポジティブの変化が見られない例が多く見受けられた（*en revanche* が 23 例に対して *par contre* は 14 例）。結論としては、前件と後件がポジティブかネガティブか、という基準では *en revanche* と *par contre* に有意な差異が見出せないということになる。参考のために 3 パターンに対応する *en revanche* と *par contre* それぞれの例文（82-87）を掲載する（ネガティブ／ポジティブ：例（82, 83）；ポジティブ／ネガティブ：例（84, 85）；中立：例（86, 87））。

- (82) Dix-huit départements sont toujours placés en vigilance orange « orages » par Météo France, ce mardi 1er août. Sont concernés : l'Ain, l'Allier, [etc]. [...] *En revanche*, fin de suivi pour l'Aube, la Marne, [etc]. (rti.fr⁴²)

本日 8 月 1 日火曜日、メテオ・フランスはいまだに 18 の県を暴風雨の警戒域に位置付けている。内訳はアン県、アリエ県 [等]。反対に、オーブ県やマルヌ県 [等] の警戒は解かれている。

- (83) Ferrari en Formule E, ce n'est pas pour demain. La Scuderia c'est la F1. *Par contre*, le groupe FCA (Fiat Chrysler) pourrait bien lancer Alfa Romeo ou Maserati dans le bain des monoplaces électriques.

(moniteurautomobile.be⁴³)

フェラーリのフォーミュラ E 参戦、これは近々には望めない。スクーデリア [=フェラーリ] は F1 である。反対に、FCA グループ (フィアット・クライスラー) がアルファロメオかマセラティをフォーミュラ E に投入する可能性は低くないだろう。

- (84) Le pont se trouve sur la voie [...] menant de Grächen à Zermatt (VS). Il est accessible en deux heures, voire deux heures et demie depuis Randa.

Il faut *en revanche* compter entre six et sept heures depuis Grächen ou Zermatt.

(rts.ch⁴⁴)

その橋はグレッヘンからツェルマットへ至る道沿いにある。ランダから 2 時間ないし 2 時間半のところだ。

反対に、グレッヘンあるいはツェルマットからは 6、7 時間かかる。

- (85) Il n'y a pas eu de blessé, *par contre* sur le plan matériel, comme en témoigne cette photo, le bilan est assez lourd car un box de garage ainsi qu'une remise ont été détruits par le feu. (laprovince.be⁴⁵)

けが人はいなかった。対して、物品的な側面では、この写真を見るとわかるように、その被害はかなり重大である。炎によってガレージと物置が焼け落ちてしまったのだ。

- (86) La plupart des victimes travaillaient dans des rizières quand elles ont été frappées par la foudre, ont précisé des responsables de l'Autorité en charge de la gestion des catastrophes.

Dans l'Etat de Jharkhand, deux frères ont *en revanche* été tués dans le district de Kharswan quand la foudre a pénétré par le toit de chaume de leur maison. (bfmtv.com⁴⁶)

犠牲者の大半が田んぼで働いていた時に雷に打たれたと当局の防災担当の責任者たちが語った。

ジャールカンド州では反対に、ふたりの兄弟がカルサーワーン群で亡くなったのは雷が家の茅葺き屋根から入ってきたためであった。

- (87) L'homme, au volant, a filmé la scène à laquelle il a assisté : une étrange forme en mouvement, dans le ciel, semble flotter. Il n'est pas le seul. Sur les réseaux sociaux, d'autres personnes ont publiés des images étranges montrant le même phénomène. Ces vidéos relancent l'éternel débat, celui des OVNIS. Pour d'autres *par contre*, il s'agit d'un groupe d'oiseaux ou d'un simple amas de poussière porté par le vent. (rtl.be⁴⁷)

運転中の男性が出くわした光景を撮影した。動く不思議な物体が空に漂っているように見える。その男性だけではない。ソーシャルネットワーク上では、同じような現象を写した奇妙な映像を投稿する人が他にもいるのだ。これらの動画はかの果てしない議論を再燃させる。UFO ではないか。対して、鳥の群れ、あるいは単に風に舞うホコリの塊だと言う人たちもいる。

今回、ポジティブ／ネガティブという基準では *en revanche* と *par contre* の違いが見出せなかった理由の一つとして、集めた例文が（インターネット上に掲載された）新聞記事であることが考えられる。Hamma et Haillet (2002) も後件がポジティブでない例として (81) をあげていたが、これも内容としては新聞記事と同質のもののように思われる。当然、新聞記事においてもポジティブな内容、ネガティブな内容というのは存在する。しかし、新聞記事におけるポジティブな内容、あるいはネガティブな内容から生じる書き手への利益、あるいは不利益は、

Hamma et Haillet (2002) が述べていたような「話者への利益」という意味では、大概において間接的なものである。つまり、新聞記事よりも話者に直接的な利益／不利益が生じるような、例えば日常会話といった状況では、先行研究が述べるような違いが *en revanche* と *par contre* の間に見出せる可能性は残されているのである。そのような場面において、ポジティブかネガティブか、という基準が *en revanche* の生起に関わるとすれば、それは「リベンジ・復讐」といった語彙的な意味との関連が大きいように思われる。*en revanche* が話者に直接不利益が生じるような後件を導入できないとすれば、それは、人が自分の不利益になる方向にはリベンジ、復讐をしないからである。そういう意味でも、やはり *en revanche* の生起に関与しうる状況として可能性が残されているのは、より直接的な利益・不利益となろう⁴⁸。ただし、次節で述べることにも関連するが、話者が直接、利益／不利益に関与する日常会話といった状況で、そもそも *en revanche* が一般に使用語彙として用いられているのかどうか疑わしいところもある。

今回収集した例文を用いて、ポジティブ／ネガティブという基準以外にも幾つかの基準を設定しての観察も行ったが、いずれの基準においても *par contre* と *en revanche* の用いられ方に有意な違いは見出せなかった。ここではそのいくつかの基準のうち、比較的簡単なものをふたつ紹介するにとどめる。

まずは、生起位置の分布である。各例文において、それぞれの連結辞が後件に対して前に位置しているのか、中に位置しているのかをカウントした結果が表5である。*en revanche* においても *par contre* においても共に半々の割合で分布しており、有意な差異は見出せない。

表5：生起位置の分布

	<i>en revanche</i>	<i>par contre</i>
後件の前に生起	27	26
後件の中に生起	23	24

そして、共起表現である。*par contre* と *en revanche* に共起する表現として、(対

立の) *si* が挙げられる。例 (88, 89) のような *si* との共起例をカウントした結果、50 例中 *en revanche* が 3 例、*par contre* が 2 例となり、やはり頻度に差は見られなかった。

- (88) Si une collectivité peut présenter seule un programme de travaux pour approbation, les particuliers, *en revanche*, doivent se grouper en Association syndicale autorisée (ASA). (sudouest.fr⁴⁹)

団体は単独で工事の許可申請を提出することができるが、反対に個人は ASA としてまとまらなくてはなくてはならない。

- (89) Si coloniser la Lune est un objectif sous 10 ans pour la Chine, envoyer une mission martienne est *par contre* un objectif plus proche [...]. (tv5monde.com⁵⁰)

中国にとって月への植民は 10 年以内の目標だが、対して火星探査機の打ち上げはより近い目標だ。

また、収集した例文の観察という手段に加えて、次のような仮説を立て、作例による検証も行った。それは、「因果関係が関わると *par contre* より *en revanche* が優先される」という仮説である。この仮説は、Grevisse (1980 : § 2525) に載っている André Gide の作例 (90) からヒントを得たもので、この例は *en revanche* の使用が不自然な例として作られたものである⁵¹。ここでは、戦争から兄弟と夫が無事帰ってきたことと、二人の息子を失ったことが述べられている。

- (90) Oui, mon frère et mon mari sont revenus saufs de la guerre ; *en revanche* j'y ai perdu mes deux fils. (A. Gide, cité par idem)

はい、兄と夫は戦争から無事帰ってきました。その代わり、戦争で私はふたりの息子を失いました。

あるインターネットフォーラムでは、この例が不自然である理由が次のように説

明されている⁵²。

[...] la phrase ainsi tournée, on croit que c'est parce que le frère et le mari sont revenus sains et saufs que les deux fils ont péri. [...] Or, dans les faits, il n'y a pas de lien de causalité.

このような言い回しの文では、ふたりの息子の死去が兄と夫の無事の帰還に起因するかのようになってしまいます。しかしながら、現実においてそのような因果関係はないのです。

すなわち、*en revanche* を用いることで、夫と兄弟が無事帰ってきたことと息子たちが亡くなったことに因果関係を感じさせてしまい、そこに現実とのギャップが生じるということである。このように *en revanche* が因果関係をマークするとすれば、Grevisse (1980 : § 2525) が「全く一般的に単純な対立を表す」と述べていたような *par contre* の意味とはかなり離れた意味解釈であるように思われる。このことから、*par contre* を *en revanche* に置き換えられない Gide の例とは方向性が逆の、先ほどの仮説を立てることができる。前件の内容と後件の内容が、否応なく因果関係を感じさせてしまう時には、単純に対立をマークする *par contre* はかえって違和感を生じさせ、*en revanche* が優先されるのではないか、という仮説である。

この検証のために作った例文が (91ab) と (92ab) である。(91ab) では、気温の暑さと、ビールの美味しさに因果関係が存在し、(92ab) では、駅からの遠さと家賃の安さに因果関係が存在する。あるネイティブスピーカーに聞いたところ、(91ab) では、*par contre* は不可能ではないが、*en revanche* の方が良く、さらに、(92ab) では *par contre* は不自然とのことであった。ただし、同じ質問をした別のネイティブスピーカーからは、(91ab) と (92ab) にそのような許容度の差異は全くないという返答もあり、仮説を証明したと言える段階には全く至っていない。

- (91a) C'est vrai qu'il fait trop chaud, *en revanche* je pourrai boire de la bonne bière.
確かに暑すぎるね。その反面美味しいビールが飲めるよ。
- (91b) (?) C'est vrai qu'il fait trop chaud, *par contre* je pourrai boire de la bonne bière.
- (92a) Ce magasin est loin de la gare, *en revanche* le loyer n'est pas cher.
このお店は駅から遠い。その反面賃料は高くない。
- (92b) ? Ce magasin est loin de la gare, *par contre* le loyer n'est pas cher.

そもそも、語の構成が全く異なる *en revanche* と *par contre* がなぜこのようによく似た用いられ方をし、意味論上の違いを見出すのが難しいのだろうか。その原因のひとつとして考えられるのが、Hamma et Haillet (2002) の言うところの「社会言語学的」な影響である。

4.1.2.3. 社会言語学的な影響

4.1.2.1.節で述べたように、*en revanche* と *par contre* の用法に決定的な違いが見いだせなかった Hamma et Haillet (2002 : 111) は、用法の近接性 (*similitude de fonctionnement discursif*) の説明として「社会言語学的仮説 (*hypothèse d'ordre sociolinguistique*)」を提示している。その仮説とは、*en revanche* を、*par contre* の「丁寧な形 (*variante soutenue*)」であると見なす話者が少なからず存在しているとするもので、その原因は社会的に *par contre* が正しくない表現であるとされてきたことにあるとしている。そして、*par contre* の代わりとして使われてきた表現が *en revanche* であり、その結果、本来 *en revanche* が不自然なはずのところでも *en revanche* が使用されることがあるとしている。以下は Littré の辞書の *par contre* に関する記載だが、ここからは *par contre* という表現が様々な理由 (Voltaire からの批判、文法的・意味的な問題、出自の問題) で批判されてきたことが読み取れる。

« *Par contre* est une locution dont plusieurs se servent, pour dire *en compensation*, *en revanche* : [...]. Cette locution, qui a été tout particulièrement critiquée par Voltaire et qui paraît provenir du langage commercial, peut se justifier grammaticalement, puisque la langue française admet, en certains cas, de doubles prépositions, *de contre*, *d'après*, etc. mais elle ne se justifie guère logiquement, *par contre* signifiant bien plutôt *contrairement* que *en compensation*, et devant provenir de quelque ellipse commerciale (*par contre* ayant été dit pour *par contre-envoi*) ; en tout cas, il convient de suivre l'avis de Voltaire et de ne transporter cette locution hors du langage commercial dans aucun style. » (É. Littré, *Dictionnaire de la langue française*, 1863-1872 pour la première édition, 1873-1877 pour la seconde)

「Par contre とは多くの者が *en compensation*、*en revanche* という代わりに用いる成句である。とりわけヴォルテールによって批判され、商人の言葉遣いに由来すると思われるこの成句は文法的には正当化されうるものである。ご存知の通りフランス語は *de contre*、*d'après* 等特定の場合に関して二重の前置詞を許容するのである。しかし、論理的にはほとんど正当化されない。*par contre* は *en compensation* [その代償に] というよりむしろ *contrairement* [反して] を意味し、そして何らかの商業的省略から生じているはずなのである (*par contre* は *par contre-envoi* という意味で用いられていた)。いずれにせよ、ヴォルテールの意見に従い、この成句を商人の言葉遣いの外、いかなる文体にも持ち込まない方が良いでしょう。」

また、以下は Académie Française の辞書の抜粋である。*par contre* が数多くの作家に用いられていることを認めつつも次のように述べ、現行のバージョンの辞

書においてなお *par contre* の使用を避けることを推奨している⁵³。

« La locution « *par contre* » ne peut donc être considérée comme fautive, mais l’usage s’est établi de la déconseiller chaque fois que l’emploi d’un autre adverbe est possible. »

(Académie française, *Dictionnaire de l'Académie française*, 9)

「成句 *par contre* はつまり、誤用とは見なせない、しかし慣用としては、他の副詞の使用が可能であれば *par contre* を使用しないことが推奨されている。」

そして、次のこともその傍証と言えるかもしれない。今回観察のために使用した 50 例づつの例文は、(記事一本に複数回使用されることがあるため) *par contre* が 37 本の記事から、*en revanche* が 39 本の記事から収集されている。この記事の URL 等から国別に数を数えた結果が表 6 である。

表 6 : 国別の記事本数

	<i>par contre</i>	<i>en revanche</i>
フランス	15	35
ベルギー	10	1
ケベック (カナダ)	8	-
スイス	1	1
モロッコ	1	-
モーリタニア	1	-
ルクセンブルク	-	1
不明	1	1
計	37	39
仏／他	15 / 21 (不明 1)	35 / 3 (不明 1)

par contre ではフランスとフランス以外の国の記事の数が 15 対 21 であるのに対し、*en revanche* では 35 対 3 とバランスが大きく逆転している。そして、このことから、*par contre* と *en revanche* の使用頻度の差がフランスとフランス以

外の国で（少なくとも、その総体とは、）大きく異なっているということが結論付けられる⁵⁴。Hamma et Haillet (2002) がいうような「社会言語学的」な影響がフランスに限られたものなのかどうかは不明である。だが、仮に *par contre* と *en revanche* の比較において、他の国と比べてフランスで異常に *en revanche* の使用頻度が高いとすれば、その理由は「社会言語学的な」影響に求められる可能性はあるだろう⁵⁵。少なくとも、*par contre* と *en revanche* の選択には意味論的な違いだけではなく、それ以外の要素が関わっている可能性は排除できないのである。

ここまで、*en revanche* と *par contre* の意味論的な違いについて考察を行ってきた。結論としては、現在の時点で明確な形で意味論的な記述を行うことは難しいと言わざるを得ない。したがって、ここからは *par contre* と *en revanche* の用いられ方に違いがないと仮定し、このふたつの連結辞に共通する対立の意味構造の記述を行うことにする。本章の始めに、*par contre* と *en revanche* はテーマの対立を問題にする連結辞であると述べたが、この意味構造について詳しく見ていきたい。

4.1.3. レーマの両立可能性

ここでは、*en revanche* と *par contre* が意味論的に変わらないという仮定のもと、*par contre* を主に扱っていくことにする。第2章では、Rossari (2000) の二重変値からテーマ・レーマの概念を導入した。この二重変値という考え方を意味構造上に投影すると、2テーマ2レーマの環境が確保された状態のことになる。すなわち、テーマの差異にフォーカスする *par contre* は二重変値が満たされた環境にしか生起しないということである。ただし、ここにはこの概念の元となった Rossari (2000) と若干食い違う点がある。Rossari (2000 : 137-139) は、*par contre* の生起にあたって二重変値が満たされる必要はないと述べているのである。まず、Rossari (2000) によると、二重変値が満たされない、つまり、環境にテーマがふたつ存在せずとも *par contre* の生起は可能である。ただしこれは条件

付きで、そのような場合においてはレーマに対立が必要であり、逆に、テーマがふたつ確保されて二重変値が満たされる場合、レーマに対立は不要とされている⁵⁶。ここからは、Rossari (2000) の提示する二重変値の満たされない例に関して、その条件も含めて、二重変値による説明を維持したままでの再解釈は可能なのかを検討していきたい。

Rossari (2000) が二重変値の満たされない *par contre* の生起例としてあげているのは (93) である。Rossari (2000) によれば、この例は「リュック」というテーマに対して「かっこいい」と「頭が良くはない」というレーマが与えられる、という 1 テーマ 2 レーマの構造に分析される。したがって、この例では二重変値が満たされていないことになる。

(93) Luc est très beau, *par contre* il n'est pas très intelligent.

(ibid. : 137)

リュックはとてもかっこいい。その反面、とても賢くはない。

しかし、この例においても二重変値が満たされているという分析は可能である。その分析を可能にするために、レーマの両立可能性という考え方を提案したい。

(93) のレーマ「かっこいい」とはリュックの美醜に関する値である。一方、「頭が良くはない」とはリュックの頭の良さに関する値である。つまり、このふたつのレーマは「美醜」と「頭の良さ」という別々の項目に与えられているということになる。そして、それがゆえに、前後のレーマはテーマ「リュック」に対して両立可能だと考えられるのである。この両立可能性はテーマの分割によって生じる。Rossari (2000) は、「リュック」をひとつのテーマとしてカウントしていた。だが、今述べた通り、この例ではレーマが別々の項目に与えられているため、テーマの両立可能性によりふたつに分割されることが可能である。これはつまり、「美醜から見たリュック」と「頭の良さから見たリュック」というふたつのテーマに分割されるということである。このように理解されることで (93) においても 2 テーマ 2 レーマの二重変値が確保され、*par contre* 生起の説明がつくのであ

る。第3章では、量的な分割による分割2枠型を問題にしたが、ここでは質的なテーマの分割が行われることになる。

では、Rossari (2000) は二重変値が満たされない (93) のような場合の条件として、レーマが対立している必要があると述べていたが、これを二重変値とレーマの両立可能性を維持したまま再解釈できるだろうか。Rossari (2000) によると、(93) の2つのレーマ「かっこいい」と「頭が良くはない」には対立があるということになる。これに対して二重変値が満たされずテーマに対立がないために *par contre* が生起不可になるとされる例が (94-96) である。

(94) ?? Luc est intelligent, *par contre* il est en plus beau. (ibid. : 139)

リュックは賢い。その反面、かっこよくもある。

(94) では、「リュック」に対して、「賢い」と「かっこいい」というレーマが与えられている。Rossari (2000) によると、(94) において *par contre* が生起できないのは、このふたつのレーマに対立がないためである。これを二重変値とレーマの両立可能性を保ったまま再解釈できるだろうか。まず「賢い」と「かっこいい」というふたつのレーマは「頭の良さ」と「美醜」という異なった着眼点から与えられた値であるため、レーマの両立可能性によって「頭の良さから見たリュック」と「美醜から見たリュック」というようにテーマは分割される。したがってここでは二重変値は確保されてしまうことになり、*par contre* が生起しないことと一見矛盾が生じてしまう。しかし、そもそも (94) はリュックの評価を問題としている文である。ここで与えられた「賢い」というレーマと「かっこいい」というレーマは「リュック」に対する評価に価値的な変化をもたらさない。したがって、ここでは *par contre* という対立の連結辞を使うこと自体が矛盾しているのである。

(95) Marie est intelligente. ?? *Par contre* elle est aussi géniale. (id.)

マリーは賢い。その反面、彼女は天才でもある。

(95) では、テーマ「マリー」に対して「賢い」というレーマと「天才である」というレーマが与えられている。これは共にマリーの頭の良さに関する値であり、レーマの両立可能性が成立しないためテーマを分割することはできない。二重変値が満たされず、意味構造レベルで *par contre* は生起できない。

(96) Luc veut arrêter de boire. ?? *Par contre* il veut aussi arrêter de fumer.
(id.)

リュックは飲酒をやめたい。その反面、喫煙もやめたい。

(96) では、前後共にリュックのやめたいことが述べられ、レーマの両立可能性が成立しないためテーマを分割することができない⁵⁷。したがって二重変値が満たされることはなく、これも意味構造レベルで *par contre* は生起できないことになる。

最後に、Rossari (2000) が二重変値が満たされている場合において、内在的に内容が対立している必要はないとしている点である。これには (97, 98) が当てはまる。

(97) Marie est intelligente. Sa sœur *par contre* est géniale. (ibid. : 138)

マリーは賢い。それに対して、彼女の妹は天才である。

(98) Luc veut arrêter de boire. Sa femme *par contre* veut arrêter de fumer.
(id.)

リュックは飲酒をやめたい。それに対して、彼の妻は喫煙をやめたい。

(97) と (98) では共に「マリー」と「その姉妹」、「リュック」と「その妻」というふたつのテーマを与えられており、テーマを分割する必要なく安定して二重変値が満たされた環境になっている。この場合、それぞれのレーマがテーマ間の違いとして提示されることになるので、レーマ間に内在的な対立が必要ないこと

が考えられる。

ここまで、Rossari (2000) が二重変値なしに *par contre* を生起可能とする場合に関して、論理的整合性を保ちながら、あくまで二重変値が成立するものとして解釈することが可能であることを述べてきた。問題となったのは、二重変値を成立させるためにレーマの両立可能性を用いる必要がある場合であるが、そもそもそのような例は *par contre* の生起としてはかなり周辺的なものであることを付け足しておきたい。前述の *par contre* に関して収集した 50 例（及び *en revanche* の 50 例）の中に、二重変値の成立にレーマの両立可能性が必要とされるものは見当たらなかったのである。

対立の連結辞 *par contre* と *en revanche* に関して、両連結辞の意味論的な違いと、両者に共通する意味構造について考察を行ってきた。まず、*par contre*、*en revanche* は共にテーマ間の対立を問題とする連結辞であるということを始めに述べた。これは意味構造レベルの共通点であるが、意味論レベルにおいても両連結辞の違いを見出すことは容易でなく、社会言語学的な影響も含めた様々な理由から *par contre* と *en revanche* の用いられ方に違いを見出すことは難しいと言わざるをえない。ただし、これに関しては、新聞記事とは異なり、話者との関わりが大きい日常会話等のコンテクストではポジティブ／ネガティブに関する *en revanche* の制約が見出せる可能性は残されているだろう。そして、*par contre* と *en revanche* が意味論的に同等の価値を持つと仮定すれば、その生起環境はいずれも 2 テーマ 2 レーマの二重変値によって記述されるということになる。

4.2. à l'inverse と à l'opposé

次は、à l'inverse と à l'opposé を見てみよう。まず、共通する特徴として、このふたつが対立の連結辞として生起する環境の意味構造を明らかにする。そして、このふたつの表現の相違点として、à l'opposé の空間用法と連結辞用法との関係を記述する。なお、à l'inverse と à l'opposé に言及した先行研究は今のところ見受けられないものの、Danjou-Flaux (1983) が *au contraire* の置き換えの候補と

して *à l'opposé* と *à l'inverse* を持ち出している。これについては 4.2.2.2.節で取り上げる *à l'inverse* の稀な使用例と関係が見出せるため、そこで触れることとする。

4.2.1. *à l'inverse* と *à l'opposé* の共通する特徴

まずは、*à l'inverse* と *à l'opposé* が前後の発話の差異を表現する対立表現であることを確認する。事例では両表現ともにしばしば長い作用範囲をとって使用されることがあり、先入観のない観察では *à l'inverse* と *à l'opposé* がもたらす関係性がはっきり明らかにならないこともあるが、辞書の短い例文で基本的な構図を確認することはできる。(99) では貿易政策の方向性について EC 諸国と日本の差異が述べられている。前件では EC 諸国が関税障壁の撤廃に向かっていることが述べられる一方、後件では日本が国内市場保護の強化、つまり関税障壁を強める方向に向かっていることが述べられ、*à l'opposé* が前後の差異を強調している。

(100) では生産性に関して民間企業と公企業の差異が述べられている。前件では民間企業における生産性の高さが述べられる一方、後件では公企業部門における生産性の低さが述べられており、*à l'inverse* が前後の差異を強調している。このように、どちらの表現も文脈に対立を持ち込む機能を持っていると考えられる。

- (99) Les pays de la C.E.E. ont cherché à supprimer des barrières douanières. *À l'opposé*, le Japon continue à protéger davantage ses marchés.

EC 諸国は関税障壁の撤廃に努めてきた。逆に日本は国内市場保護の強化を続けている。
(『小学館ロベール仏和大辞典』)

- (100) Dans les entreprises privées, la productivité est élevée, *à l'inverse*, dans le secteur public, elle reste faible.

民間企業では生産性が高いが、逆に公企業部門では生産性が低い。

(ibid.)

では、à l'inverse と à l'opposé はどのような構図を持った環境に生起するのであろうか。例文を見る限り à l'inverse と à l'opposé はどちらも対称的な構図の中で対比的に用いられているようである。à l'inverse の (101) では「味盲」の人々が野菜の苦味をあまり感じないことと、「超味覚者」が苦味をととても強く感じる事が、(102) では経営者側の人間が反射的に情報を隠して権力を維持しようとするということと、若い世代の人間が何よりも透明性を重要視することが述べられているが、話し手の視点は前後を平等に対比する視点である。

- (101) [...], environ 30 % de la population est insensible au phénylthiocarbamide, un composé amer présent dans de nombreux légumes verts comme les brocolis et les choux de Bruxelles. Ces « non-goûteurs » ont plus de facilité à consommer ce type de légumes car ils ne ressentent pas autant leur amertume. *À l'inverse*, il existe des « super-goûteurs » qui ressentent très fortement les goûts amers.

(pourquoidocteur.fr⁵⁸)

国民の約 30 % はフェニルチオカルバミドを知覚しない。これはブロッコリーや芽キャベツ等の緑の野菜の多くに存在し苦味を生ずる化合物である。これら「味盲」の人々はこの種の野菜を消費しやすい。苦味をそれほど感じないからである。反対に、「超味覚」な人々もいる。苦味をととても強く感じる人々である。

- (102) La génération Y veut « contrôler et partager le pouvoir », analyse [...] l'étude : alors que chez les dirigeants, le réflexe est souvent de conserver l'information pour garder le pouvoir, les digital natives aiment, *à l'inverse*, la transparence à tout prix. (lci.fr⁵⁹)

Y 世代 (1980 年代及び 1990 年代生まれの世代) は「権力をコントロールして共有化」しようとするとその研究は分析する。経営者側は反射的に情報を隠し、権力を維持しようとする一方、デジタルネイティブ世代

は反対に、何よりも透明性を重要視するのである。

à l'opposé も同様である。(103) ではスターに憧れる人々が熱心に痩せようとすることとスター自身が場合によっては猛然と太る場合があることが、(104) では数十のジンバブエ人がムガベ大統領の辞任を訴えていたことと、別のジンバブエ人の集団が同人物の支持を表明していたことが話し手の視点によって平等に対比されている。

- (103) Il y a celles et ceux qui veulent mincir afin de ressembler au plus près à leurs idoles. Et ces stars justement, *à l'opposé*, qui engraisent parfois en un temps record pour assumer un rôle. Les exemples ne manquent pas. (le matin.ch⁶⁰)

痩せることで憧れのスターになるべく近づきたいと望む人たちがいる。そしてまさにそのスターたちが、反対に、演じる役柄のためにありえないほど短期間で太ることがある。そのような例は枚挙にいとまがない。

- (104) À l'extérieur du siège, des dizaines de zimbabwéens vivants aux états-unis organisaient une manifestation, pour appeler à la démission du président Mugabe. D'autres *à l'opposé*, lui manifestaient leur soutien. (africanews.com⁶¹)

国連本部の外では、数十名の在米ジンバブエ人がデモを行い、ムガベ大統領の辞任を訴えていた。反対に大統領への支持を表明する集団もいた。

このように、多くの例はテーマをふたつとして対称的にその比較を行う構造、すなわち2枠同視点型の意味構造を持つと言える。しかしながら、中には典型的な2枠同視点型ではない意味構造の例もある。à l'inverse の例(105)ではパジャマを着て外出するというコンセプトのもと、パジャマの下を残す(キープする)場合と上を残す(キープする)場合、という二択の条件が並列されており、à l'opposé の例(106)では R8 というスポーツカーの将来的な展望が話題になって

いる中で、V6 というセダンタイプのエンジンを積んだ落ち着いたバージョンか、現状よりさらに過激なバージョンか、という二択の選択肢が並列される形になっている。

- (105) Pour les plus réticentes, on peut évidemment dépareiller le pyjama avec une pièce plus sobre en haut ou en bas. Si on veut garder le bas, on suivra les mêmes règles que pour le jogging. Si on souhaite à l'inverse garder le haut, on l'associera avec un jean brut et une jolie ceinture, ou en version XXL porté à l'extérieur du jean. Le but étant de sophistiquer cette pièce qui, à la base, est destinée à rester dans la sphère de l'intime. (bibamagazine.fr⁶²)

どうしても思い切ることができないということであれば、一揃いのパジャマではなく、上下のうちの地味な方を残すということももちろん可能だ。下をキープしたいのであれば、ジャージの場合と同じようにして着れば良い。反対に上をキープしたいのであれば、ダメージ加工のないジーンズとちょっとしたベルトを合わせるか、サイズを XXL にしてジーンズの上にかぶせるようにすれば良い。そのようにすることで、本来はプライベートな使用に限られるパジャマの上あるいは下をオシャレに見せることができるのだ。

- (106) (R8 というスポーツカーを話題にして)

Interrogé sur d'éventuelles variantes à venir de la R8, qu'il s'agisse d'une version V6 ou, à l'opposé, d'une déclinaison plus radicale, Stephan Reil botte en touche en répondant que le lancement international du Spyder demandera déjà du temps. (sportauto.fr⁶³)

V6 (=セダン) バージョンであれ、逆に、今より過激な方向性のものであれ、将来 R8 に別バージョンが出るかどうかを尋ねられたステファン＝レイルは、それ以前にスパイダーの世界展開に時間がかかる見込みであると述べ、質問をはぐらかしている。

(105) のレーマは「(残すのは) パジャマの上である」と「(残すのは) パジャマの下である」であるとする。このふたつのレーマを選択する機会には（それが文脈上考慮されているかはともかく）複数性が存在すると言える。つまり、ある時にはパジャマの下を残し、また別のある時にはパジャマの上を残すことができるという意味で、複数回選択することができるということである。そして、その選択機会の複数性から「パジャマの上下どちらかを残すならどちらを残すか」といったような意味のこの例のテーマは分割していると考えることができる。そして、このテーマの分割のためにテーマについていずれのレーマも確定している。これは 3.2.1.節で論じた分割 2 枠型の意味構造である。(106) のテーマは「将来的に出されるかもしれない R8 の別バージョン」であり、これについてのレーマが「セダンバージョンである」と「さらに過激な方向性のものである」である。例文中において「セダンバージョン」と「過激な方向性」のどちらも出されるという可能性が考慮されておらず、現時点ではどちらも選択されていない 1 枠同視点型の意味構造を持っていると考えられる。

ところで、à l'opposé はもっぱら対立の連結辞として使われるわけではない。連結辞的な用法の他に、à l'opposé には動詞や名詞等の補語となる用法があり、これを「反対側に」« Du côté opposé » と同等であるとする Trésor de la Langue Française を筆頭に大概の辞書はこれを空間表現として扱っている。(107) はそのような辞書の一例である。

(107) La gare est à l'opposé ⁶⁴.

駅は反対側にある。

(『小学館ロベール仏和大辞典』)

本論文ではこの用法が一義的に具体的な位置関係を表すのか、ある抽象的な図式が空間に投影されてそのような用法を得るのかについては論じない。しかし、次の節に見るように、この空間的な用法と連結辞の用法には連続性を見出すことができる。

4.2.2. à l'opposé と à l'inverse の相違点

4.2.1.節では、対称的な構図を持った環境に生起するという点に à l'opposé と à l'inverse の共通点を見たが、この用法の外に目を向けると à l'opposé は非連結辞用法に、à l'inverse は非対称的な構図における使用可能性にそれぞれの特色が見えてくる。

4.2.2.1. 空間用法の有無

à l'opposé の最も空間的な用例は次のようなものである。à l'opposé は、(108) では、パスの出し手から見てアイスホッケーリンクの反対側の空間を、サッカーの (109) では、ボールが当たったゴールポストの反対 (のゴールポスト) 側の空間を、(110) では、パリの北側に位置するサン＝ドニからパリを挟んで反対側であるパリの南方の空間を指している。(110) ではサン＝ドニの反対というだけでは情報が足りず、パリの南側であるという補足がなされている。何かが何かの反対側であるというためには、何を中心にして反対とみなすのか、という基準点が定められなくてはならないが、その情報が欠如しているために (110) は補足を迫られていると考えられる。

(108) (アイスホッケーの試合の一場面)

Holecko conserve la rondelle dans le coin et adresse une passe millimétrée à l'opposé pour Dominic Jalbert. (*hockeyhebdo.com*⁶⁵)

ホレコはコーナーでパックをキープし、逆サイドのドミニク＝ジャルベールにミリ単位のパスを通した。

(109) (サッカーのゴールキーパーの談話)

J'ai beaucoup de chance puisque le ballon tape le poteau pendant que moi je partais à l'opposé. (*sports.fr*⁶⁶)

かなりラッキーだった、というのもボールがバーを叩いたとき僕は反対側に飛んでいたわけだからね。

- (110) Trois ans, c'est court pour prendre ses quartiers. Pourtant le groupe SFR, installé depuis 2013 à Saint-Denis, pourrait déjà migrer à *l'opposé*, au sud de Paris. (lesechos.fr⁶⁷)

3 年、それはある地域をものにするには短い時間だ。だが 2013 年からサン＝ドニで展開している SFR グループはすでに反対側に、すなわちパリ南方に進出している可能性がある。

一方、à l'opposé が具体的な空間を指示しない例には次のようなものがある。

- (111) では、à l'opposé が、期待された速いタイム、あるいは良いタイムの反対を指している。これを空間表現として解釈するにはストップウォッチの盤面、あるいはそれが表すところの時間のスケールのようなものを抽象的に思い浮かべる必要がある。その場合、期待されたタイムから à l'opposé という表現を使って現実のタイムを指示するためには、その基準点がどこかに示される必要がある。だが、そのようなものを考慮せずとも発話を解釈できるため、à l'opposé は「速い」の反対として「遅い」、あるいは「良い」の反対として「悪い」を表していると考えるのが自然だろう。(112) では、à l'opposé によって、セカンドハーフが、とても良かったファーストハーフの反対、つまり悪いものであったことが述べられている。これを空間的に解釈することは難しい。

- (111) « Je pensais qu'on était rapides mais le chrono est complètement à *l'opposé* », a réagi le Niçois, toujours septième du général [...].

(motorsport.com⁶⁸)

「速かったと思っていたが、タイムは全く逆だった。」

- (112) «[...]La première mi-temps est très bonne, on fait une bonne entame, on est bien place[sic] défensivement, nos ailiers se régalaient. Mais la seconde mi-temps est à *l'opposé*. On a pris de la confiance trop vite,

on pensait que le match était fait. Sur la fin, on aurait pu le perdre. »

(*ladepeche.fr*⁶⁹)

「ファーストハーフはとても良かった。我々はうまくゲームに入り、守備的にうまく展開していたし、ウイング陣がのびのびとプレイできていた。しかし、セカンドハーフは反対だった。あまりに早く安心してしまい、試合が終わったと思い込んでいた。危うく終盤に逆転されるところだった。」

このように、補語的に用いられる *à l'opposé* にも空間的でない用例がある。

また、*à l'opposé* が動詞の補語でありながら半ば連結辞的に用いられている例も見受けられる。(113) では、パリ周辺においてオフィス家賃が高い場所と低い場所が対比されている。*à l'opposé* は動詞 *retrouve* の補語として、その序列における家賃の一番安い場所を意味しながら、連結辞的に後件の導入も行っている⁷⁰。

(114) も同様に、*à l'opposé* が動詞 *trouve* の補語でありながら、連結辞的に後件を導入する例である。ここでは、ワクチンに対する国民の信頼度の分布が述べられている。*à l'opposé* が意味しているのは、国民が一番ワクチンを信じていない国々である。ここでは序列の最上位群と最下位群という意味での抽象的な空間を想定することは可能であるが、具体的な地図上の空間としての解釈は不可能である。

- (113) En région parisienne, Neuilly-sur-Seine est la ville la plus chère, avec un prix moyen de 8 000 €/m², suivie de Levallois-Perret à 7 250 €/m² (hors taxe / hors droit). *À l'opposé*, on retrouve Noisy-le-Grand, où le prix du mètre carré est affiché à 1 570 €/ m².

(*leparticulier.fr*⁷¹)

パリ周辺ではヌイイ＝シュル＝セーヌが一番高い町で、1 平方メートルあたり平均 8,000 ユーロである。続くルヴァロワ＝ペレは 1 平方メートルあたり平均 7,250 ユーロである。その反対側にはノワジー＝ル＝グラ

ンがあり、1 平方メートルあたりの家賃は 1,570 ユーロとされている。

- (114) Quant à l'efficacité des vaccins, l'Argentine, l'Ethiopie et l'Equateur sont les pays les plus convaincus ; à l'opposé, on trouve l'Italie, la Russie et, en tête de peloton, la Bosnie-Herzégovine. (*lemonde.fr*⁷²)

ワクチンの効果に関して、アルゼンチン、エチオピア、エクアドルが最も信頼度が高く、その反対側には、イタリア、ロシア、そして、その筆頭に、ボスニア・ヘルツェゴビナがいる。

これとは逆に、半ば抽象的な空間表現として解釈可能な連結辞用法も存在している。(115) では、あるサッカーの試合に望む両陣営の状況が対比的に述べられている。前件ではダヴィ＝トリヴィノ監督のチームが直前の試合で負けたことが述べられ、後件では、ピエール＝メルシエ監督のチームが直前の試合で勝っていることが述べられている。そして、à l'opposé はこのふたつの発話を連結するために用いられていると考えられる。しかし、サッカーの試合が問題となっているこの例では、直前にあるチームのことが述べられていることで、à l'opposé が「その反対側では」というように、空間指示的にもう片方のチームを指示する解釈が可能である。(116) も同様に、連結辞として解釈すれば、à l'opposé は、トランプ氏がアリシア＝マチャド氏を攻撃していることを述べる前件とクリントン氏が同人物を味方に引き入れようとしていることを述べる後件の差異を強調していることになるが、米大統領選挙戦における両陣営の「反対側」という空間指示的な解釈もまた可能である。

- (115) L'entraîneur montalbanais [=David Trivino], très remonté à la suite de la défaite des siens dans le piège de Pibrac (3-0), a surtout perdu plus que trois points dans la bataille ; [...]. À l'opposé, Pierre Mercier a apprécié le retour à la lumière de sa formation ; le succès devant Cugnaux (1-0), [...], a permis une montée en puissance de l'équipe et un retour à l'équilibre. (*ladepeche.fr*⁷³)

ピブラックの罠にチームが敗れ去り怒り心頭だったモントバンのダヴィ＝トリヴィノ監督は、その試合でとりわけ（選手の退場等によって）勝ち点3点以上のものを失った。反対に、ピエール＝メルシエは自分のチームがいい順位に戻ってきたことを喜んでいて、キューヨー戦の勝利でチームの順位が大きく上がり、落ち着きを取り戻したのだ。

- (116) Au lendemain du débat, le candidat [=D. Trump] avait tenté de justifier ses remarques désobligeantes adressées à son ex-reine de beauté [=A. Machado], en expliquant qu'elle avait à l'époque « pris beaucoup de poids et que c'était un vrai problème ». À l'opposé, sa rivale démocrate [=H. Clinton] a bien compris son intérêt à exploiter le filon Alicia Machado. (lessentiel.lu⁷⁴)

討論会の翌日、トランプ候補は元ミス・ユニバースに対する礼を失した発言を正当化しようと試み、彼女が当時「とても太っており、それが大問題だった」と説明した。反対に、民主党所属の対立候補であるクリントン氏はアリシア・マチャドの一件を掘り下げる利点をよく理解していた。

このように、à l'opposé の連結辞用法と空間用法には構文的な記述を設けて区別することができるものの、意味的には連続性がある。少なくとも à l'opposé は空間的にも発話的にも適用可能な図式を談話に提供していると言えるのではないだろうか。ただし、前節の終わりでも述べた通り、その本質が具体的な空間の位置関係にあるのか、抽象的な図式であるのかはここでは論じない。そして、à l'opposé と異なり、à l'inverse の生起例は一様に連結辞的だと言えそうである。空間用法が à l'inverse にはない à l'opposé の特徴である一方、逆に à l'inverse にしか認められない特徴もある。

4.2.2.2. 反駁構造における使用

4.2.2.節では *à l'inverse* が対称的な構図において用いられるという記述を行ったが、非常に稀なケースではあるものの *à l'inverse* にのみ非対称的な構図における用例を見つけることができる。(117) では、食後の飲酒が消化を促進するということが否定され、同じ行為が（世間の思い込みとは異なり）消化を阻害している、と述べられている。これは明らかに真実性を争う反駁的な構造であり、論証的に *à l'inverse* が用いられている。

- (117) L'alcool fort consommé en fin de repas ne facilite pas la digestion, contrairement à sa réputation. *A l'inverse*, en ralentissant le passage des aliments dans le tube digestif, il freine la digestion et fait gonfler l'estomac. (ladepeche.fr⁷⁵)

世間で言われていることと反対に、食事の最後にアルコール度数の高いお酒を飲んでも消化が促進されることはない。反対に、食べ物の消化管内の通過を遅らせることで消化を阻害し胃を膨張させるのだ。

とはいえ、対称的構図の場合に比べて非対称的構図における *à l'inverse* が生起全体の中でほとんど問題にならない頻度であることは間違いないところである。しかし、これが *bien* との共起例となると、その割合は明らかに変化する。現状では、見つけた共起例 8 例中の 7 例が非対称的構図である。ここではその内、2 例をあげておこう。

- (118) Évidemment, ce n'est plus une augmentation de la conversion à laquelle il faudra s'attendre, mais bien *à l'inverse*, à une chute dramatique ! (journaldunet.com⁷⁶)

当然、予想されるのはもはやコンバージョン率の上昇ではなく、反対にその激しい低下である⁷⁷。

- (119) L'usage du siwak est recommandé à tout moment de la journée. D'ailleurs, le siwak ne rompt pas le jeûne. Bien *à l'inverse*, il est même conseillé pour le jeûneur qui recherche la satisfaction de son Seigneur, la multiplication des bonnes œuvres, et cherche à purifier la bouche. La purification est pour le jeûneurs l'un des meilleurs actes. (ajip.fr⁷⁸)

シワック（イスラム教徒を中心に用いられる一種の歯ブラシ）の使用は日中のあらゆるタイミングにおいて推奨される。そもそも、シワックの使用が断食を破ることにはならない。反対にむしろ神の満足、功德の増加を求め、口を清めんとする断食者には推奨される物ですらある。浄化は断食者にとって最も良き行いのひとつなのである。

しかし、結局のところこのような非対称的構図における使用例は *bien* との共起例を含めても *à l'inverse* の生起全体からすればごく例外的であることは変わらない。非対称的構図における使用も *bien* との共起もフランス語母語話者の多くにとっては不自然である可能性が少なくない。しかし、次のような証言もある。Danjou-Flaux (1983) は *au contraire* とその周辺語彙を扱う中で、その言い換え可能性として (120) の *au contraire* が *à l'inverse* あるいは *à l'opposé* に言い換えることができると述べている。Danjou-Flaux (1983) はこの例を「修正の *mais*」*« mais rectificatif »* との共起例としてあげているが、その文脈の意味構造は本論の分類における 1 枠別視点型、つまり非対称的構図である。これは *à l'opposé* については稀にも見つけられていないタイプの例であるため、Flaux (1983) の判断の信ぴょう性については疑念の余地があるところだが、少なくとも *à l'inverse* が非対称的構図の環境に生起し論証的に用いられる可能性を示す一つの事実には違いないだろう。

- (120) En ce moment, je n'ai pas envie de travailler, mais *au contraire* [*à l'inverse/à l'opposé*] de prendre des vacances⁷⁹. (Flaux, 1983 : 288)

今、私は働きたくない、反対に長期休暇が取りたい。

à l'inverse と à l'opposé の分析を行うにあたり、例文観察から両連結辞の大まかな生起傾向を記述した。まず明らかになったことは、このふたつの連結辞が前後の発話を対比的に述べる際に用いられるものであるということである。この点において、すなわち連結辞という用法の中では、à l'inverse と à l'opposé にははっきりとした違いは今の所認められない。ただし、4.2.2.2節で見たように、反駁構造に生起し論証的に機能する可能性が à l'inverse にのみ見出される。またその一方で、連結辞以外の用法に目を向けてみると、そこにははっきりとした違いが見えてくる。à l'inverse と異なり、à l'opposé には空間的な用法があり、連結辞の用法と意味的な連続性を持っているのである⁸⁰。

第5章 非対称的構図に生起する対立表現

第2章で見たとおり、非対称的構図に生起する対立の連結辞には、*au contraire* と *loin de là* があげられる。まずは非対称的構図に生起した *au contraire* の用例観察からその論証の動きを記述し、そして *au contraire* との比較をしながら *loin de là* の記述を行う。

5.1. 非対称的構図の *au contraire* と論証の動き

非対称的構図では視点の違いがレーマの差異をもたらすが、問題となるのは話者が他者の視点を否認し自らの主張を行うその論証の動きである。まずは、この視点のあり方と論証の動きを記述する。

5.1.1. 論証の動きと視点の組み合わせ

非対称的構図における論証の動きと視点の組み合わせについて例文を観察しながらそのあり方について記述する。対称的構図の場合と異なり、非対称的構図の場合、その用法間のヴァリエーションは同じ1枠別視点型の意味構造の中に収まっている。つまり、同質の論証の動きの中でどのように否認が行われているか、あるいは後件が明示的か否か、という点で用法の違いが生じているのである。ここでは、例文観察から基本的な論証の動きを記述し、それが別の用法においても変わらないことを確認する。そして、その例文観察全体を通して、話者が想定するところの他者視点がどのような性質を帯びた主体なのかを見ていく。

5.1.1.1. 基本的な論証の動き

前述の通り、非対称的構図では他者視点が与える前件のレーマが話者によって否認され、テーマに結びついた枠には話者視点から後件のレーマが入れられる1

梓別視点型の意味構造となり、この構造は安定的である。この意味構造において行われる論証の動きを観察すると、このテーマ・レーマ構造の前段階としてある状況や条件の設定され、これを前提としてテーマにレーマが結びつけられることがわかる。また同時に他者視点のあり方が多様であることも見ていく。

- (121) « La décision de l'ONU ne changera rien sur le terrain. Elle ne fera pas avancer la création d'un Etat palestinien. *Au contraire*, elle va l'éloigner » (20minutes.fr⁸¹)

国連の決定は現状を何も変えはしない。この決定がパレスチナ国家の建設を進めはしない。むしろ、この決定は国家建設を遠ざけるのだ。

ここでは国連がパレスチナを国家に格上げするという決定を下した状況を前提に「パレスチナ国家建設」というテーマについて前件のレーマ「進む」と後件のレーマ「遠ざかる」が対立に置かれている。話者は国連によるパレスチナの格上げ決定という状況の中でテーマに前件のレーマを結びつけることで「パレスチナを格上げすればパレスチナ国家建設を進めるのではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。そして、この他者視点は現実の「国連」に同定されている。話者はこの前件のレーマを否認し、話者視点から後件のレーマを与えている。

- (122) (Air France の空港職員がストライキを正当化して)

« Notre but n'est pas de perturber les voyageurs, mais *au contraire* de les prévenir qu'ils vont y perdre en service avec cette suppression » (lefigaro.fr⁸²)

「我々の目的は旅客を混乱させることではなく、反対にこの削減によってサービス面で損をすることになると彼等に知らせることなのです。」

ここでは、ストライキを行っているという状況を前提に「(ストライキの) 目的」

をテーマとした前件のレーマ「(ストライキの目的が) 旅客を混乱させることである」と後件のレーマ「(ストライキの目的が) 旅客が損をしてしまうことになる」と知らせることである」が対立に置かれている。話者はストライキという状況の中でテーマに前件のレーマを結びつけることで、「ストライキしているのであればその目的は旅客を混乱させることなのではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。この他者視点は現実の誰か特定の人物に帰されることなく、話者が想像する一般的な意見を言う人の視点である。話者はこの前件のレーマを否認し、話者視点から後件のレーマを与えている。

- (123) Si nous avons les doigts fripés après être restés trop longtemps dans l'eau, ce n'est pas parce que notre peau est trop spongieuse. *Au contraire*, la nature a tout prévu et nous offre ainsi une meilleure prise sur des objets humides, affirme une étude publiée mercredi 8 janvier. (nouvelobs.com⁸³)

水の中にあまりに長時間指をつけていると指がしわしわになるが、それは肌の吸水性が高すぎるからではない。反対に、自然はあらゆる事を見越しており、そのようにすることでぬれた物をつかみやすいようにしてくれているのだ。

ここでは水の中に指をつけていると指がしわしわになるという事実を取り上げ、これを前提にしたテーマ「(水の中で指がしわしわになる) 理由」について前件のレーマ「肌の吸水性が高すぎるせいだ」と後件のレーマ「ぬれた物をつかみやすいようにするためだ」が対立に置かれている。話者は、水の中で指がしわしわになるという現象が問題になっている中でテーマに前件のレーマを結びつけることで「水の中で指がしわしわになるのは肌の吸水性が高すぎるからではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。この他者視点は一般的な意見を代表する思い込みの視点である。これに対して後件のレーマを与える話者視点はある研究成果を事実として伝える視点である。

- (124) La super-tempête Sandy n'a pas nui à la fréquentation des cinémas aux États-Unis ce weekend, mais a *au contraire* stimulé le box-office [...]. (nouvelobs.com⁸⁴)

大型ハリケーン・サンディは先週末のアメリカの映画館の客入りを妨げることはなく、それどころかむしろ興行収入を刺激することとなった。

ここでは大型のハリケーンが到来するという状況を前提にテーマ「先週末のアメリカの映画館の客入り（＝興行収入）」についての前件のレーマ「妨げられた」と後件のレーマ「刺激された」が対立に置かれている。話者は、大型ハリケーン到来という状況の中でテーマに前件のレーマを結びつけることで「ハリケーンが到来したのであれば映画館の客入りは妨げられたのではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。この他者視点は映画館の興行収入が分からない時点で見通しを立てる視点であり、これに対して後件のレーマを与える話者視点は結果を伝える視点である。従ってここでの他者視点と話者視点は現実の主体としては同一であり、これを隔てているのは見通しを立てている時点と結果を伝えている（発話）時点という時間的な違いである。

ここまで、非対称的構図の用例観察から基本的な論証の動きを記述した。ある状況や条件を前提として、テーマに前件のレーマが結びつけられ、ある議論が想起される。2.1.1.節で述べたとおり、これを否認する否定辞の機能は Ducrot (1984) の論争的否定と重なる。ただし、この否認は必ずしも否定辞で行われるわけではない。次はこの否認が否定辞でない語彙で行われた例を見ていく。

5.1.1.2. 肯定形で行われる否認

否認の機能は他者視点に属すレーマを、話者が自ら引き受けることなく談話中に導入することにある。この機能は否定辞が負うことが多いがそれ以外の語彙が否認の役割を果たすこともある。この場合、前件は肯定形である。ただし、この

場合においても基本的な論証の動きは変わらない。

- (125) (チュニジアの政権与党の中にイスラム原理主義者とそうでない政治家が混在しているという状況を話題にして)

C'est dans cette tension-là que va se jouer, en grande partie, le sort de la Tunisie. Car il est douteux que l'affrontement de deux blocs, les islamistes contre le reste du pays, soit une garantie de stabilité. *Au contraire*, c'est par une fracture au sein de ceux pour qui « Dieu est la solution » que doit être trouvé un chemin. (lemonde.fr⁸⁵)

まさにこの緊張（状態）にこそ、チュニジアの運命の大部分がかかっているのである。なぜならイスラム原理主義者とそうでない国民という2つのブロックの衝突が安定を保証するというのは疑わしいからである。むしろ、「神こそが解決策だ」と思っている人々の中に亀裂を生じさせることにこそ道が見いだされるべきなのだ。

ここでは、チュニジアの政権与党の中にイスラム原理主義者とそうでない政治家が混在しているという状況を前提にしてテーマ「安全を保証するもの」について前件のレーマ「イスラム原理主義者とそうでない国民の衝突である」と後件のレーマ「イスラム原理主義者の中に亀裂を生じさせることである」が対立に置かれている。話者は政権与党内にイスラム原理主義者とそうでない政治家が混在しているという状況の中でテーマに前件のレーマを結びつけることで「政権与党にイスラム原理主義者が混ざっているのであれば安全を保証するものはイスラム原理主義者と戦うことではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。この他者視点は現実の誰か特定の人物に帰されること無く、話者が想像する一般的な意見を言う人の視点である。話者はこの前件のレーマを否認し、話者視点から後件のレーマを与えているが、この否認は否定辞ではなく前件のレーマが *il est douteux* 「疑わしいこと」として提示されることで行われている。

(126) (パレスチナ・ガザ政府首相イスマーイール・ハニーヤ氏がイスラエルとの停戦を受け 開いた記者会見についての記事より)

« Les Israéliens ont commis une erreur stratégique. En assassinant Jabari, ils croyaient nous paralyser. Ils ont, *au contraire*, provoqué une nouvelle Intifada ». (nouvelobs.com⁸⁶)

イスラエル人達は戦略面で過ちを犯した。ジャバリを暗殺することで彼等は我々を麻痺させられると思っていた。彼等は、反対に、また新たなインティファダを引き起こしたのだ。

これはイスマーイール・ハニーヤ氏というパレスチナ人の言説である。この人物は「イスラエル人達は戦略面で過ちを犯した」と述べたあと、その説明を行なっているが、その説明の中に *au contraire* の前件と後件がある。ここではジャバリという人物が暗殺されたという状況を前提に前件のレーマ「我々を麻痺させる」と後件のレーマ「新たなインティファダが引き起こされた」が対立に置かれているが、このふたつのレーマは「(ジャバリ氏暗殺の) 結果」をテーマに与えられているものと考えられる。話者はジャバリという人物が暗殺された状況の中でテーマに前件のレーマを結びつけることで「ジャバリ氏を暗殺すればパレスチナ人達を麻痺させられるのではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。そして、この他者視点は現実の「イスラエル人達」に同定されている。前件のレーマは半過去時制を用いて *ils croyaient...*と導入されることで（現実とならなかった）イスラエル側の誤った予測であると言及されている。従って、この部分が否認の機能を果たしていると言えよう。

否認が肯定形で行われる場合においても論証の動きは変わらないことを見た。次は後件が非明示的な例を見ていく。

5.1.1.3. 後件が非明示的な場合（独立用法）

au contraire の非対称的構図の用法における大きな特徴は後件のレーマが明示

的に示されない、いわば独立用法と呼べるような用例が存在していることである。

(127) Non, arrêter de fumer ne rend pas plus anxieux, *au contraire* !

(aufeminin.com⁸⁷)

いいえ、タバコをやめると不安感が増すといったことはありません、反対なのです。

(127) は記事のタイトルである。前提として「煙草をやめる行為」という状況設定がなされ、その中で「不安感」がテーマとなっている。これを「増す」とする前件のレーマは明示されているが後件のレーマは明示されていない。しかし、ここでは前件のレーマ「増す」の反対の「減る」を後件のレーマであると推測することができる。従って、*au contraire* が導入する非明示な後件は「煙草をやめる行為は不安感を減らす」という内容をもつと理解することができ、実際に記事の内容もそのようになっている。前件では「タバコをやめれば不安感が増すのではないか」という議論が想起されているが、この議論の持ち主とされている他者視点は一般的な意見を代表する思い込みの視点である。これに対して後件のレーマを与える話者視点はある研究成果を事実として伝える視点である。

(128) (サッカーの監督。2点差で負けている状態から1点取り返したが、結局相手にも1点追加され負けてしまったという試合内容を振り返り)

Malgré la réduction du résultat et nos efforts, même désordonnés, on n'a pas pu revenir au score, *au contraire*... (lefigaro.fr⁸⁸)

点差を縮めて、秩序だってはいなかったにせよ、努力もしたが、同点に追いつくことはできず、それどころか…

ここでは「0-2で負けている状況から1点返して1-2になり、さらに努力をしている」という状況が前提となり、次の得点の行方が問題となっている。次に得点が入った時の「点差」がテーマとなり、これについての前件のレーマ「(点差が)

無くなる」と後件のレーマ「(点差が) 広がる」が対立に置かれている。この後件のレーマは非明示的だが前件のレーマが意味するところの「加点して 2-2 になる」という事態の反対を推測すると、「失点して 1-3 になる (=点差が広がる)」という事態が想定できる。そこまで厳密な意味で *au contraire* が用いられているのかはともかく、実際の試合でも前提の状況から 1 点失われて 1-3 で試合が終わっている。話者は、1 点差まで追い上げ、さらに努力しているという状況の中でレーマに前件のレーマを結びつけることで「1 点差まで追い上げて努力しているのであれば加点して同点にすることができるのではないか」という議論を想起し、これを他者視点に押しつけている。この他者視点は試合の行方が分からない時点で見通しを立てる視点であり、これに対して後件のレーマを与える話者視点は結果を伝える視点である。従ってここでの他者視点と話者視点は現実の主体としては同一であり、これを隔てているのは見通しを立てている時点と結果を伝えている(発話) 時点という時間的な違いである。

このように、*au contraire* の独立用法において後件のレーマは明示されていないが、前件のレーマの反対の議論を想定すれば後件のレーマを推測することができる。この「反対」というのは、意味構造レベルで言うところの対立軸上における前件のレーマの対極である。この位置関係がすでに示されていることで、話者は聞き手に後件のレーマの内容を了解させることができるのである。そして、後件のレーマが了解されているとすれば、全体的な論証の動きは独立用法においても何ら変わることがない。

ここまで、非対称的構図の 8 例について、論証の動きを記述しながら視点のあり方を見てきた。否定辞によって否認が行われ、後件が明示される基本的な用例から、否認が否定辞とは異なる方法で行われる用例、独立用法と見てきたが、各用例の視点のヴァリエーションはその分類にかかわらず存在する。(121) (126) における他者視点は現実の特定の主体に同定されている。この主体と話者はいわゆる対立関係にあり、最も反駁的な色合いの濃い組み合わせである。(122) (125) における他者視点は話者の想定する一般的な視点である。直接的な反駁の相手が特定されていないため、話者の自己弁護、自己主張の色合いが強い。ここまでの

4 例では話者視点が話者本人の意見や主張を行っているが、(123) (127) においては、話者視点がある研究成果など話者個人の意見ではない何かしらの裏付けをもって明らかにされたような物事を事実として伝える視点である。この場合、他者視点は主題から話者の想像する一般的な意見を言う人の視点である。否認のうちに後件のレーマが事実として導入されることによって前件のレーマは事実に対する思い込みのような位置づけとなる。そして、(124) (128) は話者視点と他者視点がどちらも話者本人に同定可能である。ここで問題となっているのはある物事の前後の視点、つまりある結論・結果が出る前に見通しを立てる視点と結果を伝える視点となる。ここまで、4 種類の視点の組み合わせを見てきたが、その中にも共通する性質を持つ組み合わせがあるように思われる。前半に述べた (121) (126) の組み合わせと (122) (125) の組み合わせではどれも、話者と話者でない者との意見や主張の相違が問題になる。その一方で後半に述べた組み合わせである (123) (127) と (124) (128) では、他者視点は思い込みや見通しを行なう視点であり、話者視点は調べたり確認した結果を伝える視点である。事実や現実が判明する前と後が問題となっていると考えれば後半の 2 組の視点の組み合わせは同質であると考えることが出来る。

au contraire の非対称的構図における生起例の観察から、用法にかかわらず一貫したその論証の動きを記述し、その視点のあり方を見た。論証の動きにおいては、テーマ・レーマ構造が始まる前に何らかの条件や状況が前提として与えられていた。次はこの前提部とテーマ・レーマ構造の関係性を見ていく。

5.1.2. 話者が主張しないレーマの導入

非対称的構図の *au contraire* に共通する特徴として、前件におけるレーマの否認をあげた。話者が責任を負わないこのレーマは、例えば対話者の存在しない新聞記事等において、どのように生み出されるのか。これには前述の前提部が関わっているように思われる。

5.1.2.1. ある議論を喚起する要素の存在

(129) の前件において否認されているレーマ「(彼が) 危害を及ぼす」は、*Quand il a ses crises* 「彼が発作を起こすと」という従属節が前提として先立っていることで、自然に導かれているように見える。つまり、話者はこの従属節を用いて、発作を起こすような人物であればそれは危険な人物である、という一般的な、しかし当該の患者には当てはまらない議論の繋がりを喚起することで、前件のレーマを談話中に導入する正当性を確保していると考えることが出来る。そして、前件のレーマが否認されることでこの議論は他者視点に押しつけられている。話者はまず、失踪中の患者について、発作を起こす人物である、という情報を与えたのち、喚起された議論について、一般的に考えられるような発作を起こす人物(=危険な人物)とは異なり、問題の人物は危険な人物ではない、と述べているのである。

(129) (失踪中の精神疾患患者を探す記事より)

Quand il a ses crises, il n'est pas agressif, au contraire, il peut rester des heures sans dire un mot. (lindependant.fr⁸⁹)

発作が起きても彼が人に危害を及ぼすということはない、それどころか、一言も発さずに何時間もじっとしていたりする。

5.1.2.2. 譲歩的な文脈が担う場合

(129) では、前件のレーマに正当性を与える根拠となる前提部が前件よりも前に来ていた。このような前提要素が顕著に現れる場合、その部分と前件の議論の関係が譲歩的になることがある。すなわち、前提の要素とテーマの組み合わせが喚起する議論に従う正統なレーマが前件で否認されることで、前件の議論とその前にある文脈の関係が譲歩的な関係となっているものである。(129) においても、問題の患者が発作を起こすという事態と、その人物が危険ではないという事

態を譲歩的に捉えることが可能であるが、さらに (130) (131) では、前件のレーマに正当性を与えている要素が、譲歩を表す前置詞 *malgré* に導かれた前置詞句によって導入されている。

- (130) *Malgré les sorties de la Xbox 360 de Microsoft et de la Wii de Nintendo et le prix deux fois plus élevé de la PS3 (près de 500 euros), ses fabricants ne se font pas de soucis sur les ventes. Au contraire, ils ont peur de manquer de consoles devant la folie provoquée par la sortie de la PS3 !* (*lesclesjunior.com*⁹⁰)

マイクロソフト Xbox と任天堂 Wii 発売、そして PS3 の価格がその 2 倍 (500 ユーロちかく) であるにもかかわらず、メーカーは売れ行きの心配をしていない。それどころか、彼らは PS3 の発売によって引き起こされた狂乱を前にして商品が不足することを心配しているのだ。

(Xbox 360、Wii、PS3 とともに家庭用 TV ゲームの機種名)

- (131) (サッカーの監督。2 点差で負けている状態から 1 点取り返したが、結局相手にも 1 点追加され負けてしまったという試合内容を振り返り)
Malgré la réduction du résultat et nos efforts, même désordonnés, on n'a pas pu revenir au score, au contraire... [= (128)]

(130) では、前件の「(メーカーが) 売れ行きの心配をする」というレーマが否認されている。そして、このレーマは、その前方で *malgré* から始まる前置詞句が喚起する議論によって正当性を与えられている。この前置詞句では「競合商品の発売と PS3 の値段の高さ」という事実が与えられ、競合商品の発売があり値段も高い商品を売り出す状況にあるようなメーカーは、その商品が売れないことを心配するものだ、という一般的な議論の繋がりを喚起している。話者は、競合商品の発売と値段の高さ、という要素を導入しつつ、そこから喚起される議論に従って予想されうるメーカーの態度と異なり、実際のメーカーの態度は、売り上げの心配をしていない、と述べている。この議論の流れは、売れないと判断する

要素があるにもかかわらず、その心配をしない、という譲歩的なものである。そして、このように導入された前件のレーマが否認され、後件の「商品が不足することを心配している」というレーマが対立に置かれている。同様に、独立用法の(131)では、前件の「同点に追いつく」というレーマが否認されており、malgréの節が「点差を縮めて、努力をした」という情報を与えている。malgréの節が与える前提の要素は、点差が縮まり、努力をすれば同点に追いつくことが期待出来る、という議論の繋がりを喚起している。そして、点差を縮め努力をしたが、そこから期待した結果と異なり、現実の結果は、同点にすることが出来なかった、と譲歩的に議論が続いている。この例における非明示的な後件の議論は、前件のレーマ「同点に追いつく」の反対のレーマ「点差を広げられる」であると予想出来る。そして、このレーマは実際の試合結果と合致する。

前件のレーマの導入に正当性を与えるための議論を喚起する要素が、譲歩的な議論の流れをもたらす場合を見た。つぎは、いわゆる譲歩関係が存在するわけではないが、前件のレーマを導入する要素が前件よりも前に見いだせる例を見る。

5.1.2.3. 譲歩的でない前提部がある場合

下記(132)の前件では、「(水中で指がしわしわになる理由が)肌の吸水性が高すぎるせいである」というレーマが否認されているが、このレーマは手前のSi節があることによって談話に導入される正当性を与えられている。このSi節は「水の中で指がしわしわになる」という事柄を述べているが、これを前提に（あるいは大テーマとして）テーマとして「その理由」が与えられることで、水の中で指がしわしわになる理由は、肌の吸水性が高いことにある、という一般的な議論の繋がりを喚起している。この一般的な議論とは、話者の伝えようとしているところの事実とは異なる議論であり、ここで問題となっているのは、（話者の与しない）一般的な考えのなかにある（指がしわしわになる）理由と、話者が事実として伝えるところの理由の違いである。前者には喚起された議論が当てはまる一方で、後者は当てはまらない。つまり、話者は、指が水中でしわしわになる、と

いう事柄を提示し、そこからテーマが設定されたことで喚起される議論について、一般的な考えのなかにある理由と異なり、真実としての理由は、肌の吸水性が高すぎることは関係がない、と述べているのである。このような論証の動きのうち、後件では、テーマ（指がしわしわになる理由）に当てはまる真実としての議論として、「ぬれた物をつかみやすいようにするためだ」というレーマが導入されている。この例で問題となっているのは指がしわしわになるという結果とその理由であるからして、いわゆる理由と結果が問題となる譲歩の関係には当てはまらない。しかし、この例においても、AであればBという想定された議論と話者の議論の違いが問題になっている点は変わらない。(133)においても、前件のレーマ「競争を怖れている」は、前件の前にある引用部中において、この若手弁護士が現状に甘んじることなく刷新を行なう必要性を感じていることが述べられていることで自然に導入されている。つまり、この部分が、現状を変えるべく刷新をおこなうのであれば、来るべき競争に恐れをなしているはずだという議論を喚起していることでレーマに正当性を与えているのである。

(132) Si nous avons les doigts fripés après être restés trop longtemps dans l'eau, ce n'est pas parce que notre peau est trop spongieuse. *Au contraire*, la nature a tout prévu et nous offre ainsi une meilleure prise sur des objets humides, affirme une étude publiée mercredi 8 janvier. [= (123)]

(133) (新しいビジネススタイルを提案する若手弁護士について)
« On est un relais entre le droit et les clients, expliquent-ils. Pour cela, il ne faut pas garder un statu quo, il faut innover ». Et les deux hommes n'ont pas peur de la concurrence, bien *au contraire*: « Vive la concurrence et la liberté du client ». (*lefigaro.fr*⁹¹)

彼らは述べる。「私達は法と顧客の仲介者です。これを行なうには、現状に甘んじてはいけません、刷新が必要です。」そしてこの2人は競争を怖れていない、むしろ反対である。「競争と顧客の自由万歳。」

ここまで議論を喚起する前提部が前件の前で比較的前件から独立している場合を見てきた。このような例と異なり、前件のレーマに正当性を与える要素が前提部ではなくテーマそのものに組み込まれているような例もある。

5.1.2.4. テーマ自体が議論を喚起するタイプ

下記（134）では、テーマは「ASEAN の人権宣言」、前件のレーマは「国際基準を満たしている」である。この前件のレーマの導入に対する正当性は、テーマが「人権宣言」であることによって与えられていると考えることが出来る。すなわち、「人権宣言」という事柄自体が、人権宣言を謳うのであれば、それは国際水準の人権保護を目指すものである、という一般的な議論の繋がりを喚起しており、この議論の流れから「国際基準を満たしている」というレーマが提示されているのである。この例では、一般的に想定されるような人権宣言と ASEAN の人権宣言の違いが問題となっており、文中要素から喚起された議論を受け入れるか否かがその違いである。話者は、ASEAN の人権宣言が人権宣言を謳っていることを確認しつつ、一般的な人権宣言と異なり、当該の人権宣言が国際水準の人権保護を目指していないと述べている。そして、*au contraire* の後に「人権を侵害するためのものである」というレーマを導入しているのである。下記（135）でも同様に、レーマの正当性はそのテーマによって与えられている。この例におけるテーマは、前件にある「これらの戦争」、前件のレーマは「強固な民主主義の国を作る」である。このテーマが直前で列挙されているアフガニスタン、イラク、リビアでの戦争を指しているため、ここで喚起されている議論は、これらの戦争を始めた人々の行なった主張であることがわかる。すなわち、ここで前件のレーマに正当性を与えているのは、戦争を行なえば強固な民主主義の国を作ることができるという議論である。話者は、かつての戦争について、戦争という選択が、戦争を推進する人々の主張と異なり、強固な民主主義の国を作ることはないと述べ、後件において「国家を破壊する」という内容のレーマを導入している。このよう

に、ここで問題となっているのは、これらの戦争において、戦争という選択を行なったということである。従って、前件の前にある文において、戦争の列挙の部分が前件と後件を含めた議論全体の枠組みを導入している一方、前件が *ces guerres* という主語で始められていることで、これらの戦争において戦争を行なうという選択がなされた、という点を取り立てられ、前件のレーマを導入するための議論が喚起されていると考えることが出来る。

(134) (ASEAN の人権宣言について)

« Nos pires frayeurs se sont réalisées. Cette déclaration ne répond pas aux standards internationaux mais, *au contraire*, crée de nouvelles échappatoires que les Etats de l'Asean peuvent utiliser pour limiter les droits de leur population, » [...].

(*courrierinternational.com*⁹²)

「我々が最も恐れていたことが現実となった。この宣言は国際標準を満たさない、それどころか ASEAN の国々が自国の国民の権利を制限するのに使うことの出来る新たな逃げ道を作るものだ。」

(135) *Tirons les leçons de la décennie des guerres perdues, en Afghanistan, en Irak, en Libye. Jamais ces guerres n'ont bâti un Etat solide et démocratique. Au contraire, elles favorisent les séparatismes, les Etats faillis, la loi d'airain des milices armées.* (*lejdd.fr*⁹³)

アフガニスタン、イラク、リビアにおける負け戦の 10 年から学ばなくてはならない。決してこれらの戦争が強固な民主主義の国を作ることはなかった。それどころか、戦争は分離主義を勢いづかせ、国々を破綻させ、武装民兵達の非情な掟を広めている。

5.1.2.5. 特定の要素が見いだせない例

しかし、あらゆる例において前件のレーマに正当性を与える要素が明確に見い

だせるわけではない。記事のタイトルである下記（136）では、前文脈のないタイトルであるからして、テーマ「Dr.ハウス（＝英俳優 Hugh Laurie の代表作、ここではこの俳優のあだ名のように用いられている）」自体がテーマ「バルサ（＝FC バルセロナ、有名サッカークラブ）のファンである」に正当性を与える議論の繋がりを喚起していると考えざるを得ない。しかし、この記事タイトルを見る限り、この俳優がこの俳優であるからして FC バルセロナが好きであるとする正当性はこのタイトル中では与えられていないように思われる。あるいは、下記（137）に関して、フランス全土における地方税の高騰傾向から免れることを予想させるような議論を喚起させる要素が見いだせる可能性がある位置はテーマ「マルセイユ」以外に無いように思える。しかし、この記事が読者として想定する人間に、マルセイユについての共有された知識があり、マルセイユであれば、地方税の高騰傾向から逃れるはずである、という議論がその地名から喚起されない限り、このような理解は難しい。

(136) LE DR. HOUSE N'EST PAS FAN DU BARÇA, *AU CONTRAIRE*

(eurosport.fr⁹⁴)

あの Dr.ハウスはバルサのファンではない、それどころか

(137) Depuis quinze ans, les impôts locaux flambent en France ! Une situation qui a alarmé à plusieurs reprises la Cour des comptes, la première fois dès juin 2008. Loin d'échapper à cette tendance, Marseille se retrouvait bien *au contraire* en première ligne.

(laprovence.com⁹⁵)

15 年前からずっとフランスの地方税は高騰したままだ！これは会計検査院が繰り返し危機感を表明してきたことであり、初回は 2008 年にさかのぼる。この傾向を免れるどころか反対にマルセイユはとりわけ顕著な町のひとつだ。

（137）に関してはレトリカルな物言いが問題となっている可能性もあり、分

析が難しい。一方、(136)に関してはタイトルにおける特別な論証の流れが関わっているように思われる。ここからは、タイトルにおける *au contraire* の用例から、どのように前件のレーマに正当性が与えられているのかを見ていく。

5.1.2.6. 記事タイトルにおけるバリエーション

記事の本文と異なり、記事タイトルでは自ずから文脈が限定される。このようなタイプの文においても、前件のレーマは、ある議論に乗ったかたちで想定されると考えることが出来る。まずは、前提部とテーマの結びつきが議論を喚起する場合を見てゆく。

5.1.2.6.1. 前提部とテーマの結びつきが議論を喚起する場合

(138) では「Netflix フリックス（米大手映像配信会社）がフランスに上陸する」という部分が前提部となる。この前提部とテーマ「テレビ」との結びつきによって喚起された議論に乗って、「死んでしまう」というレーマが想定されている。同じく (139) では「痩せるためには」という部分が前提部となり、テーマ「フライドポテト（高カロリー食品）」との結びつきによって喚起された議論に乗って「排除しなくてはならない」というレーマが想定されている。

(138) Netflix débarque en France : les télévisions ne vont pas en mourir. Bien *au contraire* (nouvelobs.com⁹⁶)

Netflix フリックス、フランス上陸：テレビは死なない。それどころか

(139) Obligés de supprimer les frites pour garder la forme ? *Au contraire !* (click-eat.fr⁹⁷)

体形を保つにはフライドポテトを排除しなきゃだって？それどころか！

つぎは、テーマのみで議論が喚起される場合を見る。少なくとも記事タイトルにおいては、このタイプが例の大半を占めるように思われる。

5.1.2.6.2. テーマのみで議論が喚起される場合

(140) では「政府の粛清」がテーマであることで喚起された議論によって「何かしらの問題を解決する」というレーマが、(141) では「アップルがアップルストアー20 店舗を閉鎖する」という事態がテーマであることで喚起された議論によって「経営危機である」というレーマが、(142) では「バナナ」がテーマであることで喚起された議論によって「太る」というレーマが、それぞれ想定されている。

(140) La purge gouvernementale ne règle rien, *au contraire*

(*lemonde.fr*⁹⁸)

政府の粛清は何も解決しない、それどころか

(141) APPLE VA FERMER 20 APPLE STORE : LA CRISE ? *AU CONTRAIRE !*

(*purebreak.com*⁹⁹)

アップルがアップルストアー20 店舗の閉鎖を発表：経営危機？とんでもない！

(142) La banane fait-elle grossir ? Non ! *Au contraire* (*carevox.fr*¹⁰⁰)

バナナは太るかって？いいえ！それどころか

ここまでは、記事のテキスト内と同様、前提部やテーマから議論が喚起される例である。一方、記事タイトルの例の中にはタイトルを見ただけではレーマを支える議論が喚起されていないように見える例もある。しかし、次で見るような例に関しては本文中に文脈要素を見いだすことが出来る。

5.1.2.6.3. 本文中に文脈要素が見いだせる場合

(143) ではル・プティ・バルタールという名のバーが閉まってしまうか否かが問題となっている。テーマである「ル・プティ・バルタール」について「閉まる」というレーマを支える議論はタイトル中では喚起されていない。しかし、本文 (143') の中では、このバーが閉まってしまうという噂が流れていることが述べられている。従って、この例の前件のレーマは話題となっている噂が主張する内容であることがわかる。話者はタイトルで導入した前件のレーマを本文中で正当化しているのである。

(143) Nesle : le P'Tit Baltar ne va pas fermer. *Au contraire*, il booste son show (courrier-picard.fr¹⁰¹)

ネル：ル・プティ・バルタールが閉まることはない。それどころか、店は見せ物にさらに力を注いでいる。

(143') Christian Lobbé est las. Las des rumeurs de fermeture qui touchent le P'tit Baltar. Il vient [...] de modifier et améliorer tout son spectacle. クリスチャン・ロッベはうんざりしている。ル・プティ・バルタールにかかわる閉店の噂にうんざりしているのだ。彼は店の出し物をまるごと作り替え、より良いものに変えたばかりだ。

そして前述の (144) [= (136)] もこのタイプであるように思われる。タイトルを見ただけでは、「FC バルセロナのファンである」というレーマを導入する正当性は与えられていないように見えたが、本文 (144') の中でこの俳優がサッカーファンであることが述べられ、「サッカーファンであるならば、人気クラブであるところの FC バルセロナは好きであろう」という議論が後追いで喚起されている。

(144) LE DR. HOUSE N'EST PAS FAN DU BARÇA, *AU CONTRAIRE*

[= (136)]

- (144') L'acteur Hugh Laurie, plus connu sous le nom de Dr. House, [...], est un fan de football et un supporter du club de Fulham. Le Britannique n'est, en revanche, pas un grand admirateur du FC Barcelone.

俳優ヒュー・ローリー、Dr.ハウスの名でより知られる彼は、サッカーファンであり、フラムのサポーターである。その一方で、このイギリス人はFCバルセロナの大信奉者ではないようだ。

このように、非対称的構造における前件のレーマは談話中に導入されるにあたってその正当性を与えられているように思われる。テーマやレーマと一緒に論証の動きの一部をなしているように見受けられる前提部は、テーマとの結びつきによって前件のレーマに正当性を与える要素なのである。この前提部や、あるいはテーマ自体が、話者が引き受けない議論にもかかわらず前件のレーマを談話中に導入する根拠を与え、たとえタイトル文という文脈の限られた箇所ですらそれができない場合においても、話者は遅ればせながら本文中でその正当性を説明する必要に駆られるようなのである。

これまで、*au contraire* の用例を通して非対称的構図における論証の動きを見てきたが、ここからは、対立を表す連結辞 *loin de là* 再び取り上げ、同じ非対称的構図に生起する連結辞として *au contraire* との違いやその論証の動きを改めて検討する。

5.2. Loin de là

語形成的な観点から *loin de là* は *loin de* と *là* に分けられる。*loin de* は名詞や動詞を導く表現である。

- (145) Loin de moi l'idée de vous blâmer.

私があなたを非難するなんて、とんでもない。

(『クラウン仏和辞典』)

(146) Loin de se mettre en colère, il s'en est réjoui.

彼は怒るところか、それを喜んだ。

(『小学館ロベール仏和大辞典』)

loin de の中心的意味は空間メタファーによって形作られていると言える。*Trésor de la Langue Française informatisé* によれば、loin de là を構成する loin も「(観測者、あるいは原点から)大きく隔たった «à une grande distance (relativement à un observateur ou à un point d'origine)»」位置関係を表す表現である。また、loin de は「～から遠く」という空間的な位置関係を表す用法を有しており、その他の用法においても空間メタファーが意味の中心をなしていると考えることができる。この loin de が名詞や動詞を導く代わりに、前方文脈に言及するのが loin de là の対立表現としての用法である。この前方照応の機能は là が担っていると考えることができる。ただし、位置関係を表すことができる点は loin de là でも変わらず、(147) のように「ある地点からだいぶ離れた」位置関係を表す用法がある。

(147) Dans leur commune, une banderole est tendue sur la façade de l'Hôtel de Ville : « La ville de Mâcon soutient ANTOINE GRIEZMANN et l'équipe de France ».

Bien loin de là, dans l'Océan Indien, La Réunion soutient aussi sa star, l'enfant du pays, Dimitri Payet. (le matin.ch¹⁰²)

彼らの自治体では、市役所の正面に一枚の横断幕が掲げてある。「マコン市はアントワヌ・グリーズマンとフランス代表チームを応援します。」

そこからだいぶ離れて、インド洋では、レユニオンもまた地元のスター、レユニオン出身者のディミトリ・ペイエを応援している。

ここではまず、一見同じような働きをするように見える loin de là と au contraire の相違点を明らかにし、その相違点を踏まえて、第2章で行った loin de

là の分析の修正を行う。

5.2.1. au contraire との違い

第2章では *loin de là* が非対称的構図において *au contraire* と生起環境を共有することを見た。第2章で扱った例では、*au contraire* と *loin de là* が置き換わるには生起位置の変更が必要であったが、(148) と (149) の例ではそれぞれが置き換わるのに位置の変更も必要ない。

- (148) Le FBI n'en a pas fini avec Apple... *loin de là* [○AC]
(*journaldugeek.com*¹⁰³)

FBI はアップル社を諦めていない……とんでもない

- (149) Le jeu vidéo en ligne ne rend pas asocial. *Au contraire*. [○LDL]
(*gamalive.com*¹⁰⁴)

オンラインゲームは人を社会から遠ざけない。それどころか。

しかし、*loin de là* の用例観察を進めると同じ非対称的構図の環境においても *au contraire* とは異なる点が見えてくる。ここでは *loin de là* と *au contraire* の相違点をその機能と論証の動きにおいて明らかにする。

5.2.1.1. 後件のレーマの不在

基本的に *loin de là* には後件が不在である。多くの例において *loin de là* は(150)のように前件文末に位置するか、(151)のように前件の直後に独立して置かれる。また、段落の最後に *loin de là* が置かれることもある。(152) は記事のリード文の最後に *loin de là* が位置する例である。

- (150) Des films de cette époque, tous ne sont pas conservés, *loin de là*. La

création de l'association de la Cinémathèque était aussi une idée utile de 1936 ! (franceinter.fr¹⁰⁵)

この時代の映画の中で、全てが残っているわけではない、それどころか。シネマテークの創設が実行に移されるのも 1936 年になってからなのだ。

- (151) Ce n'étaient pas des voitures de luxe qui intéressaient ces malfaiteurs. *Loin de là*. Non, c'étaient plutôt de petites berlines françaises qui étaient ciblées. (laprovence.com¹⁰⁶)

犯罪者たちを引きつけていたのは高級車ではない。それどころか。違う、むしろ標的とされていたのはフランスの小型のセダンなのだ。

- (152) [...] Hillary Clinton sera la candidate du parti démocrate, la première femme de toute l'histoire politique des États-Unis à représenter un des grands partis dans la bataille pour la Maison-Blanche. Une bataille qui s'annonce pour être d'autant plus singulière qu'elle l'opposera au candidat le plus impopulaire auprès des femmes depuis... toujours peut-être. Et pourtant, ce n'est pas gagné pour elle. *Loin de là*. (journaldemontreal.com¹⁰⁷)

ヒラリー・クリントンは民主党の候補者となる。ホワイトハウス入りをかけた戦いに有力政党を代表して出馬するアメリカ政治史上初めての女性となるということである。この戦いが他に類を見ないものとなる理由がさらにある。ヒラリー・クリントンが大統領選を争うことになる相手はおそらく有史以来最も女性に不人気の候補なのだ。しかしながら、ヒラリーの楽勝とも言い切れない。それどころか。

このような *loin de là* の生起位置は非対称的構図における *au contraire* との相違点である。*au contraire* も *loin de là* と同じく (153) のように前件文末に位置し、明示的な後件を導入しない独立用法を持つが、明示的な後件を導入する場合においては、*au contraire* は (154) や (155) のように後件の文頭や文中に位置することが多い。

- (153) La candidate à la candidature pour la primaire de la droite et du centre n'a pas pour habitude d'être une grande détractrice du pape, *au contraire*. (marianne.net¹⁰⁸)

中道右派政党の党予備選に立候補中の彼女は普段から教皇を激しく非難しているわけではない、反対である。

- (154) La France est en guerre avec l'État islamique, soit, mais ce n'est pas une raison pour tout voir au prisme de cette guerre-là. *Au contraire*, il faut se demander quels sont les mobiles des terroristes qui lui préexistent. (libération.fr¹⁰⁹)

フランスはイスラム国と戦争状態にある。それは認めよう。しかし、だからと言って、何でもかんでもその戦争を通して理解しようとしてはいけない。反対に戦争以前にテロリストたちを動かしていた動機がどのようなものであったかを考えなくてはならない。

- (155) En fait, The Assassin n'a rien d'une concession à l'industrie ; c'est *au contraire* la pleine continuation du cinéma de Hou Hsiao-hsien dans un autre cadre, mais dans ses propres termes, ceux d'une veine historique [...]. (lemonde.fr¹¹⁰)

実際、『黒衣の刺客』には業界への譲歩といった部分は全く見られない。この作品は逆にホウ・シャオシェン映画の別枠の連作の中に完全に組み込まれるものであり、それは彼自身の言葉で言うところの歴史の血脈という枠組みのものである。

このことから、後件の導入に積極的に関わる *au contraire* と異なり、*loin de là* は前方の否定文に続いて発話された時点で、後件を予告することなく、ひとつの論証を完了させていると考えられる。*au contraire* は、明示的な後件を導入しない (153) のような例においても省略的な形で後件のレーマを導入していると推測できることはすでに述べたが、*loin de là* はそもそも後件を導入していないよ

うに思われる。loin de là に後方の文が連結している例も存在するが、そこでは大概において別の接続詞が導入する項があり、別の論証が行われている。(156)や(157)で loin de là の後方にあるのは loin de là ではなく mais や puisque の導入する論証である。また、(158)の loin de là の後方には接続詞はなく、内容的にも loin de là の後件として認められそうなものであるが、loin de là とその後方は deux points で隔てられている。ここでは deux points は前文の発話意図を説明するために用いられている。つまり、否定文とそれに続く loin de là でひとつの発話が完了しているため、その内容を明示するにあたって、発話意図の説明という別の論証を行っているのである。

- (156) Malgré ses grands airs de boule de laine toute mignonne, Yoshi Woolly World apporte tout de même un peu de défi. Pas impossible, *loin de là*, mais le challenge est bien présent [...].

(*actugaming.net*¹¹¹)

とても可愛らしい毛糸玉のスペクタクルといった感じのゲームだが、それでも『ヨッシーウールワールド』には若干挑戦を要する要素がある。攻略不可能ではない、それどころか、だが難度はそれなりに高いものだ。

- (157) Cette taille et ce poids représentent donc une moyenne, mais absolument pas une case dans laquelle il faut se glisser. De même que cette affirmation qui dit que « la femme française est mince » : *loin de là*, puisque selon l'Institut Français du Textile et de l'Habillement, seules 13,15% de nos concitoyennes peuvent se glisser dans un habit en dessous de la taille 38 ! Toutes les autres se trouvent au-dessus.

(*cosmopolitain.fr*¹¹²)

つまりこの身長と体重は平均値を表しているわけだが、体押し込めるための枠ではない。「フランス女性はやせている」というあの宣言もまた同様である。それどころか。フランス繊維・衣服研究所によると、38

以下のサイズを着ることができるフランス人女性はたったの 13.15%に過ぎないのだ！それ以外は皆、より大きなサイズとなる。

- (158) Ce ne sont pas les seuls à avoir cédé aux charmes du Delaware, *loin de là* : la majorité des entreprises américaines cotées en Bourse y sont aussi enregistrées. (*capital.fr*¹¹³)

ヒラリー・クリントン氏とドナルド・トランプ氏が自分の会社を多くデラウェア州に登録させていることに触れ、) デラウェア州の魅力に屈したのは彼らだけではない、それどころか。アメリカの上場企業の大部分もまたデラウェア州登録となっているのである。

このように、*loin de là* は後件の導入という機能を積極的に担っているとは言いがたく、その点で *au contraire* と大きく異なっている。そして、これは *loin de là* と *au contraire* の後方における差異であるが、前方においても差異は存在する。

5.2.1.2. 前方文脈と前件のレーマの関係性

au contraire の多くの用例では、前件のレーマは前文脈やテーマから前項のレーマを正当化する議論が想定されていたが、必ずしも *loin de là* において同じ論証の動きが見出せるとは言い難い。とはいえ、*loin de là* においても、前文脈と関係なく前件のレーマが与えられているわけではない。(159) の前文脈では、フランス代表チームが試合の前に厳戒態勢にあることが述べられている。このような前置きがなされる中でテーマである「ホテル」が「完全に貸し切られている」という前件のレーマが与えられている。「滞在中のフランス代表チームが厳戒態勢にあるのであれば、そのホテルは完全に貸し切られているであろう」という議論を読み取ることができる。

- (159) Même si l'équipe de France vit en vase clos et sera privée aujourd'hui avant le déjeuner de sa traditionnelle promenade de jour de match

pour des raisons de sécurité, l'hôtel n'est pas entièrement privatisé.
Loin de là. A la sortie, on croise Terry, un client américain, [...], qui ignore l'identité de ces hôtes très particuliers. (leparisien.fr¹¹⁴)

フランス代表チームは外部との接触を断って過ごし、伝統となっている試合日の昼食前の散歩も今日は警備上の都合から諦めざるをえない格好であるが、ホテルが完全に貸し切られているわけではない。それどころか。出口では、テリーというアメリカ人の宿泊客に出くわしたが、その特別なゲストの正体は知らなかった。

(160) の前文脈では、問題のメッセージが（弟がその恋人に）別れを告げるものであることが述べられている。このような前置きがなされる中で、「*le petit frère d'Annie a fait preuve de classe*」というように、テーマである「アニーの弟」が「品性を示した＝品性を持って別れようとした形跡が読み取れる」という前件のレーマが与えられている。ここにおいても「恋人に別れを告げる時には品性を持って別れようとするものであろう」といった議論が提示されているように思われる。

(160) C'est avec étonnement qu'Annie Williams a consulté les messages de rupture que son petit frère et son ex-copine s'étaient envoyés. Le moins que l'on puisse dire, c'est que le petit frère d'Annie n'a pas vraiment fait preuve de classe. *Loin de là...* (sudinfo.be¹¹⁵)

アニー・ウィリアムスは弟とその元彼女が別れた時にやりとりしたメッセージを覗いて驚かずにはいられなかった。少なくとも言えることは、アニーの弟が品性を示したとは必ずしも言えないということである。それどころか。

(161) の前文脈では、土曜日に大きな交通事故があったことが既に伝えられていたことが述べられている。このような前置きがなされる中でテーマである「土

曜日の事故」は「唯一のものであった」という前件のレーマが与えられている。これを支える議論を想定するのは少々難しいが、当該の週末において土曜日の交通事故ばかりが話題に上がっていたような状況があれば、これが前文脈で喚起され、前件のレーマ「土曜日の事故が唯一のものであったこと」が想定されるのは不自然ではない。

(161) Nous avons déjà évoqué ce spectaculaire accident impliquant pas moins de quatre véhicules, [...], survenu samedi, [...]. Mais il n'a pas été le seul, *loin de là*. Pas moins de cinq autres accidents se sont produits entre vendredi et dimanche... (nordeclair.be¹¹⁶)

4 台もの車両を巻き込んだ土曜日のあの大事故を我々はすでに伝えているところであるが、あれは唯一の事故ではなかった、それどころか。金曜から日曜にかけて他に 5 件もの事故が起きていたのだ。

このように、前文脈を引き継いで前件のレーマが提示されいるように見える例も少なくない。しかし、(162) の前件のレーマが前文脈から一般性に依拠する形で想定されるということはもはやできない。(162) のテーマは「この番組」、前件のレーマが「行き当たりばったりで選ばれた」である。前文脈では、とある（現在週 5 日で放送中の）カラオケ番組が終了予定の番組の時間帯にも放送されることが述べられている。この前文脈から一般性に依拠した当然のあり方として前件のレーマを想定することは難しい。*loin de là* の後方では接続詞 *puisque* 「知っての通り」に導かれた節が続き、前件のレーマが否認される理由が読み手の既知のものとして導入されていることから、前件のレーマよりそれを否認する議論の方に一般性を持たせていることがわかる。

(162) [...]« N'oubliez pas les paroles », [...], prendra la place du jeu le samedi entre 18h45 et 19h45. Cette émission de karaoké sera donc diffusée six jours par semaine. Elle n'a pas été choisie au hasard, *loin*

de là, puisque c'est le jeu qui enregistre les meilleurs scores de la chaîne.

(metronews.fr¹¹⁷)

「歌詞を忘れるな [田代注：番組タイトル]」が毎週土曜 18 時 45 分から 19 時 45 分のバラエティ番組の後釜となる。したがってこのカラオケ番組は週 6 日で流されることになる。この番組は行き当たりばったりで選ばれたわけではない、それどころか、ご存知の通りこの番組はその局で一番の数字を取っている番組なのだから。

(163) も同様である。(163) のテーマは「ネズミに対して得た結果」、前件のレーマが「常に人間に置き換えられる」である。前文脈で既に、免疫治療の効果が人間に対してまだ実証できておらず、専門家が慎重な態度であることが述べられている中で、前件のレーマは自然に否認されている。前文脈から一般性を持って前件のレーマを想定するような話し手の意図は感じない。

(163) Si ces résultats semblent prometteurs, les spécialistes restent néanmoins prudents. « Bien que cette recherche soit vraiment intéressante, on est encore loin de prouver les bénéfices pour les patients », a noté [...] Alan Melcher, spécialiste d'immunothérapie [...]. En effet, les résultats obtenus chez les souris ne se transposent pas toujours chez l'homme, *loin de là*. *(maxisciences.com¹¹⁸)*

この結果は期待を持たせてくれるものに思えるが、専門家たちはあくまで慎重である。「この研究は実に興味深いものですが、まだまだ患者への効果を実証するには至りません。」免疫療法の専門家、アラン・メルシェルは述べる。実際、ネズミに対して出た結果が常に人間に置き換えられるわけではない、それどころか。

このように、論証の流れにおいて *loin de là* の前件のレーマは必ずしも前文脈

から一般性を持って想定されるものではない。そうであれば、前件のレーマは否定とともにひとつの議論の方向性を作り出すために導入されるということになるだろう。(162)では、当該の番組が選ばれた理由があることを述べるために逆の議論の方向性を持つ前件のレーマが導入され、(163)では、免疫療法が臨床で用いられるにはまだ至らないことを述べるために逆の議論の方向性を持つ前件のレーマが導入されている。

ここまで、例文の観察から、*au contraire* と異なる *loin de là* の特徴を見出した。このようなことから、*loin de là* を改めて記述し直す必要があるが、その前に *loin de là* の語彙的組成を確認したい。なぜなら、*loin de là* には今扱っている語用論的な用法の他に空間用法があり、この空間用法を確認することが *loin de là* の記述に意味論的な側面からの手がかりを与えてくれるように思われるからである。

5.2.2. *loin de là* の対立

ここまで述べてきた *loin de là* に関する特徴、すなわち後件のレーマの不在、前件のレーマを支える議論の不在、さらには空間表現としての *loin de là* が持つ意味を総合すると、*loin de là* は連結辞ではなく、否定を強めるような機能を負った表現だと考えた方が自然であるように思われる。まず、後件のレーマの不在は第2章で行った記述に大きな修正を迫るものである。第2章では *loin de là* を視点間の関係性にフォーカスする対立の連結辞として扱った。だが、後件のレーマが不在となると、もはや *loin de là* を連結辞として扱うことはできない。レーマの差異を問題にするのが対立の連結辞だが、ディスクール上には前件のレーマしかなく、そのような意味でレーマ間の差異というものが存在しないからである。繰り返しになるが、*au contraire* の独立用法の場合は、その意味論的特徴から後件のレーマを暗示しているが、*loin de là* の場合は後件のレーマは存在しない。従って、*loin de là* の意味論やその意味構造は対立の連結辞とは少し異なる形で記述されなくてはならない。

空間表現の *loin de là* は問題となっている場所が、*là* で照応される場所から離れた場所であることを示す¹¹⁹。同様に語用論的な用法であっても *loin de là* と言っている話者が示そうとしている場所は、*là* で照応される場所から離れた場所のはずである。*loin de là* が否定との呼応表現であることから *là* で照応されるのは前件のレーマであると考えられる。では、前件のレーマから離れた場所として示されるものは何か。*loin de là* が提示するのは話者視点の立ち位置である。話者視点の立ち位置は話者が真実・事実とする事態の位置付けであり、これが前件のレーマから遠い位置にあることを *loin de là* は提示していると言える。この関係性は *loin de là* が否定との呼応表現であることの説明にもなる。仮に *loin de là* がただ前件のレーマから後件のレーマの距離が遠いことを表現しているとする、*loin de là* は対比の文脈でも使用可能なはずである。つまり、前件が否定でない用法もありうるのである。だがそのような使用は見られない。一方、*loin de là* が前件のレーマから話者視点の立ち位置の距離が遠く離れていることを示すとすると、それは話者視点の前件のレーマを引き受けないことを表すことになる。つまり、前件のレーマは否認されなくてははいけないのである。

前件のレーマと話者視点の間の対立関係というのは一見アンバランスな分析である。*loin de là* の *là* の照応先が他者視点であれば、視点間の対立という分析もあり得るが、すでに述べたように前件のレーマを支える議論が見られない例があることや、加えて、直接対立関係にあるような人物の言説を相手取って *loin de là* を用いる例があまり見られないことなどから、*loin de là* は視点間に対立を持ち込むような機能を持っているようには思われない。ではなぜ、*loin de là* はレーマと視点という区分的を超えて前件のレーマと話者視点の関係性を問題にすることができるのだろうか。この理由もまた *loin de là* が連結辞でないことに求められよう。対立を問題にする連結辞が出現する場合、ある種の対比関係が常に存在していると言える。連結辞は前件と後件にテーマ・レーマ・視点という枠組みの中で何らかの対応関係を見出し、前件のテーマと後件のテーマ、あるいは前件のレーマと後件のレーマというようにその対応の中で関係性を規定しなくてはならない。しかし、連結辞でない *loin de là* においては前件と対等に扱うべき後件は存

在せず、ただ前件のレーマと話者視点との関係性を問題にするのみなのである。もちろん、後件のレーマが不在というのは話者が *loin de là* の使用によっていかなる事態も表現する気がないという意味ではない。表現されるのは当該の事態が前件のレーマでは表現されないということであり、否認を含めた前件の議論に当該の事態が矛盾しないということであり、そしてそこからさらに *loin de là* と述べることで生じるある種の言いつのりである。このような要素とその場その場の文脈的要素からある程度の議論の方向性は示される。しかし、*loin de là* を用いた段階で話者にその事態を直接言語化する意思は無い。仮に *loin de là* の後でその事態が言語化されたとしてもそれは後追いにすぎず、大概においてそのようなことは行われないのである¹²⁰。

loin de là を連結辞とした上で連結辞の置き換え可能性を問題にした第2章では、*loin de là* は前後のレーマ間に対立を持ち込んだ上で視点間の関係性をフォーカスすると表現であるという結論を出した。しかし、ここまで述べてきたように、例文観察を行うと、連結辞でない *loin de là* はむしろ前件のレーマから話者視点を遠ざけることによって一種の対立関係を持ち込む機能をもった表現であるように思われる。第2章の結論は、*loin de là* が非対称的構図の意味構造に生起するように見えたことから導かれたものであった。*loin de là* の生起環境には前件のレーマとそれを引き受けない話者視点の組み合わせが揃っており、この点で非対称的構図の意味構造と親和性があるのである。*loin de là* は、少なくとも連結辞としては、非対称的構図の意味構造に生起していない。*loin de là* は明示的にも非明示的にも後件のレーマを導入しておらず、仮に後件のレーマがあるように見える場合においても、それは *loin de là* の論証の動きとは関係のない後追いの議論である。

第6章 対話に現れる対立

ここまでは対立の連結辞がテキスト内に現れる場合を主に扱ってきた。そのような文脈においては対話者からの話者に対する働きかけはなく、話者は談話全体を独力で構築していく。このような文脈のあり方をモノログとするならば、ここで扱うのは対話者からの働きかけに対して用いられるディアログの用法である。そして、このような分脈における用法がことさら問題になる対立の連結辞は *au contraire* である。

au contraire はディアログの用法に特徴があるということは Danjou-Flaux (1983) が指摘する通りである。この場合、*au contraire* は否定辞とともに用いられることもあれば単独で用いられることもあり、いずれの場合も相手の発話に対して反意を提示する。そして、この用法の *au contraire* は実際に他者が行った発話を受けているためその構図は非対称的である。モノログの非対称的構図では話者が否認を用いて前件のレーマを談話中に導入し、その構図を自ら談話中に構築する必要があるが、ディアログでは他者視点の持ち主が対話者という形で実際に発話を行うため話者は *au contraire* を用いるだけで反意を提示できるのである。その意味では構造が安定したディアログの *au contraire* だが、その一方、構造的な解釈が安定しているところで話者は比較的自由に *au contraire* を用いているように思われる。というのも、相手の発話をコントロールすることができない話者は、相手の発話をそのままテーマ・レーマ構造に落とし込んで問題にすることもあれば、相手の発話の含意の中で暗黙の読み替えを行い、後件のレーマでそれを提示するという形をとることもあり、その設定のされ方はモノログの場合と比べて事例による振り幅が大きいのである。ここでは、いくつかのディアログの例を取り上げ、その構造を分析することにより、この用法における構造上の各要素の設定のされ方を観察したい。

6.1. 相手の発話が疑問文の場合

まずは相手の疑問文に対して *au contraire* が使われる場合を見ていこう。この場合、比較的容易に対話者の発話から前件のテーマ・レーマが特定される場合が多い。疑問文は相手から求める返答を得るために問題点を明確にする必要があるからである。(164) は対話者の発話が疑問文である。

(164) MONSIEUR LANGLOIS : Comment ! Mais, c'est vous qui faites chanter les enfants ?

CLEMENT MATHIEU : Oui, monsieur. C'est un reproche ?

MONSIEUR LANGLOIS : Oh ! Pas du tout ! *Au contraire*. J'adore la musique. Il m'arrive parfois moi-même de pousser la chansonnette.

(*Les Choristes*, film français : 2004)

ラングロワ先生 : なんと ! 子供たちを歌わせているのは君か ?

クレマン・マチュー : そうです。非難ですか ?

ラングロワ先生 : 全然だ ! 逆だよ。音楽は大好きだ。私もときおり歌を口ずさむことがある。

(164) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (164a) のようになる。

(164a) A : C'est un reproche ?

B : Oh ! Pas du tout ! *au contraire*. J'adore la musique.

au contraire は否定辞 *pas du tout* の後ろで発話されている。この否定は直前になされた対話者 A の発話 *C'est un reproche ?* を受けてなされている。そのため、この否定辞に否定されている内容を補って (164b) のような否定文にすることが出来る。

(164b) [ce n'est] Pas [un reproche] du tout ! *Au contraire*. J'adore la musique.

話者は *pas du tout* と述べ相手の発話を直接否認したのち *au contraire* と発している。ここで問題となるテーマは *ce* で示された *Comment ! Mais, c'est vous qui faites chanter les enfants ?* という発言のことであり、この発言が「非難」を意図したものであるということが前件のレーマとなっている。これに対して *au contraire* が導入しているであろう後件のレーマは、例えば「歓迎」である。話者は *au contraire* と述べたのちに「音楽が大好きである」という発話を行っているが、これは後件としては前件と内容が釣り合わない。この発話は「歓迎の意図を持って *ce* で示された発言を行なった」理由であると考えるのが妥当であろう。「音楽が大好き」な人は「非難する意図を持ってその発言を行なう」ことはなく「歓迎する意図を持ってその発言を行なう」ものである、という理屈でこの発話行われているわけである。従って、*au contraire* の後ろには非明示的に「その発言は歓迎である」という項が導入されていると考えられる。すなわち、この例の *au contraire* は独立用法であり、各要素は (164c) ように与えられていることがわかる。

(164c) A : テーマ (*ce* = « *Comment ! Mais, ~ chanter les enfants ?* »)

前件のレーマ (*un reproche*)

B : 論争的否定 (*pas du tout*) + *au contraire*

→ [後件のレーマ「歓迎である」]

このように (164) では、対話者 A の発話が疑問文であり、これに対して話者が明確に否定を表明していることから前件でのテーマとレーマが確定している。そして、このことが独立用法という分析を可能としているのである。

(165) も対話者の発話が疑問文となっている。

(165) (ルノワールの絵画『舟遊びをする人々の昼食』の中の少女 elle にアメリカ自身を重ね合わせながら)

AMÉLIE : Si elle a l'air un peu à côté, c'est peut-être parce qu'elle est en train de penser à quelqu'un.

RAYMOND DUFAYEL : À quelqu'un du tableau?

AMÉLIE : Non, plutôt un garçon qu'elle a croisé ailleurs. Mais elle a l'impression qu'ils sont un peu pareils, elle et lui.

RAYMOND DUFAYEL : Ah, autrement dit, elle préfère s'imaginer une relation avec quelqu'un d'absent, que de créer des liens avec ceux qui sont présents ?

AMÉLIE : Non... Peut-être même qu'*au contraire*, elle se met en quatre pour arranger les cafouillages de la vie des autres.

(*Le Fabuleux Destin d'Amélie Poulain*, film français : 2001)

アメリカ : 絵の中にいないみたいなこの女の子だけど、誰かのことを思っているからなのよ。

レイモン : 絵の中の誰かか ?

アメリカ : いいえ、どちらかというところかですれ違った男の子。ちょっと似た者同士な気がしているのよ、彼女は。

レイモン : つまり、彼女は今そこにいない人間との関係を想像する方がよくて、今いる人間との関係はどうでもいいと ?

アメリカ : いいえ... きっと、むしろ逆なくらい、一生懸命他人の人生を軌道修正しているの。

(165) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (165a) のようになる。

(165a) A : elle préfère s'imaginer une relation avec quelqu'un d'absent, que

de créer des liens avec ceux qui sont présents ?

B : Non... Peut-être même qu'*au contraire*, elle se met en quatre pour arranger les cafouillages de la vie des autres.

話者である B は対話者 A の問いかけに対して **Non** と答えている。この否定は相手の疑問文をそのまま否定するものである。つまり、話者は対話者 A の発話をそのまま否認し、ここに前件のテーマ・レーマを見出していることが予想できるということである。そして、これと同時に重要なことは否定辞の後に直接 **au contraire** が用いられているわけではなく、その間に **Peut-être même que** という部分が挟まっていることである。つまり、話者は対話者の発話を一旦否定し、改めて後件を述べる段になって **au contraire** を用いており、この **au contraire** の後件は明示的に述べられているということになる。そして、話者は **au contraire** を用いて前件と後件の間に対立を見ることを求めている。(165a) は論証の各要素の情報量が多いので各要素を肝心な部分のみに絞ってまとめると (165b) のようになる。前件を構成する対話者 A の発話は、「ここにいない人間との関係のことを考えている」と読むことができる一方、後件の「一生懸命他人の人生の軌道修正をしている」という発話は「周りの人間のことばかり考えている」というように読むことができる。したがって、「彼女 (の関心の的)」をテーマに「ここにいない人間である」と「周りの人間である」というレーマが対立していると分析できる。

(165b) A : テーマ (elle)

前件のレーマ (quelqu'un d'absent)

B : 論争的否定 (non) + **au contraire**

後件のレーマ (ceux qui sont présents)

(166) は対話者の発話が否定疑問文である。

(166) (娘 elle のパートナー il が昼食の時間になっても家に戻らない。娘のパートナーを待つか、待たずに食事を始めてしまうかについて)

ELLE : Non, le mieux, c'est de commencer sans lui. C'est mieux.

LA MERE : Tu crois ?

ELLE : Oui.

LA MERE : Mais il ne va pas trouver ça malpoli de notre part ?

ELLE : Non, non. *Au contraire*, il sera gêné de voir que vous l'avez attendu. C'est pour ça. Commencez il vous rejoindra.

(*Elle t'attend*, F. Zeller : 2008)

娘 : いいえ、彼抜きで食べ始めるのが一番よ。そのほうがいいわ。

母 : そう思うかい ?

娘 : ええ。

母 : でもそうしたら彼悪く思わないかしら。

娘 : いいえ。それどころか、みんなが彼を待ってたと知ったら彼はぼつの悪い思いをするわ。だから言ってるのよ。食べ始めてなさいよ、彼もじきにやってくるわ。

(166) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (166a) のようになる。

(166a) A : Mais il ne va pas trouver ça malpoli de notre part ?

B : Non, non. *Au contraire*, il sera gêné de voir que vous l'avez attendu.

au contraire は直前の母親の質問への答えに続いて発話されている。*au contraire* の前にある否定辞 *non* は疑問文から文を補えば否定文 (166b) に言い換えることが可能である。

(166b) Non, non [, il ne va pas trouver ça malpoli de notre part]. *Au contraire*, il sera gêné de voir que vous l'avez attendu.

この場合、話者 B が問題としているのは相手の発話の否定疑問文のなかに含意される肯定的な内容である。つまり [Mais] *il ne va pas trouver ça malpoli de notre part* ? という否定疑問文は *il va trouver ça malpoli de notre part* という内容の可能性を尋ねるものであり、疑問文によって問われたこの肯定的な内容を話者 B は *au contraire* の前件として問題にしているのである。*au contraire* 前方の否定辞 *non* はそこで提示されるレーマを否認している。ただし、この例において話者 B は後件を提示することによって前件の再定義を行なっている。否認を受けた結果前件が持つ議論は、「彼を待たずに食事を始めてしまうこと (= ça)」を「彼は悪く思わない」であり、その否定の議論の方向に進めた議論を *au contraire* の先に導入すると、その議論は例えば「彼を待たずに食事を始めてしまうと彼は喜ぶ」となってしまう。これは前件の各要素が A の発話との関係でテーマ「彼を待たずに食事を始めているという状況」、レーマ「(彼が) 失礼であると感じる」という組み合わせで理解されるからである。しかし、ここで B は「彼がばつの悪い思いをすること」に言及している。これは、「彼との関係において避けるべきこと」というカテゴリーで A の発話中の「(彼が) 失礼であると感じる」という部分と結びついている。後件が「彼がばつの悪い思いをすること (= 彼との関係において避けるべきこと = 彼が失礼であると感じること)」が「彼を待つことである」と述べることでこの要素の組み合わせを再定義し、テーマを「彼を待たずに食事を始めてしまうこと」から、A の発話内ではレーマであったものから置き換えた「彼がばつの悪い思いをすること」に変更している。後件による再定義の後にはテーマ「彼がばつの悪い思いをすること」についての前件のレーマ「彼を待たずに食事を始めることである」と後件のレーマ「彼を待つことである」が対立する構図となっている。

- (166c) A : [テーマ (ça = commencer sans lui)] → B が前件のレーマに変更
 [レーマ (il va trouver malpoli)] → B がテーマ位置で置き換え
 B : 論争的否定 (non, non) + au contraire
 置き換えられたテーマ (il sera gêné de voir)
 後件のレーマ (vous l'avez attendu)

ここまで、au contraire を含む発話が相手の疑問文にたいして行なわれている例を見た。いずれの例も au contraire の前方に否定辞が置かれ、その否定は相手の疑問文で提示されたレーマを否認する機能を果たしている。この際に否定によって否認されるのは相手の疑問文によって既に提示されたものであり、どのようなテーマに対してどのようなレーマが否認されているのかは au contraire や後件が与えられる前に否定辞の時点で話し手と相手の間で了解されている。すなわち、相手の疑問文に対して au contraire が発せられた場合は、前件がまず先に理解され、そこから後件が作り出される、といったメカニズムが働いていると考えられるのである。疑問文とは、相手が問題とすべきテーマとレーマを提示し、これについての肯定否定の判断を求めるものであり、この疑問への返答を行なっている時点で問題となる前件は確定しているのである。(166) では疑問文の返答として一度前件が確定し、そこから後件が前件の再定義を行なっていると考えられる。このように前件がまず確定し、それから後件が形作られるようなメカニズムは疑問文に対しての返答の場合に顕著であるが、相手の発話が疑問文でなくてもテーマ・レーマが明確な場合もある。

6.2. 相手の発話が疑問文でない場合

(167) の au contraire は、相手が言ったある種の決まり文句に対して発話されている。

(167) GEORGES : [...] Et maintenant, mesdames, après cette bonne causerie, il ne me reste plus qu'à vous exprimer ma vive gratitude, à vous remercier chaleureusement de votre inoubliable accueil.

MADAME PERRIER : De rien, de rien.

GEORGES : Si, si, *au contraire*, de beaucoup.

(*Huit jours à la campagne*, J. Renard : 1906)

ジョルジュ : [...] さて、ご婦人方、楽しいお話も一段落ですので、あなた方へのお礼を述べたらおいとますことにしましょう、素晴らしい歓迎をして頂いて本当にありがとうございました。

ペリエ夫人 : いえいえ何でも無いことですのよ。

ジョルジュ : いやいや、それどころか、色々としていただきました。

(167) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (167a) のようになる。

(167a) A : De rien, de rien.

B : Si, si, *au contraire*, de beaucoup.

ここで話者 B が問題としている発話者 A の発話は示された感謝にたいして決まり文句を用いて返答したものであるが、話者 B はその決まり文句を字義通りの意味で取り *au contraire* の前で否認している。問題となる発話は *rien* という否定辞を含んでいるため、その発話は *si* によって否認されている。前件に内容を補って明示化するのは難しいが、*rien* を数量詞と考え「何も無い」とするならば、*si* の後方には「何も無くはない」という内容が隠れていると考えることができ、前件の時点で内容が確定していると考えることが出来る。このように前件が確定した上で後件の位置に *de rien* の反対として *de beaucoup* が導入されている。したがって、(167a) における各要素をまとめると (167b) のようになる。

(167b) A : テーマ [B の受けた歓迎]

前件のレーマ (de rien)

B : 論争的否定 (si, si) + au contraire

後件のレーマ (de beaucoup)

話者 B が行なうように対話者 A の発する決まり文句 *de rien* をあえてレーマとして捉えると「問題となっている歓迎」をテーマに「何でも無いものである」と述べているというように考えることが出来る。このようなレーマとして *de rien* が否認されたのち、その反対のレーマとして *de beaucoup* が導入されているのである。決まり文句を文字通りに捉え直すという「ひねり」はあるものの、各要素は比較的簡単に同定することができる。

また、相手の発話から前後件が想定されるものには (168) のような例もある。

(168) (ある銀行が原子力と IT (情報処理) 関連の株で利益を挙げており、ライバル会社がマスコミを使って邪魔しようとしている。)

WESTON : Lisez la presse. Ils se servent des médias pour saper nos bases. On ne cesse d'attaquer ces deux secteurs. (*Il montre les journaux.*) Premièrement, l'énergie atomique : regardez ces photos, ce sont des enfants nés de parents irradiés — si, si, elles sont nettes, et dans le bon sens ; regardez ces cartes, ce sont les zones sinistrées autour des centrales nucléaires ; et regardez ces courbes descendantes, ce sont les résultats agricoles de ces mêmes régions.

JOE (*jetant négligemment les journaux*) : Ça ne marchera pas. Les gens n'ont pas envie de voir ou d'entendre ce genre de choses.

WESTON : *Au contraire.* Les tirages montent. En couverture de magazine, le bébé d'irradiés fait désormais plus que les fesses de Josy Lamour ou le bikini de la princesse de Bent. Cinq cent mille exemplaires assurés, et ça peut même décoller au-delà si le bébé est,

par chance, siamois ou trisomique. Le public en raffole. (*Un temps.*)
Évidemment, les politiciens écologistes ne laissent pas passer l'occasion de se faire mousser et j'ai peur, pour nos prochains chantiers, que nous n'ayons pas nécessairement l'aval du gouvernement. (Golden Joe, E.-E. Schmitt : 1995)

ウェストン：新聞を読んでください。彼等はメディアを使って我々の基盤を覆えそうとしてます。この二部門を攻撃し続けている。最初に、原子力部門です。これらの写真を見てください、被爆した両親から生まれた子供達です。違います、違います、ピントはあってるんです、方向もあってます。これらのマップを見てください、発電所の周りの被災したエリアです。そしてこの下降線を見てください、このエリアの農業生産高です。

ジョー：うまくいきっこないさ。みなこの手の物事は見聞きしたがいらないだろう。

ウェストン：反対です。部数が伸びてるんです。雑誌の表紙では今やジョージ・ラムールのヒップやプリンセス・ドゥ・バンのビキニ姿より被爆者の子供の方が売れるんです。50万部は確実で、それがまたシャム双生児やダウン症の子供だったりするとさらに売り上げが大きく伸びることすらあります。もちろん環境保護派の政治家たちはこの機を逃さず自らを喧伝しています。今後の建設計画に政府の支持が得られつづけるかどうか分かりません。

(168) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (168a) のようになる。

(168a) A : Ça ne marchera pas. Les gens n'ont pas envie de voir ou d'entendre ce genre de choses.

B : *Au contraire*. Les tirages montent. En couverture de magazine, le

bébé d'irradiés fait désormais plus que les fesses de Josy Lamour ou le bikini de la princesse de Bent. Cinq cent mille exemplaires assurés, et ça peut même décoller au-delà si le bébé est, par chance, siamois ou trisomique. Le public en raffole. (*Un temps.*) Évidemment, les politiciens écologistes ne laissent pas passer l'occasion de se faire mousser et j'ai peur, pour nos prochains chantiers, que nous n'ayons pas nécessairement l'aval du gouvernement.

この *au contraire* には他の例のように同一話者による否定表現が先立っていない。しかし、*au contraire* が直前の発話への反駁の意図を持ってなされていることは明らかである。仮に何らかの言語的な操作を *au contraire* の前に補うことができる とすれば、それは前件の否認であろう。つまり、相手の発話を間違っていると断定である。ただし、モノログの非対称的構図で前件の否認が必須要素なのは前件のレーマを話者が引き受けないことを示すためであり、対話者が前件の内容を発話するディアログではこの関係性がはっきりしているため前件の否認を想定する必要性は必ずしも生じない。対話者 A の発話の内容「敵の戦略はうまく行かず、みながこの手の物事を見聞きしたがない」に対する反対の内容として、「敵の戦略はうまく行き、みながこの手の物事を見聞きしたがる」という事柄が想定できる。そして、これは *au contraire* の後方で述べられている、雑誌の発行部数が伸びているという事態からも結論することができる。対話者 A の言うように「敵の戦略はうまく行かず、みながこの手の物事を見聞きしたがない」ならば新聞や奇形児が表紙の雑誌は売れることが無く、「新聞や奇形児が表紙の雑誌が部数をのばしている」という事態は「敵の戦略がとてもうまく行き、みながこの手の物事をとても見聞きしたがつている」ということを支持するものである。つまり、ここで話者は *au contraire* を用いることのみで前件も後件も明示することなく自らの主張を行い、後方でその補足を行っていると考えられる。ライバル会社の戦略の影響力の有無が問題になっていることがはっきりしているこの文脈において、*au contraire* を用いることで話者の立場はある程度明確に示され、話

者は直ちにその立場が正しいことの説明にかかっているのである。このようなメカニズムによって *au contraire* は対話者 A の発話全体に対する反意であることが理解される。この各要素は (168b) のようにまとめることができる。話者 B は、*au contraire* の後方で後件とほぼ同価値の事態を長々と述べているが、基本的には対話者 A の発話が比較的単純なものであるからこそ、話者 B は前件も後件も明示せずにその補足から話を進めているのであろう。

(168b) A : テーマ (ça)

前件のテーマ (ne marchera pas)

B : *au contraire*

後件のテーマ ([ça marchera très bien])

このように、相手の発話の構造が単純であったり疑問文であったりする場合、あるいは文脈によって論点がはっきりしている場合、否認の明示、非明示にかかわらず *au contraire* の前方で前件の要素が確定し、そこから *au contraire* の話し手は論証の各要素を設定しているように思われる。しかし、そのような要素が前件の時点では確定できず、(169) のように後件が提示されるまで *au contraire* が問題としている前件の解釈が確定できないものもある。

(169) POIL DE CAROTTE : Si ma mère m'avait aimé, j'aurais peut-être fait quelque chose.

M. LEPIC : *Au contraire*, Poil de Carotte. Les enfants gâtés ne font rien. (Poil de Carotte, J. Renard : 1900)

にんじん : お母さんが愛してくれていたなら、たぶん僕は何かしていただろうに !

ルピック氏 : 反対だよ、にんじん。甘やかされた子供はなにもしないさ。

(169) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (169a) のよう

になる。

(169a) A : Si ma mère m'avait aimé, j'aurais peut-être fait quelque chose.

B : *Au contraire*. Les enfants gâtés ne font rien.

話者 B は対話者 A の発話を受けて *au contraire* と述べている。対話者 A の発話は「母親に愛されていたのであれば A が何かをしていたはずである」と主張している。仮に話者 B が *au contraire* と述べたのみでその発言を終えた場合、対話者に伝わるのは対話者 A の発話の反対、つまり「(母親に愛されていたとしても) A は何もしなかったはずである」という主張である。確かにこの主張は *au contraire* の後方で述べられている「甘やかされた子供は何もしない」という議論に矛盾しない。では、話者 B は *au contraire* と述べることによって本当にそのような主張をしているのだろうか。文脈に立ち返ると、ここで対話者 A であるにんじんは、話題の場面で何もできなかったことを母親に愛されなかったせいであると述べている。これを受けて父親であるルピック氏は、自分を卑下するにんじんを励ます意図を持って当該の発話を行っている。そのような状況で「たとえ母親に愛されていたとしても、お前は何もしなかったはずだ」という主張が行われるのは不自然である。つまりルピック氏は *au contraire* の後に *les enfants gâtés ne font rien* と述べることで *au contraire* が伝える議論の修正を図っているはずなのである。おそらくここでルピック氏は議論を一般のレベルに持ち込もうとしている。すなわち、ルピック氏はにんじんの言葉の中に含まれる「母親に愛されなかったことで自分は劣った人間である」という議論に焦点を当て、「母親に愛されなかったからといって、お前が一般の母親から愛された子供に比べて劣っているわけではない」という主張をしているのである。このような主張を行うためにルピック氏は *les enfants gâtés* という物言いをしている。このことによって、にんじんの行った非現実の仮定における「母親に愛された自分」を「甘やかされた子供」に言い換え、「母親に愛されなかった自分」と「甘やかされた子供」という対比に議論を持ち込んでいるのである。*au contraire* と述べられることでまず伝わるのは、「母

親に愛されていたとしてもお前は何もしなかったはずだ」という主張であろう。しかし、その後の修正によって「そのような愛された子供とは甘やかされた子供であり、そのような子供と比べてお前が劣っているということはない」という励ましの意図が伝えられているのである。

(170) (クビを言い渡され校長室から去りつつあるクレマン・マチューに向かって、)

LE DIRECTEUR RACHIN : [...] Allez au diable !

CLEMENT MATHIEU : Non, je le quitte *au contraire* !

(*Les Choristes*, film français : 2004)

ラシャン校長 : [...] 地獄に堕ちろ !

クレマン・マチュー : 冗談じゃない、地獄はお前だ !

(170) は発話が単発的なのでそのまま (170a) のように書くことができる。

(170a) A : Allez au diable !

B : Non, je le quitte *au contraire* !

Allez au diable ! とは「消え失せろ」といったような意味の罵倒の決まり文句であり、B にその勤務先である学校からの解雇を申し渡した A が部屋から去ろうとする B に投げかけた言葉である。B はその投げかけられた言葉をあえて文字通り取って否定し、さらにその diable 「悪魔」という言葉と罵倒した人物 A を重ね合わせ、「悪魔であるおまえのもとを去るのだ」という風に言い返している。返答文の頭にある Non はその前の発話から補うことで *je ne vais pas au diable* のような否定の文にすることが出来る。しかし、これを前件として *au contraire* をつなげただけではこの意味解釈にたどり着くことは出来ない。*allez au diable* 「消え失せろ」という発話をただ否定すると「消え失せない」となり、A が学校から去ることを拒否するという意味内容が提示されるが、これは現実には学校をクビにな

り去ろうとしている B の状況とは矛盾している。au contraire の前方で述べられている je le quitte は au contraire の後件のステータスを持っている。ここで述べられているのは、A の発言中にある diable が B に言わせれば A 自身なのであるという主張であり、A の発言を逆手に取った意趣返しである。つまり、non と述べることによって表明された否認はクビになった学校から出て行くという行為自体を否定しているわけではなく、当該の行為が allez au diable という表現にはそぐわないものであるという主張をしている。この解釈が可能となるのは後件が前件中を含めた diable の指示対象の再定義を行っているからなのである。

- (171) (アンチゴーヌは「ポリニスの遺体を埋葬したものは死刑にする」という国王クレオンのおふれに逆らって、兄であるポリニスの遺体を埋葬しようとする。アンチゴーヌはオイディプス元国王の娘であり、クレオンの姪であり、かつ息子の婚約者でもある。)

ANTIGONE : Si j'avais été une servante en train de faire sa vaisselle, quand j'ai entendu lire l'édit, j'aurais essuyé l'eau grasse de mes bras et je serais sortie avec mon tablier pour aller enterrer mon frère.

CRÉON : Ce n'est pas vrai. Si tu avais été une servante, tu n'aurais pas douté que tu allais mourir et tu serais restée à pleurer ton frère chez toi. Seulement tu as pensé que tu étais de race royale, ma nièce et la fiancée de mon fils, et que, quoi qu'il arrive, je n'oserais pas te faire mourir.

ANTIGONE : Vous vous trompez. J'étais certaine que vous me feriez mourir *au contraire*. (Antigone, Anouilh : 1944)

アンチゴーヌ：私がもし皿洗い中の召使いであったとしても、勅令が聞こえてきた時には、手についた汚れた水をぬぐい、エプロンをつけたまま飛び出して兄を埋葬しに行ったことでしょう。

クレオン：嘘をつけ。おまえが召使いであったなら殺されてしまうことを疑いはしないだろうから家の中で兄の死を嘆いていたことだろう。た

だお前が王家の血筋を引いており、私の姪であり、息子の婚約者であるがゆえになにがあろうと私がおまえを殺しはしないだろうと思ったのだ。

アンチゴーヌ：それは間違いです。それどころか王が私を殺してしまわれることは確信しておりました。

(171) において特に *au contraire* に関与的な部分を抜き出すと (171a) のようになる。

(171a) A : Si tu avais été une servante, tu n'aurais pas douté que tu allais mourir et tu serais restée à pleurer ton frère chez toi. Seulement tu as pensé que tu étais de race royale, ma nièce et la fiancée de mon fils, et que, quoi qu'il arrive, je n'oserais pas te faire mourir.

B : Vous vous trompez. J'étais certaine que vous me feriez mourir *au contraire*.

この例では「アンチゴーヌがポリニスの遺体を弔おうとした」という状況においてアンチゴーヌが考えていたことが争点となっている。B の発話の初めにある *vous vous trompez* という文が前件の否認を担っているが、その否認の対象が A の発話中のどの部分であるかまでは明示されていない。A の発話が否定文終わっているが、*si* といった否定表現によつての否認よりも、その否認の対象がぼやけて感じられる。一方、その後ろの文は後件のステータスを有しており、ここでも後件が *au contraire* の前件を定義しているものと考えられる。後件である「王が私を殺してしまうと確信していた」という発話は、「王がアンチゴーヌを殺すか否か」について「殺すであろう」とし、「そのことについてアンチゴーヌが確信を持っていた」と述べている。このうち、A の発話中には「王がアンチゴーヌを殺すか否か」を問題としている部分がある。A の発話の後半の文、とりわけ *tu as pensé* に続く後半の補足節 *que, quoi qu'il arrive, je n'oserais pas te faire mourir* 「(な

にがあらうと) 私がおまえを殺しはしないだろう」である。このように後件が明示されることで、そのテーマ的共通性から B の否認が A の発話のどの部分を問題としているのかを理解することが出来るのである。A の発話は「殺しはしない」とする一方、B の発話は「殺すであらう」と述べており、この後件の発話によってテーマ・レーマが確定した後で *au contraire* が発せられている。後件の「アンチゴーヌが確信を持っていたこと」は、A の発話の *tu as pensé* 「思った」との対応が見られるが、これは「思った」に対する「確信を持って思った」というような要素が加わった対応関係になって後件の主張を強めているように思われる。

ここまで見てきたとおり、ディアローグの用例における *au contraire* の生起は *au contraire* が相手の発話を問題としている非対称的構図として分析できるものである。問題とする前件のレーマを否認を用いて自ら提示する必要のあるモノローグの用法と異なり、問題とする発話が直前に相手の口から発せられているディアローグの用法では、その前件のあり方はさまざまである。話者は問題とする相手の発話の含意の範疇で前件のレーマを設定し、明示的、あるいは非明示的に否認の対象とする。そして、その設定された前件のレーマは、相手の発話の構造のまま理解されるか、後件のレーマによって理解されるか、後件のレーマが明示されなくとも補足によって理解される場合があった。多くの場合前件の叙述は非明示で *non* といった否定表現が否認の意図のみを伝えているが、否定表現のない場合もある。このように、*au contraire* の論理構造における各要素が理解されるメカニズムは用例の観察によって理解されるが、ディアローグならではの分析の難しさはある。モノローグでは、とりわけ新聞記事などの場合、論証の各要素をはっきりさせて一般に理解させる必要がある。その点、ディアローグでは目の前の相手との間で意思伝達ができればそれで十分であり、物事を明示することよりある種の効率が優先されるのであらう¹²¹。

第7章 日本語の対立表現との比較 —「それどころか」を通して—

最後に、本論で扱ったフランス語における対立表現と同じような役割を日本語で担う表現である「それどころか」について触れてみたい。この表現は、非対称的構図において生起する *au contraire* や *loin de là* と同じような文脈で用いることが可能である。和仏辞典の例である (172) のように「それどころか」が *loin de là* で訳されることもあれば、*loin de là* の例 (173) を「それどころか」に訳すこともできる。(174) は *au contraire* を「それどころか」に訳している仏和辞典の例である。従って、アプリアリには、この置き換えを可能としている文脈的性質は異なる視点による主張の対立であると言えるだろう。例えばフランス語の *au contraire* は、非対称的構図に生起する一方、対比的な文脈である対称的構図にも生起するという意味では非対称的構図に特化した表現ではない。「それどころか」も同様に視点的な対立に特化した表現とは言えないが、そのあり方は *au contraire* のそれとも異なっている。「それどころか」の分析からフランス語の対立表現のあり方に対する日本語の対立表現のあり方の一旦を垣間見ることができ

- (172) 彼は無欲ではない、それどころか¹²²。

Il n'est pas désintéressé, *loin de là* ! (『コンサイス和仏辞典』)

- (173) Paris est devenue [sic] une ville dangereuse. Certes, les différents gouvernements tentent de nous faire croire que la criminalité recule, mais dans la vie quotidienne, on ne s'en rend pas compte. *Loin de là*. Attaques, vols à l'arraché, pickpockets, etc. Ça n'arrête pas !

(*montres-de-luxe.com*¹²³)

パリは危ない町になった。確かに、様々な政権が犯罪が減っていると信じ込ませようと試みてきたが、日常生活でそれが実感されることはない。それどころか、暴行、ひったくり、スリ等ひっきりなしに起こっている。

- (174) Vous plaisantez ? — *Au contraire* !

「冗談でしょう」「いやそれどころか」 (『クラウン仏和辞典』)

「それどころか」は、語形成的な観点から「それ」と「どころか」に分けることができる。「どころか」は、名詞や動詞を導く表現である。

(175) 文章どころか、自分の名前もかけない。 (『大辞泉』)

(176) 成功するどころか、失敗ばかりしている。 (ibid.)

この「どころか」が名詞や動詞を導く代わりに、前方文脈を言及するのが「それどころか」である。この前方照応の機能を「それ」が担っていると考えることができる。このあり方は、*loin de là* における *loin de* と *là* の組み合わせを思わせる。そして、その *loin de* と同様、「どころか」の意味の中心は空間メタファーによって形作られていると言える。「どころか」を論じた川端 (2014 : 76) は、概念としての<トコロ>が境界のない空間を意味するという池上 (1998) の指摘に基づいて、「ところ」がある「地点」を表し、そこからの意味拡張によって時間的、あるいは「スケール」上の一地点」といったさらに抽象度の高い表現に用いられていると述べている。また、同じく「どころか」を扱った服部 (2005) もまた、「ところ=処」という空間メタファーからの解釈を提示しているのである。

また、多くの例において「それどころか」は、否定の後に用いられる。これは、「それどころか」が視点の対立の文脈で使われることに由来する特徴であり、*au contraire* や *loin de là* との共通点でもある。

(177) 悲しくて泣いていたのではありません。それどころか、嬉しくてつい涙を流したのですよ。 (森田 1989 : 609)

ただし、「それどころか」には (178) のように肯定の後に用いられる場合もある。

(178) 靴職人を演じているのがアダム・サンドラー。彼が他人に変身をした時

はアダム・サンドラーが演じているわけではないのだが、だんだんアダム・サンドラーに見えてくるところが楽しい。彼の父親役が名優ダスティン・ホフマン。この作品が40年前に作られていたら間違いなくダスティン・ホフマンが靴職人を演じたであろう。それどころかもしかしたら他人に変身した役まで1人で演（や）ったのではないかと想像が膨らんだ。

(『朝日新聞デジタル』¹²⁴)

このように、異なる言語の連辞であるにもかかわらず、「それどころか」はフランス語の *au contraire* や *loin de là* との近接性を持っている。ここでは、「それどころか」を構成する「どころか」を扱った先行研究をふまえつつ、そのいわば連辞的形態である「それどころか」の機能について考察を行う。

7.1. 「どころか」と「それどころか」

「それどころか」の分析に先立ち、この表現の元となる「どころか」について先行研究を概観しながら、その特徴を観察し、それを踏まえて「それどころか」の分析を行う。

7.1.1. 「どころか」

服部（2005：168）は、「P どころか」について、「 \ll P か（否か） \gg 」という問題設定の妥当性を打消し、実は P よりも（または、 \wedge P）よりも高段階（下限が高い）の Q であることを示す」と述べている¹²⁵。例えば（179）のような問いかけに対して、（179a）のように答えた場合、提示された P「上手である」よりも Q「プロ顔負けである」は高段階である。また（179c）のように答えれば、Q「とても聞いていられない」は \wedge P「上手ではない」よりも下方に高段階である。そして（179）に対して（179b）のように答えるのは不自然となるが、これは、 \wedge P「上手ではない=下手である」と Q「下手である」に段階的な差を見出だすことができないか

らである。

(179) (ある人物についてピアノが上手か尋ねられ。)

- a. 上手どころかプロ顔負けだ。
- b. ? 上手どころか下手だ。
- c. 上手どころかとても聞いていられない (ほど下手くそだ)。

(服部 2005 : 168)

さらに服部 (2005) に従えば、(180a) では P「かなりある」より高段階の Q「ものすごくたくさんある」があり、(180f) 及び (180g) では[^]P「かなりはない」より下方に高段階な Q「ほとんどない／全然ない」があると理解できる。また (180c) 及び (180d) は、[^]P と Q「そんなにない／あまりない」が同程度であり、Q は[^]P より高段階を表すとは言えないので不自然となる。そして (180b) と (180f) では同じ「ちょっと」という量が提示されている。「ちょっと」という表現で提示される量は同一の尺度において「かなり」という表現で提示される量より少ないため、Q は[^]P より下方に高段階なものとして提示されなくてはならない。しかし (180b) では「ちょっとある」が肯定的な方向性を持った表現であり、「どころか」の示す方向性と矛盾している。つまり、P から Q (あるいは[^]P から Q) への段階の高まりというのは、表現の方向性に関わっていると言い換えてもよいだろう。

(180) a. かなりあるどころか、ものすごくたくさんある。

b. # かなりあるどころか、ちょっとある¹²⁶。

c. ? かなりあるどころか、そんなにない。

d. ? かなりあるどころか、あまりない。

e. かなりあるどころか、ちょっとしかない。

f. かなりあるどころか、殆どない。

g. かなりあるどころか、全然ない。

(ibid. : 169)

服部（2005）は「どころか」の意味・機能をひとつのものと考えているが、P と Q の段階の方向性の違いによって 2 種類の段階配置のタイプを区別する。（181）や（182）のように Q が P より高段階の場合は延伸型であり、（183）や（184）のように Q が ^P より下方に高段階な場合は対極型である。

- （181） かりに百歩ゆずって、いや百歩どころか千歩ゆずって、あの男が生存者とした場合、どうして名乗って出なかったのであろう？

（ibid. : 170）

- （182） 社会党には、しらけるどころか、もう見切りをつけたいぐらいだ。

（id.）

- （183） 商売のじゃまどころか、むしろ助けになる。 （id.）

- （184） 自民党はこれを抑え込むどころか、逆に押しこまれ、ずるずると後退を続けたというのが実態だ。 （id.）

服部（2005 : 168）は、「P どころか」における「P どころ」の空間メタファーが、この「P か否か」という問いかけにおける「P と ^P が分かれるあたりの部分」を指し、「P どころか」は「そこではない（そこから外れた部分である）」を指す、という説明を与えている。この、「そこではない」部分が P（あるいは ^P）から高段階（あるいは下方に高段階）を表しているということである。しかし、Q が P / ^P より高段階であるとする服部の記述では、P と Q は常に一つのスケール上に位置付けられる必要が生じてしまう。だが、「P どころか」が「P か ^P かという範疇から外れた部分」を示すのであれば、この定義からすると、このスケールは必ずしも必要ではない要素に思われる。川端（2014 : 73）による批判もそのことに関連するものである。（185）は服部（2005）の図式では対極型に分類されるものと思われる。彼女が「来ていない」ということは、「帰った」という事態が生じていないことを含んでいるため、Q は ^P より下方に高段階のものとして理解されるということになる。

(185) 彼女が帰ったかだって。帰るところか来ていないよ。

(川端 2014 : 73)

しかし、実際のところ、この例は「彼女は帰ったか」という質問に対してなされる返答であり、P すなわち「帰る」はこの問いかけをただ受けているだけである。つまり (185) は「帰ったかどうか」を問題にすること自体が論外であることを述べる発話であり、Q は[^]P より下方に高段階なものとして表現されているわけではない。川端 (2014 : 77) はこれを解決するために、服部 (2005) のような図式を破棄し、P を「期待」、Q を「反期待」と位置付ける語用論的な説明を試みている。

しかし川端 (2014) のような語用論的な説明に移行せず、服部 (2005) の図式の中でこの問題を解決することも不可能ではないように思われる。スケール上に Q が位置付けられる延伸型と対極型という用法の他に、もうひとつの用法を新たに提案したい。これは、P あるいは[^]P の議論の方向性の領域に Q が位置付けられない用法である。これを論外型と名付けることにしよう。例えば、(186a) (187a) が延伸型、(186b) (187b) が対極型であり、(186c) (187c) が論外型に相当する。論外型の特徴は P か[^]P かという問いが、Q によって判断不可能、あるいは、判断されることの根拠を失うという点にある。(185) では、彼女が P 「帰った」か[^]P 「帰っていない」かという問いに対して、Q 「来ていない」によって返答の根拠となる前提を失い、P という返答も[^]P という返答も不可能となる。同じく、(186c) では、良を取るか否かという判断は試験が無くなるということによって判断不可能になり、(187c) では、野球がうまいかどうかの判断は、その人物が野球を始めるには至らない 2 歳児であるということから、その意味をなくしている。

(186) (ある科目の試験で、何とか良を取りたいものだと思っていたが)

(服部 2005 : 168)

- a. 良[を取る]どころか優を取った。 (id.)
- b. 良[を取る]どころか不可だった。 (id.)
- c. 良[を取る]どころか試験自体が無くなってしまった。

(187) (ある人物について野球がうまいか尋ねられ)

- a. 彼はうまいどころかプロ顔負けだ。 (川端 2014 : 72)
- b. 彼はうまいどころかボールの投げ方さえ知らない。 (id.)
- c. 彼はうまいどころかまだ 2 歳だ。

このように、「どころか」に 3 つの用法を設けることにより、「どころか」が持つ機能が、「 P か否か」 という問題設定の妥当性を否定し、その領域外に Q を位置付けることであるという共通の定義によって各用法を統一的に説明することができる。 Q がスケール上の P と同一方向に位置づけられれば延伸型、スケール上の $\neg P$ と同一方向に位置づけられれば対極型、スケール上に位置付けられなければ論外型である。(187a-c) をモデルに以上のことをまとめると表 7 のようになる。

表 7 「どころか」の 3 用法

「どころか」の 3 用法	例：「(野球が) うまいどころか Q 」
延伸型：($P < Q$)	「うまい」 $<$ 「プロ顔負けである」
対極型：($P \neq \neg P < Q$)	「うまい」 \neq (うまくはない) $<$ 「ボールの投げ方さえ知らない」
論外型：($P/\neg P \rightarrow Q$)	「うまい」か否かは意味をなさない。 \rightarrow 「まだ 2 歳である」

次は、この結論から「それどころか」の機能を分析する。

7.1.2. 「どころか」から「それどころか」へ

「それどころか」とは、「P どころか」の P の位置に「それ」という代名詞が用いられている形態である。「それ」が先行の事柄を照応するため、「それどころか」における実質的な P は先行文脈に位置付けられ、「P それどころか Q」となる。このことは、P の情報的な価値に違いをもたらすと考えられる。

「どころか」において、P が話し手の引き受ける情報かどうかは決まっていない。(188a-b)において、話し手が最終的に引き受けている情報は Q すなわち「寒い」である。これに対して、P の位置には「暑い」も「暑くない」も可能である。もし、P が話し手の引き受ける情報であるならば、「寒い」と思っている話し手は P において「暑い」と言うことはできないはずである。これは、「どころか」が「 $\langle P$ か (否か) \rangle 」という問題設定の妥当性を打消 [す] という服部 (2005) の主張とも一致する。これに対して、「それどころか」の場合は、すでに話し手が引き受けた内容に言及するため、(189a)のように、P の主張と相反する Q を主張することはできず、 $\neg P$ を用いた (189b) のような表現しか許されない。

- (188) a. 暑いどころか寒い。
b. 暑くないどころか寒い。
- (189) a. *暑い。それどころか寒い。
b. 暑くない。それどころか寒い。

そして、実際に「それどころか」は否定文のあとに用いられることがかなり多い。つまり、「それどころか」の前方の否定文において否定されている P (「暑い」) は、 $\neg P$ (「暑くない」) とは別に、論証の動きの中でひとつの主張として存在していると考えられるのである¹²⁷。だとすれば、この $\neg P$ に含まれる P と Q の関係性は、「どころか」における対極型となる。「暑くない」で始まる (189b) は「それどころか」の対極型 (P「暑い」 $\neq \neg P$ 「暑くない」 $\langle Q$ 「寒い」) であり、「どころか」の対極型である (188a) (P「暑い」 $\neq \neg P$ 「暑くない」 $\langle Q$ 「寒い」) に対応

するのである。

もちろん「どころか」の延伸型である(188b) (P「暑くない」<Q「寒い」)を「それどころか」に対応させても(189b)の形になる。その場合、「暑くない」が $\wedge P$ ではなくPとなり、(189b)はQ「寒い」がP「暑くない」より高段階のものと解釈される「それどころか」の延伸型となる。だが、このような形での「それどころか」の延伸型はかなり限られた用例である。ここには情報構造の問題がある。「どころか」におけるPは旧情報である。「どころか」では、(190a)のように、問いに対して「P どころか」のPの位置で返答することは不自然である。問いへの返答は聞き手に対する新情報に他ならないからである。(190b)のように、一度返答を行ってからあらためてそれをPの位置で受け直す必要がある。

(190b)のP「暑くない(どころか)」は、話者によってすでに発話された「暑くない。」を受けているのであり、問いへの返答ではない。「それどころか」の場合、(191a)の「暑くない。」は問いに対する否定の返答($\wedge P$)であり、分類としては対極型に解釈されるものである。「暑くない。それどころか寒い。」が延伸型となりうるのは(191b)のような場合である。この「暑くない。」は、問いで提示された「暑くない」に同意し、そのまま受けているものと考えられる。しかし

(191b)における「暑くないの?」といった問いは通常、「暑い」ことが予想される状況で発せられるものであり、その返答「暑くない。」も現実世界に照らし合わせて「暑い(P)か否($\wedge P$)か」という問いに $\wedge P$ と答えるものである。そのように考えれば、(191b)もやはり「それどころか」が $\wedge P$ を言及する対極型であるという分析が可能である。「それどころか」の延伸型には(192)のような例が考えられる。これは、「どころか」の延伸型(193)に対応するものである。

(190) a. 「暑い?」「?暑くないどころか寒い。」

b. 「暑い?」「暑くない。暑くないどころか寒い。」

(191) a. 「暑い?」「暑くない。それどころか寒い。」

b. 「暑くないの?」「暑くない。それどころか寒い。」

(192) そこは寒かった。それどころか、零下になることさえあった。

(193) そこは寒かった。寒いどころか、零下になることさえあった。

したがって、「どころか」について服部（2005）が主張する延伸型と対極型というふたつの方向性は「それどころか」においては否定の有無という形で統辞論的にも示されることになる。「それどころか」の照応先に否定が含まれていれば対極型、含まれていなければ延伸型なのである。

一方、「それどころか」には論外型はないと考えられる。論外型では P か $\neg P$ についての判断はされないままその意味を失うため、 P も $\neg P$ も話者が引き受けることができない。(194a) では、彼女が帰るという行為が生じていないため「帰った (P)」と言い切ることはできず、(194b) では、「帰ってない ($\neg P$)」と言うことで「まだそこにいる」という解釈を生じさせてしまうため、いずれも話し手が引き受けることができない。(195)、(196) も同様である。

(194) a. ?? 帰ったよ。それどころか来ていないよ。

b. ?? 帰ってないよ。それどころか来ていないよ。

(195) ?? 良を取った／取れなかった。それどころか試験自体が無くなってしまった。

(196) ?? 彼は[野球が]うまい／うまくない。それどころかまだ 2 歳だ。

このことから、「それどころか」には、延伸型と対極型のみが存在することがわかる。また、「それどころか」は、一度話し手が引き受けた P ないし $\neg P$ を撤回、修正するような機能を持っていないこともわかる¹²⁸。 Q を導入した時点においても発話された P あるいは $\neg P$ は返答としての価値を維持しており、論外型の Q とは矛盾することとなる。

ここまで、「どころか」の 3 つの用法と「それどころか」の対応関係を検討してきた。これをまとめると表 8 のようになる。「それどころか」における延伸型と対極型の違いは「それ」の言及先の否定の有無によって統辞論的に区別され、論外型は「それどころか」には存在しえない。延伸型では P が言及され、 P の方向

性に高段階な Q が導入される一方、 $\wedge P$ が言及され、 $\wedge P$ の方向性に高段階な Q が導入されるのが対極型である。

表 8 「どころか」と「それどころか」の対応

	どころか	それどころか
延伸型： $(P < Q)$	P どころか Q	P それどころか Q
対極型： $(P \neq \wedge P < Q)$	P どころか Q	$\wedge P$ それどころか Q
論外型： $(\cancel{P} / \wedge P \rightarrow Q)$	P どころか Q	×

7.2. 「それどころか」と論証の動き

「それどころか」の用いられる環境を観察すると、 P と Q あるいは $\wedge P$ と Q という 2 項にとどまらない、さらに大きな論証の動きが見えてくる。延伸型と対極型のそれぞれにおいて、「それどころか」を取り巻く構造を記述する。

7.2.1. 延伸型： P と Q

P が言及され、 P の方向性に高段階の Q が導入される延伸型では、 P と Q の議論が方向性を共有する。これは、 P と Q の議論に一貫性を見出すことができるということである。(197) では、 P として「当該の本が 5 日で重版になった」ことが言及され、 P より高段階なものとして Q 「海外から翻訳本のオファーが来た」が導入される。この P と Q は、一貫して当該の本に人気があることを述べている。

(197) 抗がん剤のやめどき

病院からの退院どきは現実には難しいもんやなあ、と感じています。
だから、できるだけわかりやすく、絶対に後悔しないがん治療の本を
シコシコと書いたのですが、発売たった 5 日で重版になりました。
それどころか台湾、韓国、中国から早くも翻訳本のオファーが来ました。

(198) では、P として「大人になってから英語を身につけることが十分に可能である」ことが言及され、P より高段階なものとして Q「大人の方が英語の学習に向いているとも言える」が導入される。この P と Q は、一貫して大人でも英語を学習することができるということを述べている。

(198) 大人になってから英語を身につけることは十分に可能です。
それどころか、脳の専門家の立場からは、「大人のほうが英語の学習に向いている」といってもいいでしょう。(『朝日新聞デジタル』 130)

(199) では、P として「日本はタバコの対策が遅れている」ことが言及され、P より高段階なものとして Q「タバコの害悪を否定するような主張がなされている」が導入される。この P と Q は、一貫して日本においてタバコ対策が不十分であることを述べている。

(199) すでに欧米をはじめとする先進国では、たばこの健康に及ぼす悪影響は広く国民に周知されています。そして [...] 喫煙を減らす政策に国を挙げて取り組んでいます。

日本では欧米に比べて対策が遅れていると言わざるを得ませんが、それどころか最近、「たばこは健康に無害である」とか、「たばこと肺がんは関係がない」とかいう話題がインターネットで語られています。

このように、延伸型では、P と Q に議論の一貫性を見出すことができる。一方、次に見るように対極型では、 $\neg P$ と Q に議論の一貫性が見て取れる。

7.2.2. 対極型：P、 \neg P と Q

\neg P が言及され、 \neg P の方向性に高段階の Q が導入される対極型では、Q の前に P と \neg P という主張が存在していることになる。ここで、Q と議論の一貫性があるのは \neg P である。(200) では、 \neg P として「ガラスケースや足元のラインが設置されていない」ことが言及され、 \neg P より下方に高段階なものとして Q「絵と一緒に写真を撮っている人がいる」が導入される。P「ガラスケースや足元のラインが設置されている」が、当該の展示が絵画の保護対策を行っていることを意味する一方、 \neg P と Q は、一貫して当該の展示が絵画の保護対策を行っていないことを述べている。

(200) レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」、ボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」、ピカソの「ゲルニカ」……。[...] どれもガラスケースに入っていないければ、足元に鑑賞を制限するラインもひかれていない。それどころか絵と一緒に写真を撮っている人まで！

(『朝日新聞デジタル』¹³²)

(201) では、 \neg P として「不適切な治療や見落としなどで患者に身体的な被害を負わせなかった」ことが言及され、 \neg P より下方に高段階なものとして Q「周囲の評判が悪くなかった」が導入される。P「不適切な治療や見落としなどで患者に身体的な被害を負わせた」が、当該のニセ医師が周囲を困らせていたことを意味するのに対して、 \neg P と Q は、一貫して当該のニセ医師が周囲を困らせていなかったことを述べている。

(201) 最近珍しくなったニセ医師のニュースがありました。医師免許証の写しを使って医師紹介業者に登録するという手口です。「症状が重い人は、他の医療機関での受診を勧めた」そうで、不適切な治療や見落としなどで身体的な被害に遭われた患者さんは幸いにもいないようです。それど

ころか、「周囲の評判は、悪くなかった」そうです。

(『朝日新聞デジタル』¹³³)

(202) では、 $\wedge P$ として「悪のカケラもない」ことが言及され、 $\wedge P$ より下方に高段階なものとして Q 「あまりに善人である」が導入される。 P 「悪人である」は、当然ながら、当該の役柄が悪人であることを意味する一方、 $\wedge P$ と Q は、一貫して当該の役柄が善人であることを述べている。

(202) 映画好きなら、この顔を見ればピンと来ることだろう。思わず 110 番したくなるようなギラギラした極悪人を一貫して演じてきた。ただ完全な悪には徹しきれず、どこかに人間味が垣間見える。そんな役を十八番にしていた。

しかし、25 日公開の「お盆の弟」で演じた映画監督のタカシには悪のカケラもない。それどころか、あまりの善人ぶりに、観客はイライラしつつも、いつのまにか応援させられている。

(『朝日新聞デジタル』¹³⁴)

このように、対極型では $\wedge P$ ((202):「悪のカケラもない」) と Q ((202):「あまりに善人である」) の議論の方向性に一貫性があり、逆に P ((202):「悪人である」) と Q の議論には一貫性がない。2 番目の主張 ($\wedge P$) は 1 番目の主張 (P) があることで存在し、3 番目の主張 (Q) と議論の一貫性を持つ。このような関係性の 3 つの主張が対極型の構造を成していると言える。そして、一見 P と Q の 2 段階しか存在しないように見える延伸型にも、実は同様の構造を見出すことができる。

7.2.3. 延伸型：P の前段階の主張 O

対極型 ($P \neq \wedge P < Q$) の $\wedge P$ の前段階として P が存在すると考えた場合、延伸型

(P<Q) の P にも前段階の主張が存在するように思われる。これを O とする。「それどころか」の延伸型の中には、前文脈からの予想を裏切るような事態が P で述べられるケースがある。そのような場合、前文脈から予想され、裏切られる事態が O である。(203) の P は「たった 5 日で重版になる」であるが、P に至る前文脈では、当該の本について筆者がシコシコと書いたガン治療の本だという説明がなされており、「たいして売れはしない」というような事態を O として予想させている。同様に (204) では、放送者側について、筆者が指摘を行うという事態が前文脈で説明され、O として謝罪や訂正を行うことが予想される中で、「詭弁が返ってくる」という P が導入されている。さらにそのような例を P が前文脈の想定通りになるように変更すると、「それどころか」の生起が不自然になる。(203) に対して、P「たった 5 日で重版になる」という事態が想定されやすいように文脈を変更した (203') では「それどころか」の生起が不自然になる。同様に、(204) の P「詭弁が返ってくる」を、(204') のように「予想通り」を加えることで、想定内の事態のようにして表すと、「それどころか」が不自然になる。

(203) 抗がん剤のやめどき

病院からの退院どきは現実には難しいもんやなあ、と感じています。
だから、できるだけわかりやすく、絶対に後悔しないがん治療の本を
シコシコと書いたのですが、発売たった 5 日で重版になりました。
それどころか台湾、韓国、中国から早くも翻訳本のオファーが来ました。

[=(197)]

(204) 「平穏死」と真逆の「延命死」なのにそれを「平穏死」として放映されていたので、「それは違いますよ！」とメールで指摘したら、「あれを平穏死とは言っていないはず！」との詭弁が返ってきました。
それどころか、テレビの画面を写真に撮ってブログに貼っていたら、恐ろしい排除命令が届いて、強制的に剥がされてしまいました。

(『朝日新聞デジタル』¹³⁵)

(203') ? 大ベストセラーの続編を出版し、発売たった 5 日で重版になりました。

それどころか台湾、韓国、中国から早くも翻訳本のオファーが来ました。

(204) ? 「平穩死」と真逆の「延命死」なのにそれを「平穩死」として放映されていたので、「それは違いますよ！」とメールで指摘したら、「あれを平穩死とは言っていないはず！」と予想通りの詭弁が返ってきました。それどころか、テレビの画面を写真に撮ってブログに貼っていたら、恐ろしい排除命令が届いて、強制的に剥がされてしまいました。

つまり、延伸型には、「それどころか」が言及する P 以前に、O という想定される事態があり、このふたつの主張が既になされていることが延伸型が成立する条件となっているのである。

上で見た例の他にも、O という主張の想定の上方には、様々なバリエーションがある。(205) では、O があらかじめ明示された上で、そうならないあり方として P が導入される。まず、O として「たとえ話がぴたっとくる」ことが期待値として述べられたのちに、それが満たされないあり方として「たとえ話のピン트가ずれる」ことも述べられ、これが P となっている。P は O に対して期待されない事態である。(206) は P 自体が O を想定させる例である。(206) の P では「大人になってからの英語学習が十分に可能であること」が述べられている。この P には、背景に「大人になってからでは英語を学習するのは不可能である」というような言説が想定されていることが感じられる。P は O に対して反論の関係にある。また (207) のようにふたつの事物が対比されることで O と P が現れる場合もある。(207) では、「欧米をはじめとする先進国」と「日本」の比較が行われ、前者の喫煙対策が「進んでいる」ことが O に、これに対して後者の喫煙対策が「遅れている」ことが P と置かれている。(208) では、「今や」という表現が現在と過去の対比を可能にすることで、O と P が生じている。スポーツと観光の関係について、現在では「切っても切れない間柄であること」が P として述べられているが、この前段階として O には、過去においてスポーツと観光が「近しい関係になかったこと」が想定できる。これらの観察から、文脈上、O に対して P は対比、対立する内容を含んだものである事が特徴である、と言えるだろう。

- (205) 私がそうだったように科学分野を取材する記者たちは、編集者から科学の発見をわかりやすく書くよう求められる。[...]そのときに頼るのが、たとえ話である。ぴたっとくるときもあるが、ときにはピントがずれる。それどころか、科学者から不正確のそしりを受けることもある。

(『朝日新聞デジタル』¹³⁶)

- (206) 大人になってから英語を身につけることは十分に可能です。
それどころか、脳の専門家の立場からは、「大人のほうが英語の学習に向いている」といってもいいでしょう。[=(198)]

- (207) すでに欧米をはじめとする先進国では、たばこの健康に及ぼす悪影響は広く国民に周知されています。そして [...] 喫煙を減らす政策に国を挙げて取り組んでいます。

日本では欧米に比べて対策が遅れていると言わざるを得ませんが、それどころか最近、「たばこは健康に無害である」とか、「たばこと肺がんは関係がない」とかいう話題がインターネットで語られています。

[=(199)]

- (208) 日本でも最近、スポーツと観光を一体化させた「スポーツツーリズム」が注目されるようになった。今や「旅」と「ラン」は切っても切れない間柄だ。それどころか、旅行会社が大会を作ってしまう時代になった。

(『朝日新聞デジタル』¹³⁷)

このように、P, ^P, Q という 3 つの主張で構成される対極型同様、延伸型においても、P の前段階として前文脈等からある事態が想定されることで O, P, Q という 3 つの主張が作られているのである。そして、このように対極型と延伸型双方に 3 つの主張がある中で、「それどころか」は、ふたつ目の主張がなされた後に Q を導入する機能を帯びているのである。

ここでは、延伸型の O が、必須要素として積極的に想定されていることを述べたが、対極型においても、その 1 段階目である P が前文脈から積極的に想定され

る。次は、対極型における P の想定 of され方を中心に「それどころか」における典型的な論証の動きを記述する。

7.2.4. 論証の 3 段階の動き

対極型では $\neg P$ が明示的に P を含んでいるため、「それどころか」が生起する条件としてのふたつの主張は担保されている。ゆえに前文脈から必ずしも想定されないような P であったとしても、対極型の「それどころか」は不自然にならず、P は前文脈から積極的に想定される必要はないように思われる。しかし実際の例を観察すると、ほとんどの場合において話し手が前文脈の中で積極的に P を想定させようとしていることが読み取れる。これを行う論証の流れは前文脈に存在し、一定のパターンを持ったスキーマで記述することができる。

まず具体例を通じて見てみよう。(209) で話題になっているのはある特殊な美術館である。この美術館が展示するのは陶板に転写した複製画であるが、まだそのことは(209)の時点では読者に明かされていない。(209)ではこの美術館(x)についてその展示物が世界的に貴重な絵画であること(y)が述べられることで、P「ガラスケースや足元のラインが設置されている」という推測がなされている(この美術館(x)は、世界的に貴重な絵画を展示している(y)からして、そのような絵画を展示しているような他の美術館(Xy)から推測されるように、ガラスケースや足元のラインを設置している(P)であろう)。この P の否定($\neg P$)の後に Q が導入されることで、その美術館(x)が予想を超えた「世界的にもユニークな美術館(当該記事より)」であることが表現されている。このように P の想定は、ある物事(x: 当該の美術館)にある条件(y: 貴重な物を展示している)が加わることでなされる。x は P と Q に共通するテーマであり、P, $\neg P$, Q のどれが選択されるかによってなされる価値判断の対象である。y は x について P と述べる根拠となる判断材料である。ある物事(x)にある条件(y)が加わることで、一般性を持った同様のケース(Xy: 貴重な物を展示するような他の美術館)との対比が可能となり、これが P として提示されるのである。

(209) レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」、ボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」、ピカソの「ゲルニカ」……。[...] どれもガラスケースに入っていないければ、足元に鑑賞を制限するラインもひかれていない。それどころか絵と一緒に写真を撮っている人まで！ [= (200)]

(210) では、ある映画の役 (x) が話題となっている。その役柄についていつも悪人役を演じている役者が演じていること (y) が述べられることで P「(当該の役が) 悪人である」という推測が正当化されている (この役 (x) は、この役者が演じている (y) からして、この役者が演じた他の役 (Xy) から連想されるように、悪人 (P) であろう)。この P の否定 ($\neg P$) の後に Q が導入されることで、その役柄 (x) が予想を超えたものであることが表現されている。

(210) 映画好きなら、この顔を見ればピンと来ることだろう。思わず 110 番したくなるようなギラギラした極悪人を一貫して演じてきた。ただ完全な悪には徹しきれず、どこかに人間味が垣間見える。そんな役を十八番にしていた。

しかし、25 日公開の「お盆の弟」で演じた映画監督のタカシには悪のカケラもない。それどころか、あまりの善人ぶりに、観客はイライラしつつも、いつのまにか応援させられている。 [= (202)]

(211) では、あるニセ医者 (x) が話題となっている。この例において P「不適切な治療や見落としなどで患者に身体的な被害を負わせた」という推測を正当化する根拠となる (y) は、この当該の人物がニセ医者であるということ自体である。つまり、この当該のニセ医者 (x) は、ニセ医者である (y) からして、いわゆるニセ医者 (Xy) から連想されるように、不適切な治療や見落としなどで患者に身体的な被害を負わせた (P) のであろう、という一連の推論メカニズムが働いている。そして、この P の否定 ($\neg P$) の後に Q が導入されることで、そのニ

セ医者 (x) が予想を超えたものであることが表現されている。

- (211) 最近珍しくなったニセ医師のニュースがありました。医師免許証の写しを使って医師紹介業者に登録するという手口です。「症状が重い人は、他の医療機関での受診を勧めた」そうで、不適切な治療や見落としなどで身体的な被害に遭われた患者さんは幸いにもいないようです。それどころか、「周囲の評判は、悪くなかった」そうです。 [= (201)]

対極型では、 $\wedge P$ が定まった状態で「それどころか」が出現するが、そこに至る前には P を推論するような論証の動きがある。そして、 P を推論する時点から、 Q に至るまで共通のテーマ (x) が立っている。x のあり方を表現する P , $\wedge P$, Q という一連の値の移行の中で、「それどころか」は $\wedge P$ が述べられた後に現れ、 Q を導入するのである。

延伸型にもこれに近い論証の動きを見出すことができる。(212) の x は「たとえ話」である。前文脈では、科学の発見をわかりやすく書こうとする場合にたとえ話に頼る、ということが述べられ、見込まれる値として「(常に) ぴたっとくる」という O が与えられる。その上で、 O を裏切る値として P 「ときにピントがずれる」が述べられ、「それどころか」が 3 段階目の値 Q 「不正確のそしりを受ける」を導入している。

- (212) 私がそうだったように科学分野取材する記者たちは、編集者から科学の発見をわかりやすく書くよう求められる。[...] そのときに頼るのが、たとえ話である。ぴたっとくるときもあるが、ときにはピントがずれる。それどころか、科学者から不正確のそしりを受けることもある。

[= (205)]

つまり、対極型、延伸型を問わず、当該の事物 (x) が想定される値を有していないことが述べられた時点で生起条件であるふたつの主張が提出され、「それどこ

ろか」が導入されるということである。「それどころか」は想定範囲であるか否かというレベルを超えた x のあり方を Q として導入するのである。

ただし、今見たような一般性をめぐる論証の流れは「それどころか」の生起環境を準備しやすいひとつのパターンに過ぎない。7.2.3.節では、対比の文脈が「それどころか」の生起環境となっている延伸型の例 (207) (208) を見た。対極型にも対比の文脈の例がある。(213) では、「ミネソタ州のセントポール市」と「ネブラスカ州のセントポール市」が比較され、その文脈の中で、 x である「ネブラスカ州のセントポール市」が「ミネソタ州のセントポール市」と同じ「州都」という値を持つか否かが検討されることで P と $\neg P$ というふたつの主張が提示され、「それどころか」が Q を導入している。

- (213) 米国のセントポール市といえば、ミネソタ州のセントポール市を思い浮かべるのが普通だと思う。ミネソタ州の州都で、かなり有名だから。[...] さて。ネブラスカ州にもセントポールという名の市がある。こちらは州都ではない。それどころか、人口 2500 人ほどという小さな市。

(『朝日新聞デジタル』¹³⁸)

対比の文脈では、 x に比較対象があることで、比較対象の値が生じ、その値が x に当てはまらないことが述べられると、そこにもうひとつ別の値が生じる。これが「それどころか」の生起環境であるふたつの主張を準備し、「それどころか」が対比という文脈を超えた x 独自のあり方として 3 段階目の値を導入するのである。

ここまで観察してきた「それどころか」の論証の動きは次のようなものであった。まず、対極型の論証の動きには P , $\neg P$, Q という 3 つの値が関わっており、 $\neg P$ から Q への移行において「それどころか」が機能している。多くの例において P では一般性を持ったあり方 (Xy) が表現され、 $\neg P$ はそれを否定する。「それどころか」によって導入される Q は $\neg P$ との一貫性を持ち、 $\neg P$ の方向性に高段階の値となる。そして、延伸型の論証の動きには O , P , Q という 3 つの値が関わっており、 P から Q への移行において「それどころか」が機能している。前文脈等にお

いて O が想定され、P では O を裏切るあり方が表現される。「それどころか」によって導入される Q は P との一貫性を持ち、P の方向性に高段階の値となる。このような観察から、次のような考察をすることができる。まず、延伸型と対極型において、共通した論証の動きが見て取れる。議論の簡略化のために、延伸型の O, P, Q と対極型の P, \neg P, Q を、その順に値 1、値 2、値 3 と名付けるとする。テーマとなる当該の事物 (x) について、あるあり方が値 1 として想定されると、値 2 はそれを裏切るあり方を表現し、値 2 を照応する形で「それどころか」は値 3 を導入する。そのような動きの中で「それどころか」は、「どころか」の機能によって、言及した値 2 (P あるいは \neg P) を「P か否か」という問いのレベルに引き戻し、その問いの妥当性を否定した上で値 3 を導入する。ただし、ここでいうところの妥当性とは、「P か否か」を問題とすることが、当該の事柄 (x) のあり方を十全に表現するものなのか、という意味での妥当性である。2.2 で述べた通り「それどころか」は前言を撤回、修正する機能を持たず、値 2 の事実性は話し手に担保されたままとなる。従って、値 2 は表現としての妥当性のみを失い、その妥当性を持つものとして値 3 が導入されるのである。「それどころか」は、x を表現する値 1 と値 2 が与えられ、値 2 が選択された状態から、値 2 が物足りないことを示唆し、さらに優れて x のあり方を表現する値 3 を導入しているのである。

7.3. 「それどころか」まとめ — フランス語との比較 —

「どころか」の前方照応型の形態である「それどころか」について、対極型、延伸型というふたつの用法があることを明らかにし、その三段階の論証の動きを記述した。このような表現である「それどころか」が *au contraire* や *loin de là* との近接性を持つのはなぜだろうか。この 3 表現が近接性を持つ場合を図に表すと図 9 のようになる。

AC（非対称的構図）, LDL；それどころか（対極型）

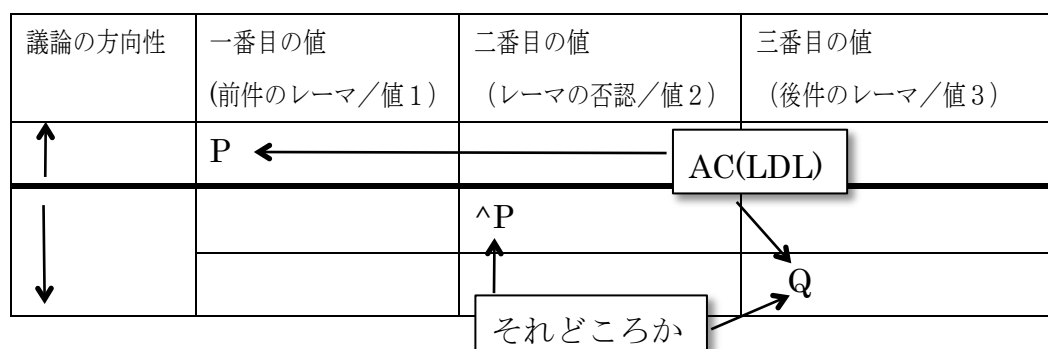


図 9：論証の動きの近接性

「それどころか」における値 1 は *au contraire* や *loin de là* が生起する非対称的構図の前件のレーマに対応する。前件のレーマは否認の対象であり、否認はあくまで話者がこれを引き受けないことを示す行為である。*au contraire* や *loin de là* の主張は前件のレーマに対して行われる。「それどころか」の値 2 は *au contraire* や *loin de là* において前件のレーマが否認された結果生じる議論に対応するが、*au contraire* や *loin de là* におけるこの議論は否認を行う必然性から結果的に生じるものであり、項として独立した価値を持っているわけではない。「それどころか」あるいは *au contraire*、*loin de là* が生起するにあたって、「それどころか」ではその値 2 が二番目の値として成立していることが重要である一方、*au contraire* や *loin de là* ではあくまで一番目の値であるところの前件のレーマが提示されていることが重要なのである。そして、その中で *au contraire* や *loin de là* と生起環境が共有されるのは「それどころか」が対極型の場合である。つまり、値 1 が否定されることによって値 2 が生じ、これが「それどころか」の生起条件を整えている場合ということになる。この場合、値 1 と値 2 の違いは値 1 が表す事態の有無である。そして、この値 1 の事実性を問題にする環境が *au contraire* や *loin de là* の非対称的構図と重なるのである。ここで、*au contraire* や *loin de là* は一番目の値である前件のレーマを照応し、それと矛盾する方向性に話者の主張を打ち出す一方、「それどころか」は値 2 を照応し、値 2 では十全に表現しき

れないあり方を表現するものとして値 3 を導入するが、これが結果として同じような論証の動きを生み出すのである。

それでは、用法の異なる部分はどうだろうか。既に述べたように *loin de là* は位置表現の用法を別とすれば、後件を導入しない点がこのふたつとの根本的な違いになっている。問題となるのは「それどころか」の延伸型と *au contraire* の対称的構図の場合、つまり、前件が否定や否認によって形成されていない用法の場合である。これを図に表すと図 10 のようになる。

それどころか（延伸型）

議論の方向性	値 1	値 2	値 3
↑			Q
		P	
↓	O		

それどころか

AC（対称的構図）

議論の方向性	前件	後件
↑	P	
↓		Q

AC

図 10：近接性のない用法

このふたつの用法の違いは前件に対してそれぞれの表現が導入する後件の議論の方向性である。「それどころか」の延伸型では前件に対して後件がある種の言いつのりの関係となる。つまり、値 2 の議論の方向性をさらに進めたところに値 3 が導入されるのである。この点において「それどころか」の延伸型も対極型も変わりはない。一方、*au contraire* の対称的構図では後件のレーマは前件のレーマの反対に位置づけられる。言いつのりとは逆の方向性である。値 2 から値 3 を導入

する「それどころか」と前件のレーマに対して後件のレーマを導入する *au contraire* の働きは質的には異なっている。この異なる機能を持ったふたつの表現が、前件が否定あるいは否認を用いて設定された場合において、同じような環境で同じような意図を持って用いられるのである。同じような反駁的なコンテキストにおいて日本語とフランス語で用いられる道具は、その図式という意味においても異なっている。しかし、ある表現がある共通の図式を持って用いられ、その環境の違いによって様々な用法を持つという点においては日本語とフランス語も変わらない。これは、今後連結辞という観点で日本語とフランス語を比較していくにあたって重要なことである。また、興味深い点は、*au contraire* や *loin de là* がその中に *contraire* や *loin* など対立を想起しやすい語彙を含んでいる一方、「それどころか」が明示的に対立を提示する語彙を含んでいない点である。対立を提示する語彙を含んだ日本語の表現としては「反対に」、「逆に」と言った表現が浮かぶが、これらはフランス語の非対称的構図のような視点の対立には用いられない。加えて「それどころか」は図式的には対立というよりむしろ言いつのり（ある議論から、その方向性をさらに進めた議論を導入する機能）を提示しており、その特徴はフランス語の *même* に近いものを思わせる。しかし、*même* は *au contraire* のように反駁の意図を持って用いられることも、「それどころか」のように意外性をマークすることも少ない。これはむしろ、両言語間における対立と言いつのりの領分の違いという捉え方をすべきかもしれない。フランス語において反駁というコンテキストは対立の領分である一方、日本語では言いつのりの領分なのである。ここではそのような分析の可能性を提示するとともに、今後の研究に向けては概念としての対立と言いつのりの近接性を指摘しておきたい。

おわりに

本論文では、ここまで、連結辞によって提示される対立という概念がどのような環境で現れるのかを典型的に明らかにすること、また、その類型化された環境のどのタイプに生起するかによって各連結辞それぞれの違いを浮き彫りにし、意味論的分析に繋げることを目指し、対立の連結辞の記述・分析を行ってきた。第1章では、*au contraire* を扱った主要な先行研究を概観し、それらの研究では未整理、不十分であった用法の分類が構図の対称性という基準を用いることによって体系化できるようになることを示した。第2章では、対立の連結辞の生起環境の意味構造を、視点、テーマ、レーマという3種のパラメータによって図式化することが可能なことを示した。また、そのようにして類型化した意味構造が連結辞の生起可能性に関わっていることを示し、*au contraire* はレーマに、*en revanche* はテーマに、*loin de là* は視点にそれぞれフォーカスする連結辞であるという仮説を立てた。第3章では、第2章において類型化した3種類の意味構造を持った環境全てにおいて生起する *au contraire* に関して、さらに細かい用法の区別を問題にし、それを体系的に説明するための概念を導入した。第4章では、対称的構図に生起する連結辞として、*par contre* と *en revanche* の比較、さらに *à l'inverse* と *à l'opposé* についての検討も行った。*par contre* と *en revanche* の違いを見いだすことは「社会言語学的な理由」からの困難さがあることが明らかになった一方、このふたつの連結辞の共通点として、その生起環境が二重変値という概念を用いて説明できることを示した。*à l'inverse* と *à l'opposé* に関しては、それが基本的に対称的図式の環境に生起する連結辞であることを確認した上で、それ以外の用法に関してそれぞれに特徴があることを明らかにした。第5章では、非対称的構図に生起する連結辞として、*au contraire* と *loin de là* を再度取り上げた。まず、非対称的構図に生起した *au contraire* の用例分析からその特徴的な論証の動き、視点のあり方を記述した。そして、*loin de là* に関しては、*au contraire* との違いを問題にした上で、*loin de là* が連結辞としての機能を持っていると言えるのかも含め、その意味論的機能について議論した。第6章では、対話

において特徴的な対立概念の用いられ方として、*au contraire* の対話的な用法を分析した。そして、最後の第7章では、フランス語と日本語という別言語において連結辞の比較が可能かどうかというテーマのもとに、日本語の連結辞「それどころか」の分析を行った。*au contraire* や *loin de là* といった非対称的構図に生起する連結辞との近接性があると思われるこの表現が実は対立というより言いつのに近い概念をマークしていることが明らかになったが、しかしながらその生起環境のあり方や論証の動きという共通の観点をういた別々の言語での連結辞の比較研究の可能性を示した。

本研究で明らかになったこと、それは対立の連結辞の研究においてその生起環境の分類からのアプローチが有効だということである。ある連結辞の本質的な意味論的機能を明らかにしようとする場合、まずその方法論としてその連結辞の語彙的組成からの意味論的な推論が行われる。この後一般的によく行われるのは、ターゲットとなる表現が持ちうる複数の意味(という意味での「用法」)を見出し、推論された意味論的な機能でそれら全ての用法が説明できることを示すというやり方である。ここで肝心なのは、このやり方で意味論的機能を明らかにするにあたってふたつの材料が用いられているということである。ひとつはその表現の語彙的組成、もうひとつはその用法である。このような方法論は、複数の用法を持つある表現を単独で分析する際に最も有効である。しかし、本研究のような問題の立て方をした場合、この方法論を取ることはあまり有効とはいえない。なぜなら、本研究で問題にしたのは対立の連結辞それぞれの違いだからである。ここで比較されている連結辞群の共通点は、用法が「対立」であることであり、上記の方法論を取った場合、その思考の材料の一方がすべての場合に共通して「対立」になってしまう。この方法論によって可能となることは、それぞれの表現がその語彙的組成からいかなる意味論的機能を生じさせ、同じ用法を持つに至ったかの類推であるが、この方法では、本研究の対象であるそれぞれの表現の違いを明らかにすることは出来ないのである。本研究では、このような場合、つまり、対象となる複数の表現がその用法では区別できない場合、あるいはその用法間の差異が微細すぎて用法間の区別がつかない場合において、連結辞の生起環境自体が用

法の代わりとなって連結辞を差異化することが可能である一例を示した。同じ対立という用法の中においても、連結辞の生起環境は視点・テーマ・レーマという一般的なパラメータを用いて分類可能なものであり、その分布によって対立の連結辞ひとつひとつを差異化することのできる有効な観点となるのである。本研究では、対立の連結辞が生起しうる生起環境をいくつかの種類に分けてその考察を行なった。このような分類が可能となったのは対立という概念自体のメタ概念的な構造に着目したからである。対立の連結辞の生起環境、というのは対立という概念が対象にしうる言表のあり方、と言い換えてもいいはずなのである。直接、当該表現の用法の違いや意味論的な推論に取り掛かるのではなく、問題となる概念のあり方から考察する。もちろん、この手法が万能という訳ではなく、第2章で見たとおり、生起環境の分布が直ちにその連結辞の意味論的分析に結びつく訳ではない。しかし、とりわけ連結辞のような、半ば論理的なアプローチから迫られがちな研究対象に新たな手法を見出すことにはなったのではないだろうか。反対と言うから反対と解釈するのであって、前件、後件が固有に反対であるが故に反対と言うわけではないのである。

注

- ¹ 以下、引用元が明示されていない例文和訳は田代によるもの。
- ² 以下例文におけるフランス語の対立表現は和訳においても「それどころか」「反対に」等の表現を用いてなんらかの形で訳出するが、あくまでそれは当該対立表現の生起位置と要素の対立関係をわかりやすくすることを目指したものであり、その和訳を用いていかなる証明を行おうとするものでも、また日本語として自然な文を作ることを目指したものでもないことをあらかじめ断っておきたい。
- ³ 『フランス語学小事典』が「二つの部分」としているのは、連結辞が必ずしも発話同士を連結するとは限らないからである。例えば *C'est un homme désintéressé, donc honnête.* といったような例を考えた場合、連結辞 *donc* が連結しているのは形容詞 *désintéressé* と形容詞 *honnête* であり、発話同士を連結しているわけではない。しかし、当該の例でこのような連結が可能なのは、*désintéressé* と *honnête* が同一の職能を共有しているからである。発話の定義にもよるが、*C'est un homme désintéressé, donc c'est un homme honnête.* の重複部分である *c'est un homme* が後件で省略されていると考えれば、この *donc* はやはり二つの発話を連結していると考えて良いだろう。発話より小さな単位での連結に関しては、連結される二つの要素が同一の職能を共有しなくてはならないため、類似の発想で発話の連結に還元できる。また、段落単位など発話より大きな連結もまた問題となるが、この場合、連結される要素は連結辞の有無にかかわらず単体で成立するはずであり、本論の主張と齟齬はきたさない。
- ⁴ この[^]P は否定辞等で提示されるような文字通りの否定文を意図して用いられている。そのため、特に対話の文脈において、前件であるところの相手の発話が否定文である場合や、許可を求めるある種の発話である場合に矛盾をきたすことを Danjou-Flaux (1983) は問題にしている。しかし、形式上の否定文ではなく、話者によって命題そのものが否認されるかどうかの問題になっていると考えれば、この点はたいして問題にならないように思われる。
- ⁵ (22) の否定を記述的と判断できるか否かについては 2.1.1.節で改めて議論する。
- ⁶ Danjou-Flaux (1980 : 133) における用法分類にも対立とされる用法があり、その時点では、*au contraire* が前件と後件の対立をマークする用法とされている。
- ⁷ Danjou-Flaux (1983 : 292) は置換の談話構造と対立の談話構造に数多くの中間例があるとしている。
- ⁸ そのような意味では、(27) は対称的構図と非対称的構図の中間に位置していると言える。(27) は、問題の行為について、「人は P であると考えるが、私は Q であると考える」というように話者が自分の意見を相対的に述べていると捉えるか、「P ではなく、Q である」と絶対的に述べていると捉えるかによって分析が変わる。前者ならば対称的構図、後者ならば非対称的構図である。これがさらにはっきり非対称的構図に寄ると、置換と対立の中間例として扱われるのかもしれない。
- ⁹ ポリフォニー理論と対立との関係や他の論証系理論については渡邊 (2015) が詳しい。
- ¹⁰ 通常、*il est faux que* の後ろでは接続法が用いられる。ここでは、接続詞節内の方の違いが構造に変化をもたらさないため、Rossari (2000) の例を修正せずに用いる。
- ¹¹ ただし、このことは対称的構図の用法であれば *par contre* が必ず *au contraire* に置き換

わることを意味するわけではない。その一例は 4.1.節を参照。

¹² *au contraire* に付随して *tout au contraire*、*bien au contraire* という形態が辞書に掲載されているが、これらの形態はもっぱら *au contraire* が非対称的構図に生起した時に見られるものである。また、本論文で扱った中では他に *loin de là* が *bien* と共起する *bien loin de là* も見受けられたが、第 2 章で述べるとおり *loin de là* は非対称的構図に生起する表現である。逆に他の対称的構図に生起する連結辞群にこのような形態は見られない（ただし、*à l'inverse* に関しては興味深い *bien* との共起例が見られた。これについて詳しくは 4.2.2.2. 節を参照頂きたい）。このように、構図の対称性という概念は、連結辞そのものの生起だけでなく、*bien* や *tout* などの他の表現との共起にも関わっている。

¹³ そして、(42) を *par contre* で置き換えることもできない。

¹⁴ ここでは、これらの表現を連結辞として分析するが、*loin de là* を連結辞とする妥当性については 5.2.2.節において改めて検討する。

¹⁵ 置き換え試験において位置的な調整を行った上で可能になるものに関しては、置き換え可能な例として扱うこととする。

¹⁶ Ducrot (1984 : 217) では、*Il n'y a pas un nuage au ciel*. 「空には雲が一つもない」という否定文が記述的否定である場合、*Le ciel est absolument pur*. 「空は澄み渡っている」という肯定文に言い換えることが可能であり、また *Il[Pierre] n'est pas intelligent*. 「ピエールは賢くない」という否定文が記述的否定である場合、*Pierre est un imbécile*. 「ピエールは愚鈍である」と言い換えることが可能であるという例が挙げられている。

¹⁷ 「肯定文で表現することができる」の部分は、正確には「仕事をするという概念を直接的に導入しない肯定文で表現することができる」である。例えば、「仕事をしたくない」という表現が「仕事を休みたい」という表現に置き換えられることを考えた場合、その置き換えが可能なのは「仕事を休みたい」という表現が「仕事をしなくてはならない」という視点を談話中に導入しつつ否認しているからであって、「仕事をしたくない」という文における否定が記述的否定だからということにはならない。

¹⁸ ここでは *au contraire* を挟んだ前件と後件の間に他者性を孕んだ発話がなく、論証の動きが存在しない。ポリフォニー理論的には、これは全体でひとかたまりの伝達内容であり、これを話者が引き受ける形で断言するだけの発話と分析されるだろう。

¹⁹ この概念は Foolen (1991) が次のように定義した対比の概念を Rossari (2000) が応用したものである：« Two comparable states of affairs are typically contrasted by taking two topics and predicating them to differ in some respect. (...) The construction of the contrast may take place on the pragmatic level, with the help of world knowledge (*John lives in Amsterdam, but Peter lives in Rotterdam*). (Foolen, 1991 : 85, cité par Rossari, 2000 : 133) »

²⁰ 意味構造の図式を表す際には各要素を以下のように表示する：テ＝テーマ、レ＝レーマ、視(話)＝話者視点、視(他)＝他者視点。

²¹ 以下、置き換えの可否を各連結辞の略語（AC = *au contraire*, LDL = *loin de là*, ER = *en revanche*）と○（可）、×（不可）で提示していく。また、置き換えに当たって位置的な調整が必要な場合に限り、注でその位置を示す。（54）の *au contraire* は（54'）の位置で *loin de là* に置き換えることが可能である：（54'）... *à prouver, loin de là. Il a presque tout gagné* : ...

²² web ページより引用。アドレスと閲覧日を提示する。以下同様。

<<http://www.camfoot.com/actualites/eto-o-merite-t-il-un-dernier-baroud-d-honneur,23909.html>> 5/5/2016

²³ (55) の *loin de là* は (55') の位置で *au contraire* に置き換えることが可能である : (55') ... des choses illégales. Au contraire, un hacker, c'est quelqu'un qui ...

²⁴ web ページより引用。

<<http://defimedia.info/techno-les-hackers-mauriciens-ne-sont-pas-des-pirates-27618/>> 4/5/2016

²⁵ web ページより引用。

<<http://www.rfi.fr/moyen-orient/20160507-israeliens-frontiere-gaza-craignent-nouvelle-guerre>> 7/5/2016

²⁶ web ページより引用。

<<http://www.marianne.net/ce-que-cache-boycott-israel-100242714.html>> 7/5/2016

²⁷ 2 枠同視点型の *au contraire* の生起条件について Rossari (2000) は前件と後件の相補性をあげている。つまり、前後のレーマが同時に真とならず、片一方は必ず真となる関係性に解釈可能であることが *au contraire* の成立条件ということである。これは、*au contraire* が前後のレーマを一本の対立軸の両端に配した結果、その中間が考慮されなくなることによって生じる関係性だと考えることができる。

²⁸ 生起環境によって、*au contraire* の意味論的制約のかかり方には変化が生じる。対称的構図においては既に用意されたふたつのレーマの間に *au contraire* が対立を持ち込む一方、非対称的構図においては前件のレーマから *au contraire* の対立軸の先に後件のレーマが作られるからである。

²⁹ 「言いつのり」は *renchérissement* の訳。Flaux (2003 : 299)、Masseron et Wiederspiel (2003 : 337) も同様の指摘をしているほか、「言いつのり」に関する他の事例研究については Watanabe (2006) が *non seulement* について行なっている。

³⁰ これは連結辞研究や論証理論等とは関係のない冠詞について議論の中での言説であるが、対比の構造について一般的に述べられたものである。

³¹ この例文の出典である« *Le chat et le chien* »は次のように始まる : « *Le chat et le chien sont les plus domestiques de tous les animaux* (p.53) »

³² 本論におけるテーマとレーマは差異ありきで用いている概念であり、本来は差異と直接関係しない構造において用いるにはふさわしくないが、議論の煩雑さを避けるためにここではこのまま、議論の対象とその叙述といった意味で用いる。

³³ web ページより引用。

<http://www.gentside.com/loto/resultat-tirage-loto-les-numeros-du-samedi-13-avril-2013-sont_art49845.html> 13/04/2013

³⁴ web ページより引用。

<<http://tempsreel.nouvelobs.com/politique/20150828.OBS4892/jean-vincent-place-le-genant-vert.html>> 30/08/2015

³⁵ この構造において、話者視点はテーマとレーマの結びつきを保証していない。X を P であるとも Q であるとも判断していないのである。この点において 2 判断者タイプは (50) のようにテーマが時間的な区分によって分割されるタイプ、あるいは 4.1.3 節の「レーマの両立可能性」によってテーマを分割するタイプとは質的に大きく異なっていると言える。ただし、この構造における話者視点が判断者として機能していないということ

ではない。ここで話者視点が判断者として行っていることは、判断者 I、J をそれぞれ「X を P と判断していること」と「X を Q と判断していること」に結びつけることである。つまり、話者視点は、X を P あるいは Q であると判断しているわけではないが、判断者 I、J がそのような判断をしているとする点において責任を負っているのである。

³⁶ web ページより引用。

<http://www.lepopulaire.fr/france-monde/actualites/societe/people/2014/11/10/brigitte-bardot-de-mande-au-nepal-d-interdire-un-sacrifice-massif-d-animaux_11214439.html> 11/11/14

³⁷ 後項は引用が挿入されているためレーマの対応関係がわかりにくいだが、同記事はこの元女優が「ネパール大統領に大量の動物供犠を禁止するよう要請（タイトルより）」したことを伝える記事であることを考慮し、このように考えた。

³⁸ 例文中の記号 AC、PC、ER はそれぞれ *au contraire*、*par contre*、*en revanche* を意味する。

³⁹ ここでは *au contraire* は 1 枠同視点型の生起環境に生起したと考える。ただし、*au contraire* は「テーマ間の対立」の意味構造においても生起できるため、(76a) に関しては、「天気の悪い場合」と「天気の良い場合」をテーマにとって、映画に行くか、散歩に行くかをレーマに取ることも可能である。どちらの解釈を取ろうとも、*au contraire* の生起が可能という点に変化はない。

⁴⁰ 観察対象は 2017 年の 6 月中旬から 8 月中旬にかけて掲載されたインターネット記事から当該連結辞の生起を無作為に抽出したものである。記事 URL は末尾にまとめて記載する。

⁴¹ なお、カウントするにあたってはポジティブさ、あるいはネガティブさをかなり積極的に拾って行った。それは、ほとんどの例において、ポジティブさ、ネガティブさが記事自体から明確に提示されているようには感じられなかったということでもある。

⁴² web ページより引用。

<<http://www.rtl.fr/actu/societe-faits-divers/meteo-france-place-14-departements-en-vigilance-orange-aux-orages-7789551538>> 01/11/17：参考資料 URL リスト内 *en revanche* 20

⁴³ web ページより引用。

<<http://www.moniteurautomobile.be/actu-auto/sport-auto/alfa-romeo-maserati-formule-e.html>> 01/11/17：参考資料 URL リスト内 *par contre* 36

⁴⁴ web ページより引用。

<<http://www.rts.ch/info/regions/valais/8807878-la-passerelle-suspendue-la-plus-longue-du-monde-inauguree-en-valais.html>> 01/11/17：参考資料 URL リスト内 *en revanche* 14

⁴⁵ web ページより引用。

<<http://www.laprovince.be/1896768/article/2017-07-29/dour-une-remise-et-un-box-de-garage-de-truits-par-le-feu>> 01/11/17：参考資料 URL リスト内 *par contre* 18

⁴⁶ web ページより引用。

<<http://www.bfmtv.com/international/mousson-en-inde-21-personnes-mortes-foudroyees-1227825.html>> 01/11/17：参考資料 URL リスト内 *en revanche* 22

⁴⁷ web ページより引用。

<<http://www.rtl.be/people/buzz/un-forme-bizarre-observee-par-des-automobilistes-la-chose-la-plus-bizarre-que-j-ai-jamais-vue-video--938547.aspx>> 01/11/17：参考資料 URL リスト内 *par*

⁴⁸ Combettes (2003) の通時的研究によると、連辞としては 17 世紀前半から使用が見られる *en revanche* は、*en retour*、*en échange* 「その代わり・お返しとして」と等価値の副詞的な表現として用いられ始め (p.278)、文単位の連結に機能が移行してからは、早い時期からポジティブ／ネガティブかネガティブ／ポジティブかは自由であったようである (p.280)。ちなみに、この最初期に当たる 17 世紀前半には、名詞 *revanche* は現在の語義の他に、「お返し(恩返し)・償い」*« action de rendre la pareille pour un bien qu'on a reçu (TLFi) »* という語義を有しており、現在も成句 *à charge de revanche* 「同じようにしてもらうという条件で」にその意味を残している。*en revanche* も後者の語義から成立している可能性が高く、Combettes (2003) の例に見るように、この場合 *en revanche* が問題とする関係性はポジティブ／ポジティブとなる: *Je joignis à cela plusieurs beaux éventails ; en revanche, elles me donnèrent des gants et des bas de fils d'une finesse admirable. (M^{me} d'Aulnoy, 1691, cité par Combettes, 2003 : 279)* このように、通時的に見ても、*en revanche* が表す項の関係性がポジティブ／ネガティブかネガティブ／ポジティブなのかはどちらも言い難いのである。

⁴⁹ web ページより引用。

<<http://www.sudouest.fr/2017/08/10/erosion-du-littoral-les-solutions-preconisees-3683874-4160.php>> 01/11/17: 参考資料 URL リスト内 *en revanche* 38

⁵⁰ web ページより引用。

<<http://information.tv5monde.com/info/conquete-spatiale-la-chine-nouvel-acteur-incontournable-184844>> 01/11/17: 参考資料 URL リスト内 *par contre* 25

⁵¹ なお、(80) は、この例の *en revanche* を Hamma et Haillet (2002) が *par contre* に置き換えたものである。

⁵² <https://www.projet-voltaire.fr/origines/par-contre-en-revanche/>

⁵³ *par contre* を用いた作家として、スタンダール、モンテルラン、アナトール・フランス、アンリ・ド・レニエ、アンドレ・ジッド、マルセル・ブルースト、ジャン・ジロドゥ、ジョルジュ・デュアメル、ジョルジュ・ベルナノス、ポール・モラン、アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリの名前が挙げられている。

⁵⁴ もちろん、この表は、副次的に出てきたものであり、必ずしも数字として信頼に足るものではない。(当然、フランス以外の国々で話されているフランス語が均質であるということでもない。)しかし、このようにはっきりとした違いが出たということは、国によって *par contre* と *en revanche* の選択傾向にある程度の違いがあるということまでは言えるのではないか。

⁵⁵ 収集した記事 76 本の中で、同一記事内に *par contre* と *en revanche* が共に使われている記事は 2 本のみである一方、同じ連結辞が複数回用いられている記事は *par contre* で 7 本、*en revanche* で 10 本であった。これは、*par contre* あるいは *en revanche* が複数回用いられる場面において、同語反復の回避が図られることなく、もっぱら片方のみ用いられる傾向にあることを示している。このような用いられ方の原因には、規範的な影響からくる文体的な価値付けの違いがあると考えられる。

⁵⁶ Rossari (2000) の用いている用語では、レーマではなく属性 (*propriété*) だが、そもそも二重変値における「レーマ」は Rossari (2000) の「属性」を意味構造レベルに読み替えたものであるため、ここでは同じものとして考える。また、レーマの対立の有無に関して、Rossari (2000) は *propriétés intrinsèquement opposables* と述べており、語彙に内在する

ような対立やそれに類する比較的直感的な対立が認められるか否かが問題となっているように思われるが、基準としてはやや不明瞭なところがある。

57 一見、「レーマの両立可能性」というとリュックが飲酒をやめたいことと喫煙をやめたいこととは両立可能であるように思われるかもしれない。しかし、重要なのはこのふたつのレーマが対立の連結辞によって差異を有するレーマとして提示されている点である。（同一の視点から与えられた）差異を有するレーマは分割されない同一のテーマに対して「成立」しないのである。なお、この例に関して、「リュックの飲酒」と「リュックの喫煙」というように分割されたテーマを想定することもできるが、今度はレーマが前後共に「やめたい」となってしまい、「対立が問題となっている」という大前提に矛盾してしまう。

58 web ページより引用。

<<http://www.pourquoidoctor.fr/Articles/Question-d-actu/17784-Alimentation-les-repercutions-du-gout-sur-la-sante>> 12/10/2016

59 web ページより引用。

<<http://www.lci.fr/societe/infidele-contradictoire-surdouee-comment-la-generation-y-donne-du-fi-l-a-retordre-aux-entreprises-2005270.html>> 12/10/2016

60 web ページより引用。

<<http://www.lematin.ch/people/kilos-valent-millions/story/22831704>> 12/10/2016

61 web ページより引用。

<<http://fr.africanews.com/2016/09/22/a-la-tribune-de-l-onu-rober-mugabe-plade-pour-la-levee-de-s-sanctions-contre-le/>> 12/10/2016

62 web ページより引用。

<<http://www.bibamagazine.fr/mode/conseils-mode/pyjama-du-lit-a-la-rue-en-passant-par-les-podiums-59960#offset0>> 12/10/2016

63 web ページより引用。

<<http://news.sportauto.fr/news/1509274/Audi-RS3-Berline-sportives-R8-électrique>> 12/10/2016

64 なお、以下の例における à l'opposé の強調はそれが連結辞であることを意味するものではない。

65 web ページより引用。

<<http://www.hockeyhebdo.com/article-ligue-magnus---9eme-journee---chamonix---morzine-vs-g-renoble,8927.html>> 12/10/2016

66 web ページより引用。

<<http://www.sports.fr/football/amateurs/articles/cfa2-bedenik-raconte-son-incroyable-arret-1617457/>> 12/10/2016

67 web ページより引用。

<<http://www.lesechos.fr/industrie-services/immobilier-btp/0211366164244-a-la-diete-loperateur-telecoms-sfr-serait-sur-le-point-de-demenager-2033112.php>> 12/10/2016

68 web ページより引用。

<<http://fr.motorsport.com/wrc/news/es6-scratch-pour-ogier-et-mikkelsen-fini-pour-meeke-831959/>> 12/10/2016

69 web ページより引用。

<<http://www.ladepeche.fr/article/2016/10/03/2431483-gaillac-fait-mieux-que-rivaliser.html>> 12/10/2016

⁷⁰ この例において à l'opposé は家賃の一番安い場所を意味していると考えられるが、登場する地名をパリ周辺の地図に投影すると空間的な解釈も全く不可能というわけではない。

⁷¹ web ページより引用。

<http://www.leparticulier.fr/jcms/p1_1615928/immobilier-les-demandes-d-achat-de-bureaux-son-t-en-hausse> 12/10/2016

⁷² web ページより引用。

<http://www.lemonde.fr/sante/article/2016/09/09/plus-de-quatre-francais-sur-dix-estiment-que-le-s-vaccins-ne-sont-pas-surs_4994856_1651302.html> 12/10/2016

⁷³ web ページより引用。

<<http://www.ladepeche.fr/article/2016/10/08/2434858-deux-matches-mercredi.html>> 12/10/2016

⁷⁴ web ページより引用。

<<http://www.lessentiel.lu/fr/news/story/Trump-balance-sur-la-sextape-de-Miss-Piggy--23924958>> 12/10/2016

⁷⁵ web ページより引用。

<<http://www.ladepeche.fr/article/2016/09/16/2420862-pourquoi-prendre-digestif-fin-repas-fait-di-gerer-contraire.html>> 12/10/2016

⁷⁶ web ページより引用。

<<http://www.journaldunet.com/solutions/expert/62089/un-budget-pour-accelerer-vos-sites-web.s.html>> 12/10/2016

⁷⁷ コンバージョン率とは、ホームページ閲覧者全体に対してどれだけの人数が商品購入等の最終目的に至ったのかを示す割合のことである。

⁷⁸ web ページより引用。

<<https://www.ajib.fr/2016/07/les-bienfaits-du-siwak/>> 12/10/2016

⁷⁹ 例文内、角括弧の加筆は筆者によるもの。置き換え可否の判断自体は Danjou-Flaux (1983) によるもの。

⁸⁰ 翻っては目下これが à l'opposé や à l'inverse と同じように対称的構図に生起する par contre や en revanche との用法的な違いであるとも言えるかもしれない。par contre や en revanche に位置関係を表す用法や非対称的構図における生起例は見られないからである。ここから、各連結辞が対称的構図に生起した場合における連結辞としての意味論的な違いを見いだすことができる可能性はあるだろう。

⁸¹ web ページより引用。

<<http://www.20minutes.fr/ledirect/1052426/palestine-nouveau-statut-changera-rien-terrain-affirme-netanyahu>> 29/11/2012

⁸² web ページより引用。

<<http://www.lefigaro.fr/flash-eco/2012/08/22/97002-20120822FILWWW00424-strasbourg-greve-air-france-vendredi.php>> 22/08/2012

⁸³ web ページより引用。

<<http://tempsreel.nouvelobs.com/l-histoire-du-soir/20130108.OBS4813/pourquoi-vos-doigts-se-f>

ripen-ils-dans-l-eau.html> 8/1/2013

⁸⁴ web ページより引用。

<<http://tempsreel.nouvelobs.com/monde/20121104.FAP3272/sandy-n-a-pas-nui-au-box-office-americain.html>> 05/11/2012

⁸⁵ web ページより引用。

<http://www.lemonde.fr/idees/article/2013/02/20/les-islamistes-tunisiens-face-a-leur-pouvoir_1835283_3232.html> 20/02/2013

⁸⁶ web ページより引用。

<<http://tempsreel.nouvelobs.com/monde/20121122.OBS0273/gaza-ismael-haniyeh-salue-la-nouvelle-intifada.html>> 23/11/2012

⁸⁷ web ページより引用。

<<http://www.aufeminin.com/societe/tabac-non-arreter-de-fumer-ne-rend-pas-plus-anxieux-au-contraindre-s9356.html>> 18/01/2013

⁸⁸ web ページより引用。

<<http://www.lefigaro.fr/flash-sport/2012/09/04/97003-20120904FILSPO00270-garcia-un-vrai-rappel-a-l-ordre.php>> 04/09/2012

⁸⁹ web ページより引用。

<<http://www.lindependant.fr/2014/02/23/les-proches-de-youssef-de-plus-en-plus-inquiets,1851263.php>> 23/02/2014

⁹⁰ web ページより引用。

<<http://www.lesclesjunior.com/Actualites/Actus.htm?sku=ACT11631582731196908&vtRub=Monde&varDate=11/11/2006>> 11/11/2006

⁹¹ web ページより引用。

<<http://www.lefigaro.fr/societes/2014/07/18/20005-20140718ARTFIG00094-les-nouveaux-avocats-cherchent-a-bousculer-le-milieu-du-droit.php>> 18/07/2014

⁹² web ページより引用。

<<https://www.courrierinternational.com/breve/2012/11/19/une-declaration-des-droits-de-l-homme-qui-ne-convainc-personne>> 19/11/2012

⁹³ web ページより引用。

<<http://www.lejdd.fr/International/Afrique/Actualite/Villepin-Non-la-guerre-ce-n-est-pas-la-France-585627>> 15/01/2013

⁹⁴ web ページより引用。

<http://lebuzz.eurosport.fr/article/le-dr-house-n-est-pas-fan-du-barca-au-contraire_a2039/1> 31/03/2014

⁹⁵ web ページより引用。

<<http://www.laprovence.com/article/actualites/2542996/impots-marseille-toujours-parmi-les-villes-les-plus-cheres.html>> 23/09/2013

⁹⁶ web ページより引用。

<<http://leplus.nouvelobs.com/contribution/1240805-netflix-debarque-en-france-les-teles-ne-vont-pas-en-mourir-bien-au-contraire.html>> 16/09/2014

⁹⁷ web ページより引用。

<<http://click-eat.fr/blog/2014/08/19/obliges-de-supprimer-les-frites-pour-garder-la-forme-au-cont>

raire/> 19/08/2014

⁹⁸ web ページより引用。

<http://www.lemonde.fr/idees/article/2014/08/26/la-purge-gouvernementale-ne-regle-rien-au-contraindre_4476817_3232.html> 26/08/2014

⁹⁹ web ページより引用。

<<http://www.purebreak.com/news/apple-va-fermer-20-apple-store-la-crise-au-contraindre/53268>> 13/02/2013

¹⁰⁰ web ページより引用。

<<http://www.carevox.fr/nutrition-regimes/article/la-banane-fait-elle-grossir-non-au>> 15/07/2009

¹⁰¹ web ページより引用。

<<http://www.courrier-picard.fr/region/nesle-le-p-tit-baltar-ne-va-pas-fermer-au-contraindre-ia183b0n440738>> 24/09/2014

¹⁰² web ページより引用。

<<http://www.lematin.ch/euro2016/international/vivement-commence/story/31939200>> 2016.7.30

¹⁰³ web ページより引用。

<<http://www.journaldugeek.com/2016/04/12/fbi-pas-fini-apple>> 12/04/2016

¹⁰⁴ web ページより引用。

<<http://www.gamalive.com/actus/28132-etude-jeu-en-ligne-dependance-sociabilite.htm>> 21/04/2016

¹⁰⁵ web ページより引用。

<<https://www.franceinter.fr/emissions/la-marche-de-l-histoire/la-marche-de-l-histoire-07-juin-2016>> 2016.7.30

¹⁰⁶ web ページより引用。

<<http://www.laprovence.com/article/faits-divers-justice/3914550/bouches-du-rhone-un-traffic-de-pieces-de-voitures-demantele.html>> 2016.7.30

¹⁰⁷ web ページより引用。

<<http://www.journaldemontreal.com/2016/06/08/hillary-la-femme-du-moment>> 2016.7.30

¹⁰⁸ web ページより引用。

<<http://www.marianne.net/contre-accueil-refugies-nadine-morano-s-prend-meme-au-pape-100242202.html>> 2016.7.30

¹⁰⁹ web ページより引用。

<http://www.liberation.fr/debats/2016/07/17/arretons-de-crier-au-calife-comme-on-crie-au-loup_1466441> 2016.7.30

¹¹⁰ web ページより引用。

<http://www.lemonde.fr/cinema/article/2016/03/08/the-assassin-la-melancolie-de-la-tueuse-au-sabre_4878351_3476.html#8jFr81gZe0svGWQF.99> 2016.7.30

¹¹¹ web ページより引用。

<<http://www.actugaming.net/test-yoshis-woolly-world-wii-u-15016/>> 2016.7.30

¹¹² web ページより引用。

<<http://www.cosmopolitan.fr/la-francaise-moyenne-fait-62-4kg-pour-1m62,1914893.asp>> 2016.7.30

113 web ページより引用。

<<http://www.capital.fr/a-la-une/politique-economique/delaware-10-chiffres-pour-mieux-cerner-c-e-havre-fiscal-en-plein-caeur-des-etats-unis-1124737>> 2016.7.30

114 web ページより引用。

<<http://www.leparisien.fr/sports/football/euro-2016/sous-bonne-escorte-10-06-2016-5870357.php>> 2016.7.30

115 web ページより引用。

<<http://www.sudinfo.be/1564370/article/2016-05-04/ce-jeune-homme-est-a-l-origine-d-une-des-r-uptures-les-plus-brutales-et-les-plus>> 2016.7.30

116 web ページより引用。

<<http://www.nordeclair.be/1592224/article/2016-06-07/boum-boum-badaboum-dans-les-rues-de-mouscron-ce-week-end>> 2016.7.30

117 web ページより引用。

<<http://www.metronews.fr/culture/adieu-mot-de-passe-sur-france-2-c-est-nagui-qui-prend-le-relais-avec-n-oubliez-pas-les-paroles/mped!vHdUj9QXmdg/>> 2016.7.30

118 web ページより引用。

<http://www.maxisciences.com/cancer/un-vaccin-universel-contre-le-cancer-montre-des-resultats-prometteurs_art38069.html> 2016.7.30

119 次のような例において là は前方照応的である : Ne voyez là aucune malveillance. ; La santé, tout est là ! (共に『小学館ロベール仏和大辞典』)

120 loin de là を連結辞として扱うことが出来ないという点に関しては、Simon Tuchais 先生（上智大学）から次のような論拠もご教示いただいた。まず、loin de là が au contraire と共起する場合がある : Comprenez donc que ce n'est pas vous qui m'êtes odieux, monsieur Fanning, bien loin de là. Vous m'inspirez au contraire une sympathie dont vous ne soupçonnez pas la force. (Mauriac, *Asmodée*, 1938, III, 6 : 114) これは loin de là が連結辞である au contraire と同じパラダイムには存在しないことを意味する。そして、(ne ~ pas,) loin de là は être loin de *inf.* で言い換えられる場合がある。例えば、(148) Le FBI n'en n'a pas fini avec Apple... Loin de là を Le FBI est loin d'en avoir fini avec Apple. と書き換えても文の意味するところは変わらない。前者においては Loin de là が後から付け加えられることによって、最終的に後者と同価値の文を作っているとすれば、その作用範囲はあくまで述語内に収まっていると考えるのが妥当だろう。

121 au contraire 以外の連結辞のディアログ用法に関しては、Hamma et Haillet (2002 : 107) が par contre に関して、次のような用法を指摘している : *Par contre*, la Volvic, il va falloir la sortir ! これは、ある種類のミネラルウォーターが会計時に買い物カートからレジベルトに移す必要がないという特権を与えられているスーパーにおいて、その特権を与えられていないボルヴィックを買い物カートから出していない客に対して店員が発する発話である。この発話は par contre で始められ、言外に「クリスタリーヌであれば買い物カートから出す必要はありません」といったような前件が暗示されている。また、類似の例として Simon Tuchais 先生（上智大学）からは次のような例をご提供いただいた : Une employée vient vers moi et me dit : « *Par contre* je vais vous demander de sortir car nous n'acceptons pas les femmes voilées et c'est un salon privé et cela fait partie du règlement intérieur ». これはインターネットフォーラムにおける用例である。なお、4.1.2.節では par contre と en revanche の意味論的な差異について検討した。このような用法は en revanche には見られない。しかし、口語表現、あるいはくだけた表現であるこの用法が意味論的

差異に起因するものかどうかは不明である。

¹²² この仏訳の元の日本語は、「それどころか」で文が切れており、日本語としてはやや不自然であるが、文意は通じるのでそのまま引用する。なお他の和仏辞典では、『スタンダード和仏辞典』が「それどころか」の訳語として *loin de là* を挙げている。

¹²³ web ページより引用。

<http://www.montres-de-luxe.com/Paris-ville-dangereuse-pour-les-montres-de-luxe_a11766.html> 2016.7.30

¹²⁴ web ページより引用。

<<http://digital.asahi.com/articles/DA3S11805701.html>> 2016.7.30

¹²⁵ 服部 (2005) の言う「Q が[^]P よりも下限が高い」とは、Q が[^]P より下方に向かって位置づけられる、という意味である。これ以降、この[^]P と Q の関係性を、下方に高段階と述べることにする。

¹²⁶ #という記号は服部 (2005) が用いているもので、これといった言及はないものの、? よりも強い文の不自然さを示しているものと思われる。

¹²⁷ ここで言う「主張として存在する」とは、連結辞を取り巻く論証の動きの中で独立した項を形成していることを意味する。

¹²⁸ 口語表現ではあるが、次の例のように、「というか(ていうか)」といった前言を撤回、修正する表現を用いれば (26-28) における文の不自然さはなくなる。

ex. a. 帰ってないよ。というか来ていないよ。

b. 良を取れなかった。というか試験自体が無くなってしまった。

c. 彼は[野球が]うまくない。というかまだ2歳だ。

¹²⁹ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/SDI201510257291.html>> 2016.7.30

¹³⁰ web ページより引用。

<http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CPRT201513825.html> 2016.7.30

¹³¹ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/SDI201512104752.html>> 2016.7.30

¹³² web ページより引用。

<http://www.asahi.com/and_M/interest/SDI2016031411561.html> 2016.7.30

¹³³ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/SDI201509252982.html>> 2016.7.30

¹³⁴ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/DA3S11878783.html>> 2016.7.30

¹³⁵ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/SDI201511059800.html>> 2016.7.30

¹³⁶ web ページより引用。

<<http://webronza.asahi.com/science/articles/2015071900002.html>> 2016.7.30

¹³⁷ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/DA3S12271073.html>> 2016.7.30

¹³⁸ web ページより引用。

<<http://www.asahi.com/articles/DA3S12004947.html>> 2016.7.30

参考文献

- Anscombre, J.-C., Haillet, P. P. et Donaire M. L. (éds.) (2018) : *Opérateurs discursifs du français*, 2, Peter Lang.
- Berrendonner, A. (1982) : *Élément de pragmatique linguistique*, Les Éditions de Minuit.
- Beyssade, C. (2006) : « Les définis génériques en français: noms d'espèces ou sommes maximales », C. Dobrovie-Sorin (éd.), *Noms nus et généricité*, Presses universitaires de Vincennes : 33-63.
- Combettes, B. (2003) : « *Au contraire, en revanche, par contre* : aspects diachroniques », P. Péroz (éd.), *CONTRE : identité sémantique et variation catégorielle*, Université de Metz, 269-287.
- Danjou-Flaux, N. (1980) : « AU CONTRAIRE, PAR CONTRE, EN REVANCHE. Une évaluation de la synonymie. », *Bulletin du Centre d'Analyse du discours*, 4 : 123-148.
- (1983) : « *Au contraire*, connecteur adversatif », *Cahiers de linguistique française*, 5 : 275-303.
- Delatour et alii (1991) : *Grammaire du Français Cours de civilisation française de la Sorbonne*, Hachette.
- Ducrot, O. (1972) : *Dire et ne pas dire. Principe de sémantique linguistique*, Hermann.
- (1981) : *Les Mots du discours*, Les Editions de Minuit.
- (1984) : *Le Dire et le dit*, Les Éditions de Minuit.
- Flaux, N. (2003) : « AU CONTRAIRE (de) et le sens de CONTRE », *Recherches Linguistiques*, 26 : 289-309.
- Grevisse, M. (1980) : *Le Bon Usage*, 11, Duculot.
- Haillet, P. P. (2007) : *Pour une linguistique des représentations discursives*, De Boeck Supérieur.
- Hamma, B. et Haillet, P. P. (2002) : « Par contre : un type particulier de dynamique

- discursive », *Revue des linguistes de l'Université Paris X Nanterre*, 46 : 103-113.
- Kida, K. (2002) : « Le concept d'argumentation interne : à quoi ça sert ? », Carel, M. (éd.), *Les facettes du dire, Hommage à Oswald Ducrot*, Kimé : 157-165.
- Masseron, C. et Wiederspiel, B. (2001) : « Contrastivité adverbiale : AU CONTRAIRE, CONTRAIREMENT À, PAR CONTRE », *Recherches Linguistiques*, 26 : 311-341.
- Paillard, D. et Vu Thi Ngan (2012) : *Inventaire raisonné des marqueurs discursifs du français*, Éditions de l'Université nationale de Hanoï.
- Riegel, M. et alii (1994) : *Grammaire méthodique du français*, PUF.
- Rossari, C. (2000) : *Connecteurs et relations de discours : des liens entre cognition et signification*, Presses Universitaires de Nancy.
- Sini, L. (1997) : *Les connecteurs argumentatifs et contre-argumentatifs Analyse contrastive français-italien*, Presses Universitaires de Lille.
- Watanabe, J. (2006) : « Addition quantitative, addition qualitative et la locution *non seulement* », Kawaguchi, Junji et alii (éds.) *Cognition et émotion dans le langage*, 慶応義塾大学 (21 世紀 COE 心の統合的研究センター) : 191-205.
- 池上嘉彦 (1998) : 「<モノ>と<トコロ>—その対立と反転」 東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集編集委員会編『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』, 汲古書院 : 864-887.
- 小熊和郎 (1993) : 「<トコロダ>と aller, venir de, être en train de + infinitif—アスペクトとモダリティの関連を巡って」『西南学院大学フランス語フランス文学論集』 29, 西南学院大学学術研究所 : 139-175.
- 川端元子 (2014) : 「程度表現「P どころか Q」における反期待の構造」『愛知工業大学研究報告』 49, 愛知工業大学 : 71-78.
- 黒川尚彦 (2012) : 「on the contrary の意味と対立関係」『日本語用論学会第 15 回大会発表論文集』, 日本語用論学会 : 49-56.
- 田代雅幸 (2012) : 「フランス語の au contraire に関する一考察」『筑波大学フランス語・フランス文学論集』 27, 筑波大学フランス語・フランス文学研究会 : 11-28.
- (2013) : 「フランス語 au contraire のモノログにおける用法について」『筑波大学

- フランス語・フランス文学論集』28, 筑波大学フランス語・フランス文学研究会 : 107-130.
- (2014 a) : 「フランス語の副詞句 *au contraire* の論証的な用法について」『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』23, 日本フランス語フランス文学会関東支部 : 1-13.
- (2014 b) : 「*au contraire* をめぐる論証の動きについて」『筑波大学フランス語・フランス文学論集』29, 筑波大学フランス語・フランス文学研究会 : 97-106.
- (2015) : 「フランス語 *au contraire* の対話的構造について」『筑波大学フランス語・フランス文学論集』30, 筑波大学フランス語・フランス文学研究会 : 22-43.
- (2016 a) : 「*à l'inverse* と *à l'opposé* について」『筑波大学フランス語・フランス文学論集』31, 筑波大学フランス語・フランス文学研究会 : 94-104.
- (2016 b) : 「「それどころか」と *loin de là* の比較研究」『フランス語学の最前線』5, ひつじ書房 : 231-268.
- (2017 a) : 「対立を表す3つの連結辞」『フランス語フランス文学研究』110, 日本フランス語フランス文学会 : 57-71.
- (2017 b) : 「連辞 *par contre* と *en revanche* について」『筑波大学フランス語・フランス文学論集』32, 筑波大学フランス語・フランス文学研究会 : 26-44.
- 服部匡 (1995) : 「「～どころか（どころではない）」等の意味用法について」『同志社女子大学日本語日本文学』7, 同志社女子大学日本語日本文学会 : 43-58.
- 服部匡 (2005) : 「「～どころか（どころではない）」再論」『総合文化研究所紀要』22, 同志社女子大学総合文化研究所（学術研究推進センター） : 165-174.
- 髭・川島・渡邊（編著）安西・小倉・酒井（著）(2011) : 『フランス語学小事典』, 駿河台出版社.
- 森田良行 (1989) : 『基礎日本語辞典』, 角川書店.
- 渡邊淳也 (2015) : 「論証的ポリフォニー理論をめぐって」『フランス語学の最前線』3, ひつじ書房 : 275-304.

使用辞書（例文出典）

Académie française : *Dictionnaire de l'Académie française*, 9. <<https://academie.atilf.fr/9/>>

CNRS éditions (1971-1994) : *Trésor de la Langue Française informatisé*. <<http://atilf.atilf.fr/tlf.htm>>

É. Littré (1863-1872 pour la 1^{re} édition, 1873-1877 pour la 2^{nde}) : *Dictionnaire de la langue française*.

Dubois J., Lagane R., Niobey G., Casalis d., Casalis J., Meschonnic H. (1971) : *Dictionnaire du français contemporain*, Larousse.

朝倉季雄他（編）（1981）：『スタンダード和仏辞典』11，大修館書店．

大槻鉄男他（編）（1983）：『クラウン仏和辞典』2，三省堂．

重信常喜他（編）（2003）：『コンサイス和仏辞典』3，三省堂．

小学館ロベール仏和大辞典編集委員会（編）（1988）：『小学館ロベール仏和大辞典』，小学館．

松村明（編）（1995）：『大辞泉』，小学館．

参考資料：4.1.節「par contre と en revanche」の記事 URL

par contre

- 1) <http://www.ladepeche.fr/article/2017/07/24/2617017-la-2e-division-anglaise-et-son-pouvoir-d-attraction.html>
- 2) <http://www.rtl.be/people/buzz/un-forme-bizarre-observee-par-des-automobilistes-la-chose-la-plus-bizarre-que-j-ai-jamais-vue-video--938547.aspx>
- 3) <http://www.lavoixdunord.fr/195728/article/2017-07-24/un-mois-de-prison-avec-sursis-apres-un-pugilat-la-fin-d-un-match-de-foot-feminin>
- 4) http://www.lavenir.net/cnt/dmf20170727_01034671/des-coursiers-de-deliveroo-protestent-contre-leurs-conditions-de-travail
- 5) <http://www.lereflitulac.com/actualites/2017/7/27/-un-cycliste-ne-gagnera-ja-mais-contre-un-camion---un-adepte-du-v.html>
- 6) <http://journalmetro.com/actualites/national/1175917/un-avion-aurora-retire-du-combat-contre-daech/>
- 7) <http://sport24.lefigaro.fr/football/ligue-2/actualites/comment-suivre-la-l2-et-5-autres-questions-sur-la-nouvelle-saison-869946>
- 8) <http://www.20minutes.fr/sport/2110591-20170728-video-euro-feminin-bon-passe-o-joga-bonito-equipe-france>
- 9) <http://www.ledauphine.com/france-monde/2017/07/28/au-large-de-la-namibie-20-000-diamants-sous-les-mers>
- 10) <http://www.lefigaro.fr/politique/le-scan/2017/07/26/25001-20170726ARTFIG00084-contre-l-avis-du-gouvernement-les-deputes-se-premunissent-de-l-emprise-des-lobbies.php>
- 11) <http://www.dhnet.be/sports/football/division-1a/un-grand-bolat-contraint-anderlecht-au-nul-hanni-frustre-par-un-antwerp-qui-dejoue-0-0-597b6b6acd70d65d250b05c0>
- 12) <http://www.journaldequebec.com/2017/07/28/etude-boire-de-lalcool-plusieurs-fois-par-semaine-aiderait-a-contrer-le-diabete>

- 13) <http://www.telerama.fr/cinema/fight-club-le-film-recommande-ce-week-end-par-telerama-vodkaster,161206.php>
- 14) <http://www.lefigaro.fr/flash-eco/2017/07/28/97002-20170728FILWWW00213-eo-lien-la-justice-valide-le-parc-au-large-de-saint-nazaire.php>
- 15) <https://www.medias24.com/MAROC/SOCIETE/175442-Dolmy-le-vrai-Maalem-raconte-par-ceux-qu-ils-l-ont-connu.html>
- 16) <http://www.rtl.be/sport/tous-les-sports/auto-moto/rallye-de-finlande-lappi-en-te-te-a-l-issue-de-la-premiere-journee-940006.aspx>
- 17) <http://www.zonebourse.com/NESTLE-9365334/actualite/Nestle-manque-les-at-tentes-au-1er-semester-severement-reprime-par-les-analystes-24833773/>
- 18) <http://www.laprovince.be/1896768/article/2017-07-29/dour-une-remise-et-un-box-de-garage-detruits-par-le-feu>
- 19) <http://www.rds.ca/baseball/mlb/mlb-cooperstown-est-assailie-par-des-partisans-aux-couleurs-des-expos-1.4592524>
- 20) <http://www.ladepeche.fr/article/2017/07/30/2620344-ce-que-la-loi-va-changer.html>
- 21) <http://www.ladepeche.fr/article/2017/07/30/2620339-610-km-de-bouchons-cumules-hier.html>
- 22) <http://www.lesoir.be/106955/article/2017-07-29/chasse-croise-sur-les-routes-un-samedi-noir-plus-calme-que-prevu>
- 23) <http://www.coupdœil.info/actualites/2017/8/6/150---en-cinq-ans--le-prix-des-terres-agricoles-poursuit-sa-flam.html>
- 24) <http://www.tvnouvelles.ca/2017/08/06/pas-assez-de-toilettes-pour-les-personnes-a-mobilite-reduite>
- 25) <http://information.tv5monde.com/info/conquete-spatiale-la-chine-nouvel-acteur-incontournable-184844>
- 26) <http://www.tvasports.ca/2017/08/05/denis-shapovalov-en-confiance-a-la-coupe-rosiers>

- 27) <https://www.lexpress.mu/article/313452/metro-express-pour-eux-metro-nest-pas-trop>
- 28) https://www.rtb.be/sport/football/belgique/jupilerproleague/detail_courtrai-s-impose-contre-lokeren-waasland-beveren-et-malines-partagent?id=9676989
- 29) <http://www.985fm.ca/actualites/nouvelles/les-objets-saisis-a-l-aeroport-de-mont-real-finance-849059.html>
- 30) <http://www.sudinfo.be/1902598/article/2017-08-06/un-jeune-brabancon-wallon-decede-dans-un-accident-en-allemande>
- 31) <http://www.footballclubdemarseille.fr/om-actualites/ligue-1/om-dijon-3-0-marseil-le-reussit-son-entree.html>
- 32) <http://www.nintendo-master.com/news/dragon-quest-xi-sortira-sur-switch-quand-le-moment-sera-venu>
- 33) <https://pxlbbq.com/dragon-quest-builders-2-annonce-on-ne-sait-ps4-switch/>
- 34) <http://www.parisfans.fr/autour-du-psg/bartomeu-neymar-club-a-a-cheikh-oligarque-288286.htm>
- 35) <http://www.footballclubdemarseille.fr/om-fil-info/om-les-tableaux-mercato-actuelles-de-ce-samedi-0408.html>
- 36) <https://www.moniteurautomobile.be/actu-auto/sport-auto/alfa-romeo-maserati-formule-e.html>
- 37) <https://www.hrw.org/fr/news/2017/07/27/tunisie-une-etape-decisive-pour-protger-les-femmes-contre-la-violence>

en revanche

- 1) <http://www.bfmtv.com/sante/pourquoi-le-jus-de-pamplemousse-est-deconseille-en-cas-de-traitement-medicamenteux-1222874.html>
- 2) <http://www.caradisiac.com/toyota-prepare-une-electrique-a-recharge-ultra-rapide-161655.htm>
- 3) http://www.eurosport.fr/football/ligue-europa/2017-2018/avec-un-germain-en-feu-l-om-a-fait-le-break-contre-ostende-4-2_sto6269121/story.shtml

- 4) <http://www.europe1.fr/sport/mondiaux-de-natation-mehdy-metella-en-bronze-sur-100-m-3398696>
- 5) <http://www.lefigaro.fr/flash-eco/2017/07/27/97002-20170727FILWWW00316-la-gardere-rentabilite-au-1s-en-progres.php>
- 6) <http://paperjam.lu/news/plus-delecteurs-moins-de-participation>
- 7) <http://www.rfi.fr/asie-pacifique/20170728-liste-noire-coree-sud-prison-ex-secretaire-cabinet-park-kim-ki-choon>
- 8) http://www.liberation.fr/futurs/2017/07/27/stx-paris-sort-l-arme-de-nationalisation-massive_1586725
- 9) <http://tempsreel.nouvelobs.com/en-direct/a-chaud/40111-sante-quarante-spermatozoides-diminue-moitie.html>
- 10) http://www.lemonde.fr/football/article/2017/07/29/football-feminin-les-pays-bas-qualifies-en-demi-finales-le-quart-danemark-allemagne-reporte_5166540_1616938.html#meter_toaster
- 11) http://www.lemonde.fr/les-decodeurs/article/2017/07/29/sept-questions-pas-si-bes-tes-que-vous-vous-posez-sur-le-corps-humain_5166537_4355770.html
- 12) <http://www.lavoixdunord.fr/198436/article/2017-07-29/un-samedi-moins-noir-que-prevu-sur-les-routes-des-vacances>
- 13) <http://www.ouest-france.fr/sport/rugby/super-rugby-les-crusaders-en-finale-5162186>
- 14) <https://www.rts.ch/info/regions/valais/8807878-la-passerelle-suspendue-la-plus-longue-du-monde-inauguree-en-valais.html>
- 15) <https://www.francebleu.fr/infos/transports/en-mayenne-des-embouteillages-seulement-sur-les-aires-d-autoroutes-1501350562>
- 16) http://www.lemonde.fr/asie-pacifique/article/2017/07/29/la-secheresse-en-coree-du-nord-accentue-la-crise-alimentaire_5166441_3216.html
- 17) <http://www.lavoixdunord.fr/198455/article/2017-07-29/natation-en-superstar-l-americain-dressel-se-couvre-d-or-trois-reprises>

- 18) <http://sport24.lefigaro.fr/football/transferts/actualites/le-barca-pret-a-denoncer-le-psg-aupres-de-l-uefa-dans-l-affaire-neymar-870243>
- 19) <http://www.rtl.be/info/monde/international/tentative-de-coup-d-etat-en-turquie-ouverture-du-plus-grand-proces-de-putschistes-presumes-dont-fethullah-gulen-940729.aspx>
- 20) <http://www.rtl.fr/actu/societe-faits-divers/meteo-france-place-14-departements-en-vigilance-orange-aux-orages-7789551538>
- 21) <http://www.bfmtv.com/planete/selon-une-etude-dormir-longtemps-favorise-les-cauchemars-1227867.html>
- 22) <http://www.bfmtv.com/international/mousson-en-inde-21-personnes-mortes-foudroyees-1227825.html>
- 23) <http://www.leparisien.fr/transports/pagaille-a-montparnasse-tout-savoir-sur-le-remboursement-en-cas-de-retard-31-07-2017-7167432.php>
- 24) http://www.liberation.fr/france/2017/07/31/l-agresseur-d-une-deputee-en-marche-condamne-a-un-mois-d-emprisonnement-ferme_1587406
- 25) <http://www.p.nintendo.com/news/rime-n-a-toujours-pas-de-date-mais-en-revanche-il-a-un-beau-collector-248341>
- 26) http://www.huffingtonpost.fr/docteur-f/pourquoi-il-est-parfois-si-difficile-de-demontrer-les-arguments-c_a_23060279/
- 27) <http://www.lci.fr/societe/meteo-france-orages-l-alerte-orange-levee-pour-l-ensemble-des-departements-2060792.html>
- 28) <http://www.bfmtv.com/mediaplayer/video/info-bfmtv-il-n-y-aura-pas-de-statut-pour-brigitte-macron-mais-une-charte-de-la-transparence-970413.html>
- 29) <http://www.foot01.com/equipe/ol/ol-des-fans-de-strasbourg-agresses-lyon-mene-l-enquete,255747>
- 30) <https://www.presse-citron.net/google-discours-sexiste-a-legard-femmes-monde-de-technologie/>
- 31) <http://www.lci.fr/societe/comment-sont-fabriques-les-chateaux-gonflables-20608>

64.html

- 32) https://www.challenges.fr/media/disney-lache-netflix-pour-lancer-sa-propre-pla-teforme-de-streaming_492301
- 33) <http://bfmbusiness.bfmtv.com/entreprise/ce-qu-on-economiserait-en-faisant-vo-ler-les-avions-sans-pilote-1233124.html>
- 34) <http://o.nouvelobs.com/voyage/20170809.OBS3182/et-si-on-partait-en-vacances-a-l-hotel-de-dirty-dancing.html>
- 35) http://www.liberation.fr/futurs/2017/08/09/ufs-contamines-les-ovoproduits-dans-la-tourmente_1589072
- 36) <http://www.sudouest.fr/2017/08/10/le-vignoble-en-tuk-tuk-3684291-2780.php>
- 37) http://www.lemonde.fr/societe/article/2017/08/09/accident-de-puisseguin-la-fabri-cation-des-autocars-mise-en-cause_5170438_3224.html
- 38) <http://www.sudouest.fr/2017/08/10/erosion-du-littoral-les-solutions-preconisees-3683874-4160.php>
- 39) <http://www.lefigaro.fr/actualite-france/2017/08/09/01016-20170809ARTFIG0018-4-carte-des-antipodes-qu-y-a-t-il-sous-vos-pieds.php>